

都之城縄張り図（八巻孝夫原図作成 文献4所収）

#### (24) 龍峯寺城

前项都之城の南東側に位置する。龍峯寺墓地の東側の台地端部に曲輪、空堀、土塁といった城郭構造が残る。

繩張り図は下記文献に掲載されている。

##### 文献

- 1 ) 千田嘉博 「龍峯寺城跡」『都城市の中世城館 都城市文化財調査報告書第45集』 1998  
都城市教育委員会

#### (25) 大岩田城

大淀川と支流の梅北川の合流点近くの台地端部に立地する。一部、国道建設により破壊を受けている。

台地続きとなる南端部に空堀を設け、その北側に比較的大きな曲輪を配置している。さらにその北側は一段高くなっている、そこは「弓場（ゆんば）」と呼ばれる。

国道の北側も小さな段状部分が見られるが、往時のものかどうかは、不明。

#### (26) 古城

字名が残るのみで、遺構は不明瞭。

#### (27) 六ヶ城

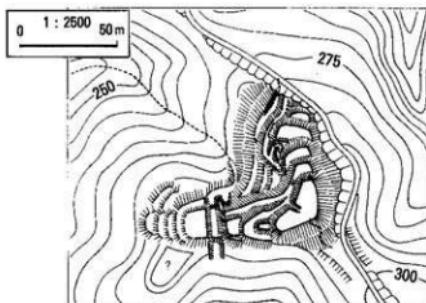
北方向に突き出た丘陵上に立地する山城である。都城盆地の外縁部に位置する。最高所の標高は305m。

階段状に築かれた曲輪によって防御を固めるもので、残存状況は良い。主郭の背後（南東側）はもともと鞍部となっており、約6mの比高差を持つが、さらに斜面に手を加えて急傾斜の切岸に仕立てられている。西側の尾根上の曲輪は空堀により切断される。

室町時代後期の北郷時久の頃、「北郷氏日記」にあらわれれる。

##### 文献

- 1 ) 千田嘉博 「六ヶ城跡」『都城市の中世城館 都城市文化財調査報告書第45集』 1998  
都城市教育委員会



六ヶ城繩張り図（千田嘉博原図作成 文献 1所収）

#### (2) 池平城

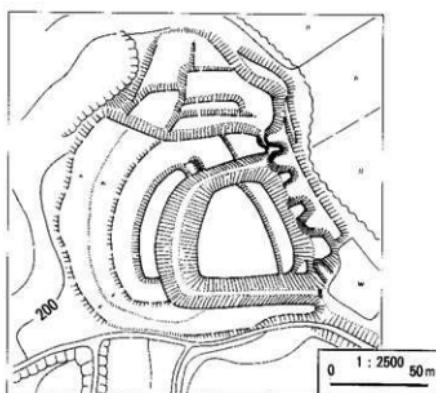
六ヶ城の北西約1kmの、北方向にのびるなだらかな丘陵先端部に立地する。

大きな主郭部を取り巻くように空堀や腰曲輪を配している。主郭まわりの空堀は特に大きく幅約20mに及ぶ。主郭の東側には4か所の段状部分が見られる。

池平城の名は室町時代中期に『鬼束文書』にあらわれる。城主は福永氏と言われるが定かでない。

##### 文献

- 1) 千田嘉博 「池平城跡」『都城市の中世城館 都城市文化財調査報告書第45集』 1998  
都城市教育委員会



池平城縄張り図（千田嘉博原図作成 文献1所収）

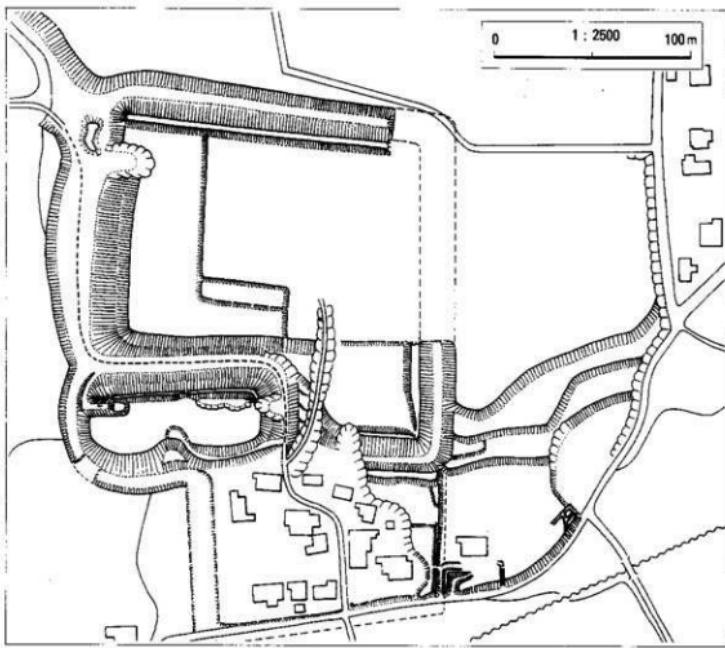
#### (4) 梅北城

台地の端部近くに立地する。標高は168m。「庄内地理誌」によれば、当城は「中之城」「新城」「飛永城」「上村城」の4区画により構成されていた。うち「上村城」は南西側に突き出た部分にあり、現在は削平され、旧状をとどめない。

「新城」は周囲を大規模な空堀や土塁に囲まる。その東側が埋め立てられるなど、破壊が進行している。「中之城」は北側に土塁を築き、さらに北隣の「新城」との間に大規模な空堀を設定するなど、北側に対する防御意識の高さが観察される。虎口は2か所認められる。

##### 文献

- 1) 千田嘉博 「梅北城跡」『都城市の中世城館 都城市文化財調査報告書第45集』 1998  
都城市教育委員会



梅北城縄張り図（千田嘉博原図作成 文献1所収）

(30) 下久保

台地端部にあたる。平季基の館跡との伝承が残るが、遺構等は確認できない。

(31) 天ヶ峰陣

都城盆地南端部の山丘頂部（標高354m）にわずかに平坦地が認められるが、詳細は不明である。

(32) 山之城

『庄内地理誌』に記載があるが、位置の特定ができていない。

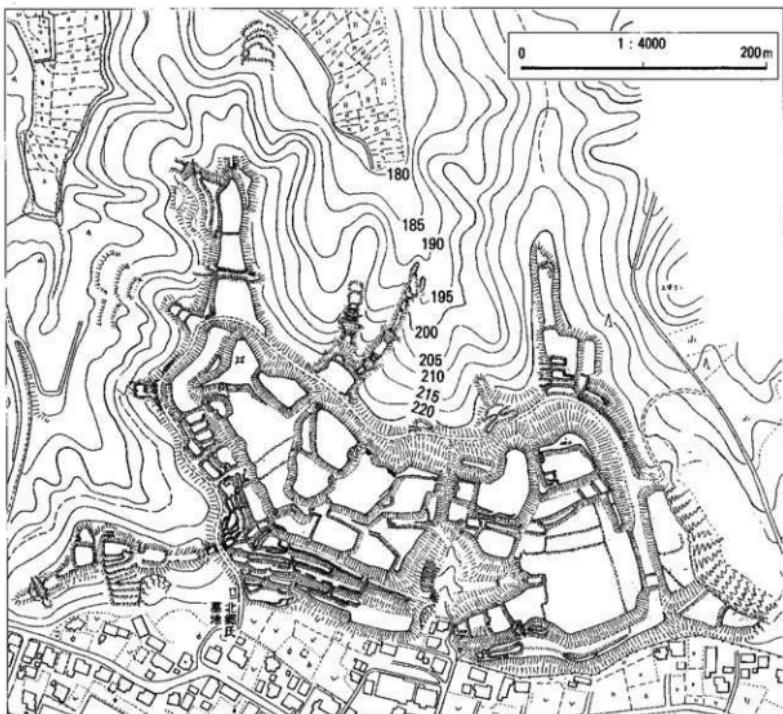
40 北諸県郡三股町

(1) 餅原ヶ城

「山之口名勝誌」に記載のある「餅原ヶ城」か。

(2) 梶山城

梶山集落北方の、標高約240mの台地上に立地する。



梶山城縄張り図（八巻孝夫原図作成）

独立性の高い4つの曲輪より構成されており、「庄内地理誌」の絵図に描かれた状況と符合する。曲輪には「内城」「二の丸」「中ノ丸（仮屋城）」「杖房」という呼称が付いている。

島津氏一族の権山氏が築いたとされる。その後、応永～嘉吉年間頃は高木氏が領していた。一時伊東氏の勢力が入ったが、永く島津氏一族の勢力下にあった。庄内の乱の際には伊集院氏方の長崎休兵衛が当城を守った。

#### (3) 北殿城

沖水川左岸の丘陵端部に立地する。城館関連の伝承がある。

#### (4) 勝岡城

勝岡集落の南方、沖水川に向かって張り出す丘陵端部にある。標高は約210m。

権山氏が築き、一時伊東氏勢力が入った。庄内の乱の際には伊集院氏方の拠点となり、伊集院如真入道、朝倉十助、中俣玄蕃等が当城を守った。近世には、鹿児島藩の地頭仮屋が麓に置かれた。

#### (5) 権山城

宮田池西方の丘陵端部に立地する。西側は公園建設により破壊を受けている。主郭と見られる曲輪は良好な形で遺存しており、南側に取り付く虎口やその南側の虎口空間が認められる。主郭の東側は急峻な切岸を形成しており、現在小径が通るところは堀切であったと見られる。



権山城縄張り図（吉本正典原図作成）

#### (6) 古堀

年見川沿いに城館関連と見られる字名が残るが、市街地化が進み、遺構は不明瞭。

#### 41 北諸県郡山之口町

##### (1) 山之口城【亀鶴三石城】

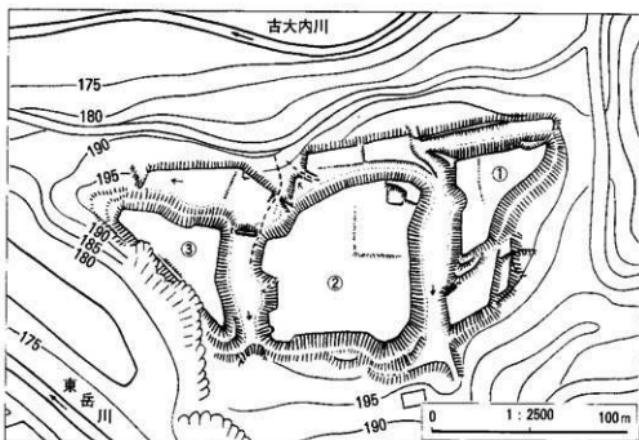
大淀川支流の小河川が合流する地点の東岸台地上にある。城域の南西側の河川に面するところは急崖を成しており、天然の障壁となっている。なお、東側には「城山」という名称の山丘があるが、そこには明瞭な城郭遺構はなく、のろし台と伝えられる。

城域は2本の大きな空堀で区切られた、標高のほぼ等しい(200m~211m)3つの曲輪が中心となる。うち中央の曲輪が主郭と見られ、その北東部には櫓台が認められる。櫓台の部分は現在溜池状の窪地となっている。北側には空堀や帯曲輪が巡る。空堀は幅30m程度の大規模なもので、台地立地型の城郭の典型例と言える。

当城は南北朝期に土肥平三郎実重が築城したとされ、伊東氏と島津氏の両勢力の接点近くにあるため、中世後期には攻防戦が繰り返された。天文元(1532)年には北郷忠相の領有するところとなり、庄内の乱の際に伊集院氏の勢力が拠点とした城郭の一つであった。近世に入ると鹿児島藩の外城(郷)となり、麓に地頭仮屋が置かれた。

##### 文献

1) 村田修三 「山之口城」『図説中世城郭事典』3 1987 新人物往来社



山之口城縄張り図（村田修三原図作成 文献1所収）

##### (2) 館ヶ野・佐渡屋敷

前項山之口城の北西の台地端部近くに、城館関連の字名が残る。現在は畠地となり、遺構は明瞭でない。

##### (3) 田原陣

庄内の乱の際に、山之口城攻めのために築かれた陣跡と伝えられる。現在は畠地となっている。

#### (4) 豊後陣【古砦】

山之口城の南方の丘陵上にあたる。『日向地誌』では単に「古砦」と記され、島津豊後守忠廣の兵が駐屯したため、この名が付いたとしている。

#### (5) 王子城

現在の山之口小学校地。南北朝期の城郭と伝えられるが、破壊も進み詳細は不明。

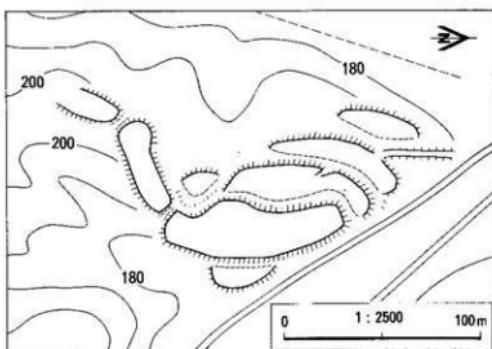
#### (6) 鶴ヶ城【城ノ平】

標高317mの山丘上に築かれる。地元では「城の平（ジョンデラ）」と呼ばれる。

2面の大きな曲輪に沿うように3つの小さな曲輪があり、その西側には大きな空堀や土塁も認められる。

#### (7) 俵ヶ城

前方地区東方の「又水」と呼ばれる一帯に所在する。標高206mの丘陵頂部を中心に、5面の曲輪が展開する。幅約3m、深さ約2mの明瞭な空堀が認められる。



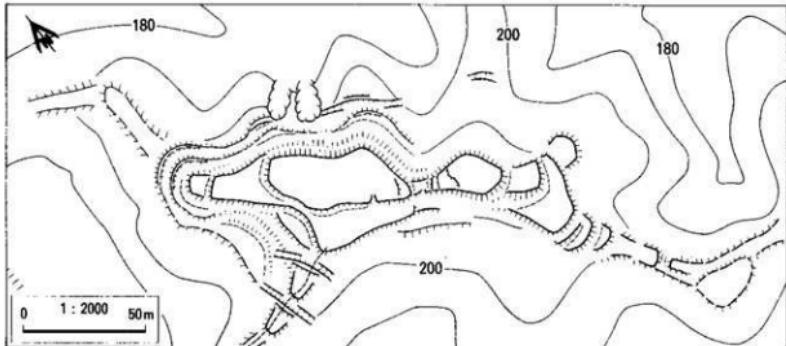
俵ヶ城縄張り図（山下博明原図作成）

#### (8) 三俣城

標高217mの山頂部の曲輪を中心に、4つの主要な曲輪が直線状に並ぶ。最高所の主郭と見られる曲輪と、その南東隣の曲輪との間には土橋状の狭隘部が見られる。北側の斜面には狭小な帶曲輪が巡っている。北側および南側の尾根には段状の小さな曲輪が築かれている。また四方にのびる尾根には要所に掘切を設け、進入路を絶っている。

当城は南北朝期に肝付兼重が築いたとされ、延文年間頃には畠山民部大輔が、明徳年間頃には和田氏、高木氏が居城したらしい。その後、伊東氏と島津氏による攻防戦を経て天文3（1534）年には北郷忠相の領有するところとなった。

公園化に伴い発掘調査が実施され、掘立柱建物や鍛冶工房跡と目される火凧、土坑等の遺構が検出され、土師器、陶磁器類など多くの遺物も出土している。なお、それらの遺構の一部は公園化により破壊されている。

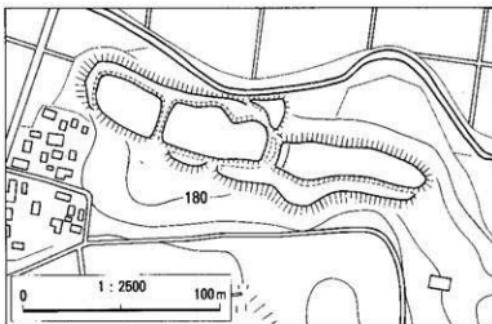


三股城縄張り図（千田嘉博原図作成 山之口町教育委員会提供）

#### (9) 七浦城

三俣城の南方約1.3kmの細長い形状の丘陵上にある。最高所の標高は182m、低地との比高差は16m程度である。

3つの曲輪を中心に構成され、それらを区切る2本の空堀が明瞭に残る。空堀は幅約5m、深さ約5m。北東側と南西側には帯曲輪が巡る。



七浦城縄張り図（山下博明原図作成）

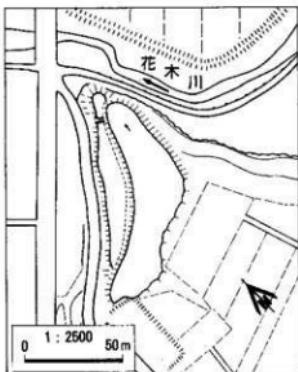
#### (10) 尼ヶ城

小さな独立状丘陵上にある。県道の東側の丘陵には城域は続いていかないようである。主郭と見られる頂部の曲輪の北側に腰曲輪状の平迫地が取り付く。

(1) 古城【魏ヶ城】

大淀川水系の花木川左岸に突き出た丘陵の突端部に立地する陣城。南～南東側はほぼ標高の等しい畠地が続く。細長い形状の曲輪と空堀が認められる。

庄内の乱の際に、徳川家康が島津氏に対して送った援軍が陣を構えたところとされ、「京出張（京陣原）」の通称地名が残る。

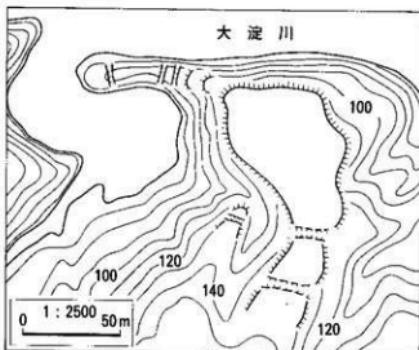


古城縄張り図（山下博明原図作成）

## 42 北諸県郡高城町

### (1) 平八重城

大淀川右岸の台地端部に立地する。北側は深い谷（現在はダム湖）に面する。主郭と推定される部分は開墾により削平されており、明瞭な遺構は存在しないが、谷部に下る尾根上に堀切が数か所認められる。また畠地部分に空堀があったという伝承があるが、地表面観察ではその痕跡は認められなかった。しかし、平成9年に実施された発掘調査により空堀の存在が実証された。



平八重城縄張り図（吉本正典原図作成）

### (2) 井ノ城

前項平八重城の西隣の台地上に立地する。現在は畠地となり遺構は不明瞭。

### (3) 山之城

北に突き出た台地近辺に「山之城」の字名が残る。主要部分と見られる畠地の南側に道路が通っており、そこが空堀の位置であろうか。また東側には一段低い腰曲輪状の平坦地もある。

### (4) 中丸

城館の存在を暗示する字名が残る。低地より一段高い台地地形を成している。ただし遺構は明瞭でない。

### (5) 古城【須田木城】

大淀川右岸の台地上に立地する。最高所の標高は172m。『日向地誌』に記載がある。

### (6) 下ノ城

前項古城の西隣の台地上にある。先端部は大淀川に張り出す。『日向地誌』によれば、周囲に三重の空堀を設けて守りを固めていたという。

明応4（1495）年に伊東氏が三俣院を手中にした際に、福永丹波守が当城に入った。

### (7) 小善城

丘陵の端部付近に「小善城」の字名が残る。数面の平坦地があるが、堀切等は認められない。

(8) 本城

有水川河岸の台地端部にあたる。台地面と、それより一段低い位置に平坦地が認められる。「日向地誌」に記された「松尾城」か。

(9) 三俣城

大淀川が蛇行する地点の右岸丘陵上に立地する。「道中記」に所在が記されている。

(10) 石山城

大淀川右岸の台地上にある。「道中記」には「四方堀、水の手西に在り」と記されている。

(11) 肥田木城

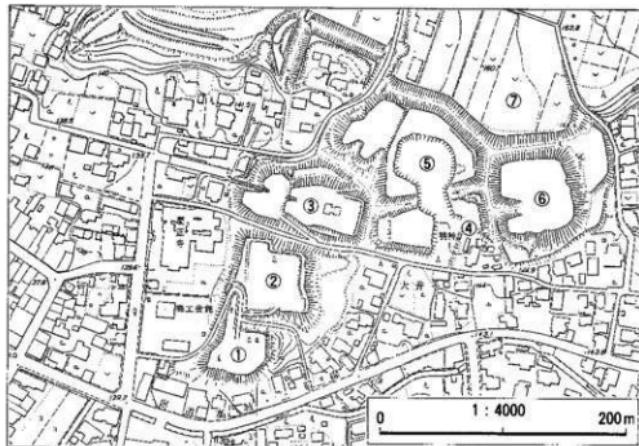
高城町市街地北方の台地上にあたる。現在は運動公園となり、旧状をとどめない。「日向地誌」によれば、伊東氏家臣の肥田木氏の居城であったという。

(12) 鶴ヶ城

高城町市街地に向かって張り出す形となる台地の端部に立地する。標高167mの頂部には現在、軍神社がある。頂部の主郭とその南側に平坦地が認められる。台地の続く北西側は宅地化が進んでいる。

(13) 高城【月山日和城】

高城町市街地北部の台地上に城郭を設定している。分布地図には縦構えというべき範囲を示しており、下図はその南端にあたる中心部分である。大規模な空堀で曲輪を区画する典型的な台地立地型の城郭で、①池の城、②内の城、③真城、④本城、⑤中の城、⑥櫓原という曲輪名が付されている。空堀の北側の、台地続きとなる⑦の付近は取添と呼ばれる。標高は157m～161mで、台地の標高とほぼ同じである。



高城縄張り図（村田修三原図作成 文献1所収）

当地一帯は、中世は三侯院に属しており、付近にその中心の院庁が置かれていたという。古くは南北朝期に肝付兼重が当城に拠ったとされる。その後和田氏、北郷氏、新納氏が入り、明応4（1495）年には伊東氏が三侯千町を得て、家臣の八代長門守を配した。やがて天文元（1532）年から3年にかけての攻防戦の結果、北郷氏が攻略に成功し、以降北郷氏の領有するところとなる。庄内の乱の際には伊集院氏方の比志島義智、小牟田清五左衛門が当城を守った。

文献

1) 村田修三 「高城」『図説中世城郭事典』3 1987 新人物往来社

(14) 大久保障

東岳川に向かって突き出た台地の端部にあたる。平坦地は認められるものの、遺構は明瞭でない。島津忠恒（家久）の陣跡と伝えられるところである。

(15) 小山城

花木川河岸の台地端部にあたる。「日向地誌」には伊東氏が三侯院を領有した頃、家臣の宮水六郎を配したと記されている。

### 43 北諸県郡山田町

#### (1) 山田城

「龍廻城」「朝霧城」とも称される。台地上に立地する城郭であるが、役場等の施設建設により大きく破壊されている。『庄内地理誌』には「本丸」「勢城」「西袴」「取添」と呼ばれる曲輪が描かれている。「本丸」と「勢城」の間には「城の谷」という谷が入る。また、「長堀」と呼ばれる延長1.3kmにも及ぶ長大な空堀が城域の西側を取り囲むように廻っていることも分かっており、その痕跡が地籍図にもあらわれ、一部は地表面にも残されているという（文献1）。

古くは北原氏の家臣白阪左衛門の居城であったが、永正一永年間に北郷氏が攻略している。北郷氏領の最前線にあたるため、北原氏との間で攻防戦が繰り返された。庄内の乱時は伊集院氏方の長崎休兵衛が当城を守った。

##### 文献

- 1) 北郷泰道 「北郷氏における中世城郭とその社会（その壱）－山田城跡と自分史－」  
『宮崎考古』石川恒太郎先生追悼論文集 1993 宮崎考古学会

#### (2) 薩摩自館

上古江集落北方の台地上にあたる。文和元（1352）年、島津氏一族の北郷資忠が足利氏より北郷の地を与えられ、当地に居館を築いたとされる。

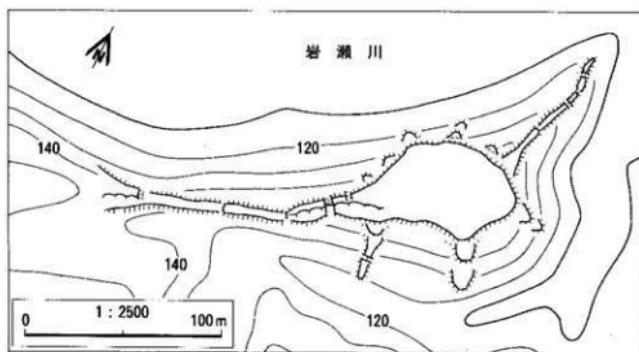
#### (3) 北屋敷・内堀ほか

谷頭の中心集落一帯に城館関連の字名が残るが、遺構は確認できない。

#### 44 北諸県郡高崎町

##### (1) 笛ヶ水城

大淀川支流の岩瀬川右岸の丘陵上に立地する。岩瀬川は現在堰き止められてダム湖となっている。丘陵の端部に主郭があり、その付け根を空堀で截断する丘陵立地型の城郭である。北や南にのびる尾根にも堀切が認められる。



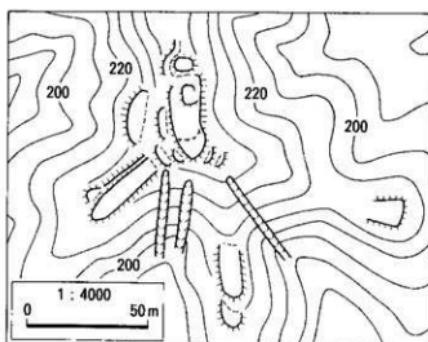
笛ヶ水城縄張り図（吉本正典原図作成）

##### (2) すかしの城

標高370mの山丘上に立地する。主郭と見られる平坦地を区画する空堀が認められる。西側には腰曲輪がある。

##### (3) 城の岡

高原町との町境近くの山丘上に城郭構造が認められる。



城の岡縄張り図（文献1所収図を基に製図）

曲輪のまとまりはないが、堅堀により防御を固める意図がうかがえる。ここからすかしの城や木場城を見渡すことができる。

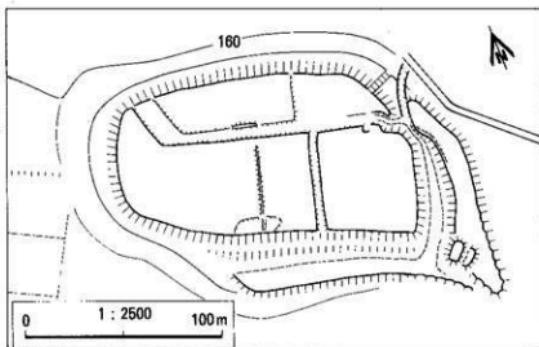
文献

- 1) 山岸 薫 「町内遺跡試掘調査 城の岡遺跡 高崎町文化財調査報告書第6集」1995  
高崎町教育委員会

(4) 谷川城【高崎城】

高崎川右岸の独立小丘陵上に立地する。標高は189m、城域は南北約160m、東西約180mの範囲におさまる。

主たる曲輪は溝により区切られる。西側の曲輪との間には規模の大きな大きな空堀が設けられる。



谷川城縄張り図（千田嘉博原図作成 高崎町教育委員会提供）

(5) 木場城

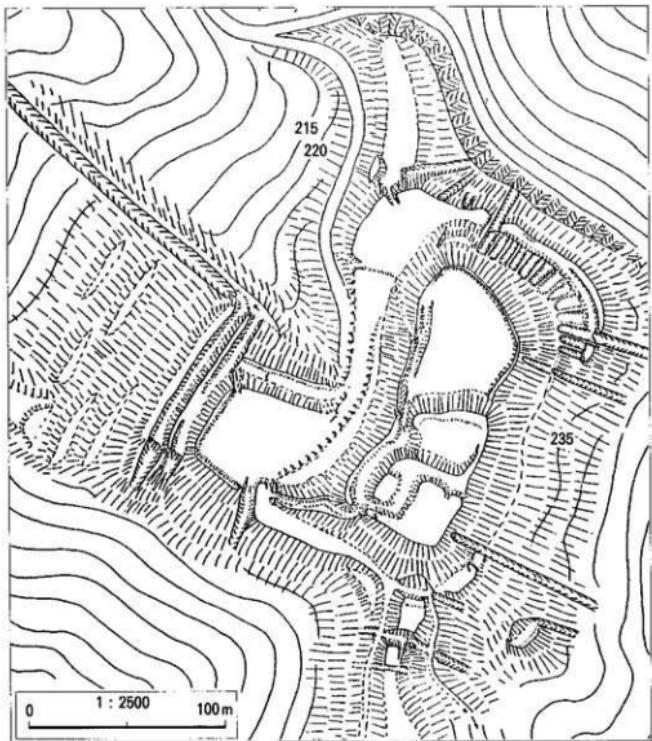
大淀川左岸の山丘上に立地する。最高所の標高は263m、城域は南北約350m、東西約30mを測る。

主郭と目される最高所の曲輪からは大淀川方面が一望できる。斜面には堅堀を築いて防御を固めている。特筆すべきは北東斜面に畠状空堀群が築かれていることで、純張り調査を実施した八巻孝夫が確認した（文献1）。その南限とされる。また主郭北側の曲輪の虎口は「T」字形の平面形を呈するものである。

『日向地誌』には「木場砦」の項で元亀2（1571）年、伊東義祐が、族将伊東加賀守を配したと記している。

文献

- 1) 八巻孝夫 「南九州の畠状空堀群の城」『中世城郭研究』3 1989 中世城郭研究会  
2) 北郷泰道 『様屋敷第1・2遺跡 木場城跡 高崎町文化財調査報告書第2集』1990  
高崎町教育委員会



木場城縄張り図（八巻孝夫原図作成 文献1・2所収）

(6) 徳ノ城

標高221mの徳岡山頂にあったとの伝承があるが、詳細は不明。

(7) 柳ノ城

大淀川左岸の台地上にあたる。標高は約150m。畠地となり、遺構は不明瞭。

(8) 浮城岡

小丘陵上に主たる曲輪が認められ、その周囲に帶曲輪状平坦地が巡る。地元に城館に関する伝承が残る。

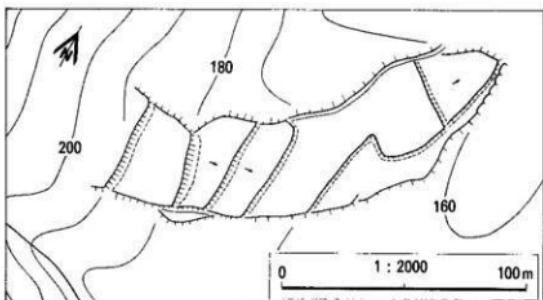
(9) 城山

やはり地元に伝承が残るところである。周囲より2m程高い丘地であったが、現在は耕地整理が行われ、水田となっている。

#### (10) 陣ノ鼻砦

庄内の乱際に島津忠恒（家久）が陣を構えたとされるところである。『日向地誌』には「長尾岡ノ東南畔ニアリ」と記されており、標高257mの丘陵端部がそれであると考えられる。ただし、現地には平坦地はあるものの、防御施設等は見当たらない。

一方、東霧島神社近くの台地上にも比定地がある（下図）。数面の平坦地が連なり、北および南側には谷が入る。



陣ノ鼻砦縄張り図（吉本正典原図作成）

## V 特論

### 中近世の縣（延岡）の城郭

甲斐典明

#### はじめに

縣（17世紀後半期以降は「延岡」）地域において從来知られていた中近世の城郭は次の8城（軍營）である（かっこ内は城郭としての主たる機能期間）。井上城（？～1429）、西階城（1429～1444）、松尾城（1444～1578、1579～1603）、土々呂松尾城（？～1578）、浦尻城（？～1578）、大友宗麟（大友義統）社ヶ原軍營（1578）、大友宗麟無鹿軍營（1578）、縣城（延岡城）（1603～1871）。

今回の「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査」の結果、延岡地域でも新たな中近世の城館跡が多数確認され、リストにあげられていない星敷跡候補地まで含めると、30以上の城館跡を数えることができる。

以下、延岡（縣）地域における拠点城郭であった井上城、西階城、松尾城、縣城（延岡城）の4城郭の概要とその歴史的背景について説明する。

#### 1 井上城

築城者は、12世紀末の土持栄綱または13世紀末の土持国綱と言われる（『延陵旧記』『延陵世鑑』）。しかし、12世紀末～13世紀初頭にかけて、この地域（三須・三輪・恒富地区=宇佐宮領縣莊および島津領寄郡新名莊）を領有していたのは、門川伊東氏（=縣莊）、源頼朝側にして鎮西奉行・豈後守護の中原播磨頭親能（=新名莊）であり、延岡（縣）地域における土持氏領は五ヶ瀬川以北の宇佐宮領岡富莊に限られている（『建久岡田帳』）ことから、12～13世紀、敵対勢力地のこの城に縣土持氏が在城しているとは考え難い。五ヶ瀬川・大瀬川以南のこの地域に土持氏領が拡大するのは、1336（建武3）年に土持栄宣<sup>a)</sup>が縣莊の半分職を獲得（『田部氏系図』）して以降と考えられ、土持氏がこの城を居城とするのは14世紀前半の半ば以降と考えるのが妥当であろう。しかし、最初の築城者となるとまったく不明であり、あえて推定すると縣莊を支配していた門川伊東氏関連かと思われるが、後述の「古城」や「中野城」あるいは「中城」との関係や、この地域を最近まで「本村」と呼んでいたことも考慮して考える必要がある。

城は南の島津領寄郡伊福形莊から小野を通って三須にいたる、中世までの幹線街道と大瀬川渡しを東から抑える交通の要衝に立地している。天守山全体を城取りしており、100～200m幅で北東～南西に細長く、約600mの規模を持つ。城域は、北東部に展開するいくつかの丘陵地と南西部の団地も含むと考えられ、大瀬川岸にある大將軍神社も堀切をはさんだ出丸の1つである。城域南西部の団地西端には、1578（天正6）年1月2日、大友同盟から島津同盟への転換となった島津義久への新年挨拶に遣わされた土持相模守栄統（法名「葉月玉公大禪門」／『鹿児島土持系図』）の墓碑の現存する法明寺がある。

延岡高校西側に位置する字「古城」の小山は、明治期の地籍図では階段状に構築された郭構造を明瞭に読みとることができるが、現状は宅地開発が進み破壊が著しい。「古城」

の地名は井上城跡によるものではなくこの城跡に由来すると考えられ、より古い時期の城郭が井上城の出丸として利用された可能性が高い。

また、井上城跡の東側に展開する恒富・愛宕から出北にかけての地域は、五ヶ瀬川・大瀬川の後背湿地・沖積低地として発達してきた平野部であり、春日神社付近では、蛇行する旧河川の跡に沿って開発された湿田の様子が明治期の地籍図からも見てとれる。また、17世紀後半期には愛宕山北側と春日神社との間を河川が東流し、「延岡城下図屏風」(吉田精孝氏蔵)にも描かれ、おそらくは弥生・古墳時代以来の天然の良港(舟溜り)となっていた「方財入り江」に流入している。さらに、井上城と古城の間や井上城の東には、河跡湖と思われる沼池の点在していたことが『有馬家中延岡城下屋敷付絵図』(明治大学所蔵)からも読みとれる。このような状況下にあって、中世には、平地の方形居館と推定される「中野城」あるいは「中城」が恒富・出北地区に存在していた。この絵図には、有馬家の家老である有馬民部の下屋敷が出北あたりに描かれており、大正期以降の工場地開発で消滅したと考えられる「中城」との関連も推定される。

さらに、恒富・愛宕地域には、西光寺、和合寺、知法寺、光福寺、利生寺、田中惣泉寺(『延陵世鑑』にある「田中藥師」寺跡か)など、現存しない寺院名に由来する小字名がわずか1km四方の範囲に近接して点在しており、城跡と合わせて古代以降~藩政期以前の延岡地域の勢力動向を考察する上での重要な手がかりとなろう。

主郭と考えられる最高所の標高は68.4m、比高は約60mである。繩張りは北半分に工夫が施されており、南半分が土橋で連結された物見曲輪的構成となっているが、土塁や堀などの施設はほとんどなされていない。

現状は公園・墓地・杉林・および南半分は雜木林であり、保存状態は極めて良好である。しかし都市開発や愛宕通線の整備とともにあって宅地が造成され、城の北、延岡高校との間にあった出城と思われるいくつかの丘陵が破壊されつつあるのは残念である。

注) 1336(建武3)年1月の瀬多・三条河原合戦に参加した「土持栄宣」については、従来、都於郡伊東氏と与党を組み宮崎平野での南朝討伐に活躍していた「土持宣栄」と同一人物との混同がなされ「栄宣または宣栄」と表記されることが多いが、1330年代(建武年間)、土持国綱の子に、縣土持氏の土持栄宣と大塚蓬萊山城を居城として大塚土持氏の祖となった土持宣栄の2人があったと考えるのが妥当である。

(「田部姓土持氏系図」／「土持文書30」「宮崎県史」中世1) (『垂水新兵衛系図写』)／「予 章館文書7」「宮崎県史」中世1) (「吾田土持氏系図」「田部氏系図」／『延岡市史』1949所収) (『土持栄宣書状写』／「阿蘇家文書」「宮崎県史」中世2)

## 2 西階城

1429(正長2)年に土持全宣が築城し、16年間しか在城しなかったという(『延陵旧記』『延陵世鑑』)。しかし、発掘調査では曲輪Xから13世紀前半の備前焼水甕の口縁部が出土しており(「西階城周辺遺跡(第1次)」／『延岡市文化財調査報告書 第12集』1994)、また筆者の繩張り調査によって従来考えられていた以上に城域の広大なことが判明したことから、縣土持家の本城としては16年間の居城だが、城館ないし軍事施設としてはその後の幅広い時期にわたって機能していたと考えられる。次の松尾城築城後も「中の城」と呼ばれ、代々城代を勤めた土持一族が「中城」姓を名乗っている。

そもそも、西階城周辺一帯の地域は古代の臼杵郡英多(後に縣)郷の中心地域と考えら

れ、城域内または周辺に白杵郡衙や川辺駅の所在地が比定されている。そして、平安末期から鎌倉期以降には島津領寄郡大貫荘の中心地として、さらに14世紀以降は島津氏が地頭職を有する白杵院の中心が置かれていたことも容易に想定される。縣土持家の本城としての中世西階城だけに限らず、この地域に各時代の拠点となった城館ないし施設の存在したことが容易に推定できるのである。開発がかなり進行してはいるものの、13世紀の備前焼水甕の出土とあわせて、西階城および周辺の地域については、これまで以上に慎重な調査と対応が必要である。

城取りは、北流する五ヶ瀬川と南流する大瀬川の2本に五ヶ瀬川が分流する分岐点の丘陵を選地している。金堂ヶ池周辺の「本城」、1578(天正6)年の大友合戦直前に土持家の武道指南役となつた伊賀系忍びの系統という竜仙寺のある「東の城」、県立高校生徒寮の西に現在はすっかり公園化された「南の城」の3郭で構成され、すぐ東を走る当時の幹線「川辺街道」に睨みを利かせていた。城の北、延岡西高校の西にあって現在サンビルズ野田団地が造成された丘陵も「北の城」であったというが、残念ながらここは開発の名の下に完全に破壊されてしまった。いずれにしても、從来は曲輪I～IV程度にしか認識されていなかった城域が、南北約600m、東西約400mに拡大・展開する大城郭である。

城の周辺部はかつては低湿地に囲まれていたようで、「本城」の北側には河跡湖と考えられる沼池があり、「東の城」の北東の団地は膝までぬかるむ追田であったという。「有馬家中延岡城下屋敷付絵図」でもこの周辺には現存しない河川や河跡湖と考えられる沼池が点在しており、金堂ガ池もそのような河跡湖の1つであると考えられる。五ヶ瀬川と大瀬川そのものも堀としての防御性を持っているが、城城全体の構造は、東側からの敵の侵入に対してはやや弱く感じられる。

「本城」の最高所の標高は61.7m、比高約50m。曲輪I・IIIに立つと西から流れて2km北の松尾城方面へ流れる五ヶ瀬川が一望のもとにあり、南端の曲輪Dからは大瀬川をはさんで2km東の井上城を見渡すことができる。

「本城」の縄張り構成は、曲輪I・IIが本丸および主体部、曲輪IVが二の丸、曲輪VIが三の丸、Vの南側曲輪群が土橋で連結された物見曲輪の役割を担ったものと考えられ、発掘調査の成果が望まれる。構造的には、中世山城のあらゆる構成要素の施された曲輪I～Vにかけての主体部が防御機能的に最も工夫を凝らされている。主体となる曲輪I～Vの構造および曲輪IVとその東側の腰曲輪間の比高12mに達する切岸はとくに見事である。曲輪Iには天守台とも考えられる土台も残っている。本丸とほぼ同じ広さを持つ二の丸の曲輪IVには、中央部に櫓台と考えられる土台があるが、構造がかなり複雑であり注意を要する。その東側の曲輪にも櫓台と考えられる土台が残っている。「東の城」は南北の両端に物見曲輪を置き、中央の主体部と土橋で結ばれている。主体部は配水池の建設で変形を受けているが、土塁ないしは櫓台跡と思われる土台が残っており、曲輪hの西下には井戸跡がある。また、この「本城」のすぐ北側、開削され団地になっている所には「馬場」、現西階中学校地には「御屋敷」があったという。

遺構としては、空堀・堅堀・土塁・堀切・櫓台・犬走り・土橋など中世山城の構成要素がよくそろっており、延岡地域における中世山城の教科書的城跡といえる。

現状は都市公園化が進められて一部に階段や東屋、また東の城には給水タンクが建設されて若干の破壊が見られるものの、おおむね保存状態は良好であり、市民のジョギング・ウォーキングコースとして親しまれている。

### 3 松尾城

1444（文安1）年から土持宣綱が築城にかかり、1446（文安3）年に西階城から居城を移したという（『延陵世鑑』）。以後、土持宣綱→土持全繁→土持常綱→土持親栄→土持親成の6代134年間、縣土持氏の本城として機能した。1578（天正6）年4月10日、大友宗麟（大友義統）により落城して縣（延岡）は大友領となるが、同年11月9日～12日の高城・耳川の合戦で島津氏が勝利した後に島津領となった。同14日には縣土持氏は島津氏へ被官し（「川上久辰耳川日記」／「都城島津家文書」「宮崎県史」中世2）、1579（天正7）年から9年間、島津義久配下の縣地頭として土持高信（1584年12月に久綱と改名（『島津国史』））がこの城に在城した（「上井覚兼日記」）。

1588（天正16）年、豊臣秀吉の九州仕置により豊前香春岳から高橋元種が入城し、1603（慶長8）年秋に縣城（延岡城）を築城して移るまで、15年間に在城した。この時期には、この松尾城を「縣城」と呼ぶ史料もみられる。

この城も先の2城同様、筆者の縄張り調査によって、従来考えられていた以上に広大な範囲に城域の拡大することが確認された。高千穂鉄道線の南側に展開する、主郭と考えられる本東寺西の丘陵（曲輪I～III、従来はこの部分だけを松尾城として認識していた=狭義の松尾城）から、東は本東寺および堀切をはさんで松山神社・永田神社の丘陵まで、北は線路より北の尾根上の曲輪およびその東の田部神社のある尾根上の曲輪までを城域とすることが判明した。また、今後の縄張り調査によっては、その間の尾根にまで拡大する可能性もある。いずれにせよ、現状でも南北600m、東西500mに達する大城郭（=広義の松尾城）である。

ここでは便宜的に線路南側の「一の城」、北側の「二の城」、東の尾根の「三の城」に区分しておく。1578（天正6）年の大友宗麟（大友義統）の攻撃をうけ落城した時に「本丸、二の丸、三の丸」の記述があり（『延陵世鑑』）、従来は一の城の3つの曲輪I～IIIをそれについて説明していることが多いが、便宜上区分したこの「一の城」～「三の城」がそれである可能性もある。

城取りは五ヶ瀬川と支流小峰川を南面の堀とし、南からの敵の行動を阻止する「後ろ堅固の構え」を取っている。周辺には、「ノマの下」「池尻」「岩ぐま」「堀端」「城ヶ峯」「おんばらでん（御腹田？）」「馬場野」「総治屋」「武人屋敷」「代官屋敷」など、城郭に関連する通称地名が数多く伝承されている。南側の松山神社・永田神社の丘陵とにはさまれた堀切を通って東西に通じる道は旧高千穂街道であり、これが1446（文安3）年に縣土持氏の本城となって以降の城下街道である。

縄張り構成的には、堀切・空堀・堅堀・土塁を多用する「一の城」がもっとも複雑であり近世的、「二の城」はそれよりもやや造りが粗く、「三の城」はもっとも単純な構造である。「三の城」→「二の城」→「一の城」という築城の時代的な推移を示す可能性もある。とくに、「一の城」は縄張りが最も複雑であり、1578（天正6）年4月の大友合戦とその後の島津氏配下縣地頭土持久綱の修築、1587（天正15）年3月の羽柴秀長合戦およびその後の高橋元種の修築によるものと考えられる。

また、この城はもともとは石垣造りであり、高橋元種が縣（延岡）城の築城時にその石垣の石を運んで転用したとの伝承があるが、現地での複数の縄張り調査ではそのような確証は全く得られておらず、信憑性に乏しく疑問である。

「一の城」はこの城の主体部であり、複雑に構築された曲輪I～Vで構成される西域と

その東側に広がる東域からなっている。主郭である曲輪Ⅰ～Ⅴは延岡地域の中世の城の中で最も複雑かつ機能的に普請された箇所である。2つの堀切を伴なって横矢掛かりに食い違う曲輪Ⅰ～Ⅲの構造と西側の3本の尾根に展開する堀切・土塁を多用した防御機構は見事である。最高所の曲輪Ⅰの標高は54.5m、比高は44mである。「二の城」は北西～南東に細長く伸び、北西端は堀で向かい側の尾根と仕切られている。この中間部より南側に二本の堀切がある。とくに、一方は全城中最大の規模を誇り、幅12m、深さ7mにも達している。「三の城」は比高約50m、南側の曲輪には土持氏の本姓である田部氏を祀った田部神社がある。この城は曲輪があるのみで、現在のところ堀切・空堀・堅堀・土塁等は確認されていない。また、「三の城」には北部の尾根との切断部となる堀切がみられず、防御的にはやや弱い造りである。

現状は主に杉林と畠。「一の城」・「三の城」とともに保存状態はよい。しかし、「二の城」の尾根筋の南半分がみかん畠として全面的に開削されていること、「二の城」の線路沿いの曲輪が造成を受けて元況が失われていること、「一の城」の曲輪Ⅴの東端部に地主による破壊が見られること、「一の城」南西部の国道218号線に面した斜面に住民の要望で改修が施されたことは、戦国期の縣(延岡)地域の拠点城郭として機能し、延岡地域を代表する中世城跡という歴史的位置づけを与えられる本城跡の文化財保護の観点からして極めて遺憾である。

注) 大友合戦による松尾城落城の日付については、大友義統が4月15日付の感状を数多く発しているために、「延陵世鑑」はじめ「4月15日」とする説明が多く見られるが、「天正六年卯月十日、土持要害松尾落去之刻」(「大友宗麟証判手負・戦死人數」)／「佐土原 文書」「宮崎県史」中世2) や「前~~十~~土持要害松尾落去之刻、…(天正六年)卯月十五日」(「某感状写」／「清田文書」「宮崎県史」中世2)などとあるように、4月10日が正しい。

#### 4 縣城(延岡城)

関ヶ原合戦後の日本全国に湧き起こった織豊系城郭と城下町の建築・建設ブームを時代背景として、神田亮政守の縄張りで高橋元種が築城した。1601(慶長6)年の春に着工し、1603(慶長8)年の秋に完成。2003(平成15)年には築城400周年をむかえる。松尾城からの移徙の儀では神事能を奉納したという(「延陵世鑑」)。延岡内藤家伝來の能面群のなかでも土持氏以来の由緒(「日向延岡伝書」)を持ち、「城付き面」として高橋元種以後の歴代延岡藩主に伝わる白式尉と黒式尉の翁面はこの時に使用されたと考えられる。また、黒式尉は今山下の能舞台で使用されている様子が、17世紀後半期の「延岡城下図屏風」にも描かれている。

その後、1652(承応1)年3月～1655(明暦1)年6月、有馬康純によって修築され、三階櫓・二階櫓・二階櫓門などが整備された。普請本メは有馬長兵衛・坂部彦兵衛・普請奉行は久能善右衛門・大工棟梁は中井太兵衛(のちに主税と改名)であった(『国乘遺聞』『藤原有馬世譜』)。これを記念して、翌1656(明暦2)年6月に今山八幡宮に寄進されたのが、梵鐘初代「城山の鐘」(延岡市指定・内藤記念館蔵)である。

縄張りは、五ヶ瀬川と大瀬川を天然の外堀とし、城の周辺に内堀(大正期以降の埋め立てによって現在は全て消滅)と高石垣を築いている。堀・高石垣・櫓建築群を備えた本格的な織豊系城郭としては小規模ながら日向国第一にして唯一の近世式城郭であり、東九州

における南限の城である。

城域は五ヶ瀬川と大瀬川に囲まれた中州の丘陵（延岡山、現在の城山）の本城と西の丸の二郭およびその間の侍屋敷地で構成される。さらに、本城は本丸・二の丸・三の丸の三区で構成されている。現在の内藤記念館所在地である西の丸は、有馬直純が「西の丸」として造営以後、幕末期まで藩主の居所となつたが、高橋氏時代にはまだ「四の丸」的出丸ないしは出城としての性格が強かつたと推定される。また、本城の北側、五ヶ瀬川左岸の「茶臼山」には高橋氏時代の家老花田備後守行栄の屋敷があつたとされ（『延陵世鑑』）、1948年に米軍撮影の航空写真でも階段状に構築された郭構造をはつきりと確認できる城郭がそれと推定されるが、以後の宅地開発で原状は失われてしまった。また、この「備後屋敷」以前にも、この城郭は縣土持氏が支配した中世岡富荘の「縣城」あるいは「岡富城」との関係が考えられ、注意が必要である。

高橋氏時代の縣城については具体像でのかぎりに乏しい。しかし、「台所、…、広間、…、弓書院」（『延陵世鑑』）や「城内ノ掲目手ノ籠門ノ矢倉」（『縣改易覚書』）／「高橋文書92」『宮崎県史』近世1などの記述が断片的に残されており、ある程度の城郭像が推定できる。また、高橋元種時代のこの時期の日向各地の主要城郭を描いたと思われる『慶長日向国絵図』（臼杵市立図書館蔵）の「縣城」には、他の城郭にはない3層の天守閣建築物やいくつかの櫓建築などが描かれており、豊臣政権下における高橋元種の位置づけを窺わせる貴重な史料である。

17世紀後半期以降、有馬氏以後の延岡城になると、『延岡城下図屏風』（有馬氏時代／吉田精孝氏蔵）、『有馬家中延岡城下屋敷付絵図』（有馬氏時代／明治大学所蔵内藤家文書）、『日向延岡城絵図』（有馬氏時代／国会図書館所蔵稻垣家文書）、『日向国延岡城絵図』（牧野氏時代／笠間稻荷神社所蔵）、『国乗遠聞』、『藤原有馬世譜』、『日向延岡御城并町在所々覚書』（『内藤家文書80』／『宮崎県史』近世1）など、多くの絵図史料や文献史料が残されており、三階櫓、二階櫓、二階櫓門、平櫓、居所、漆喰塀、長屋、土蔵、各種門などの建築物が詳しく描写されており、かなりな程度で具体像の推定が可能である。これらの史料をもとに、1997（平成9）年3月、延岡市は『延岡城跡保存整備基本計画』を発表し、今後の整備を進めていくことにしている。

しかし、現在の城山は19世紀後半の延岡城の遺跡であり、17世紀初頭の高橋元種の築城した縣城および以後の諸氏の改築による（延岡）城の全容の解明は、これからの大きな課題である。

注）「岡富城」そのものについての史料は今のところ見あたらないが、1210（承元4）年正月21日、岡富別符地頭沙弥宣西（土持宣綱）が今山八幡宮に中野新開（=北方町）の七燈御油田3町を寄進している（『今山八幡宮旧記』）こと、2代後の土持惟綱が正式に「岡富殿」と号していることなどから、岡富別符支配の拠点城館としての「岡富城」が存在したことは間違いかろう。

#### おわりに

宮崎県内の中世城郭は、立地によって、「丘陵立地型」、「台地立地型」、「海浜立地型」の3つに分類されている（北郷泰道「日向の中世城館跡」／『宮崎県地方史研究紀要20』1994）。延岡平野部地域の城は、分布城が宮崎平野にまで広がる丘陵立地型に分類されている。

さらに、県北=臼杵郡の城については、井上城・西階城・松尾城など①延岡平野部地域の大規模な拠点城郭、亀山城（高千穂町岩戸大野原）、中崎城（日之影町中崎）など②小規模ながら極めて堅固な西白杵の居城的山城、一の水城（日之影町城ヶ崎）、藏田城（北方町野首）など③番城・伝えの城・境目の城的な城など、城郭の機能別に3つの類型に細分することができよう。

このうち、縣土持氏の支配した延岡平野部地域の拠点城郭である井上城・西階城・松尾城は、広大な城域を有するという共通の特徴を持つ。さらに、曲輪連結型の井上城・西階城と戦国時代の松尾城の2つに分けることができる。「鎮のように連なる曲輪を細い尾根上に配置」する縄張り構造は井上城・西階城には顕著に見られるが、松尾城とくに「一の城」は堀切と土塁の多用や屈折した巧妙な曲輪配置など、防御機能を高めた結果、より近世的な構造となっている。とくに、曲輪Iとその周辺の帯曲輪の様相に顕著である。

また、土塁・堀切・堅堀のほとんどみられない井上城に対し、中世山城の教科書的城跡とも言えるほどに、西階城・松尾城には空堀・堅堀・土塁・堀切・櫓台・犬走り・土橋など中世山城の構成要素が全てそろっている。南北朝期の井上城→室町期の西階城→戦国期の松尾城という変遷の中で、拠点城郭としての機能を次の西階城に譲った後にほとんど改修を加えられなかった井上城と、松尾城に拠点が移動した後にも「中城」として整備され機能した西階城の違いをここにみることができる。1457（長禄1）年の財部土持氏滅亡以後の門川城ないしは土々呂松尾城を前線地帯とする土持氏と伊東氏の勢力対立を背景として、縣土持氏の拠点が次第に五ヶ瀬川南岸地域から北岸へ移動し、南からの敵の行動を阻止する「後ろ堅固の構え」の松尾城にいたった事を示している。それ故に、北からの大友軍の攻撃に弱体を露呈したのかもしれない。事実、1496（明応5）年8月29日の夏田の合戦では、松尾城を背後から突くべく、伊東勢は祝子川沿いに侵攻している。

つぎに、縣土持氏関連および延岡・臼杵郡地域の城郭に関する特徴として、これはこの地域の中世史全般に言えることではあるが、臼杵郡内城館に関する文献史料や記録のきわめて乏しいことがあげられる。

拠点城郭となる井上城・西階城・松尾城ですら、縣土持氏最後の本城である松尾城については「土持要害松尾」「土持要害」「縣城」など、1578（天正6）年の大友合戦関係や1587（天正15）年の豊臣秀長合戦関係の文書がいくつかみられるが、井上城・西階城については『延陵世鑑』や『延陵旧記』以外の史料的根拠は皆無である。

城郭のみならず、この文献資料の少なさが、当該地域の中世史解明には大きな障壁となっているが、これを補うものとして、考古学的手法の充実が望まれる。とくに、城郭についてはきわめて有効な手段であると言えよう。

表1 縣土持氏の系譜とその時代

実名	仮名、受領 職、法名	年代	縣土持氏関連事項	城郭	
土持榮妙 ↓ 土持宣綱	土持冠者 法名宣西	12世紀 13世紀 14世紀 15世紀 16世紀	1187年 1191年 1210年 1223年 1247年 1277年 1301年 1324年 1336年 1338年	2月10日、日向国在國司職を獲得 上津舞野岡富内上八反を大般若田として今山八幡宮に寄進 1月21日、周富代符地頭として今山八幡宮に中野新聞(=北 方町)の七灯油畠3町を寄進 土持榮妙、土持宣(信)綱と改名	(縣の城) (同富城) 井上城 西階城 松尾城 (天下城) 土々呂松尾城 浦尻城 社ヶ原障城、 無鹿軍營
土持通綱	右衛門尉 五郎左衛門尉		1247年	5月、生目神社に神面を奉納 銘「土持右衛門尉田部通綱」	
土持惟綱	新左衛門尉 号岡富		1277年	鎌倉番役(『建治三年日記』)	
土持政綱	四郎左衛門尉				
土持國綱	刑部左衛門尉		1301年	守護代をつとめる	
土持栄宣	左兵衛尉 豊前守 法名行安		1324年 年不明 1336年 1338年	肥後菊池氏が日向に侵攻し、五ヶ瀬川上流の社領岡田・岸・ 岩瀬・香峯・孤住・大野・三輪・吉野の八郷を横領する 阿蘇氏に書状を送る 1月、瀬多・三条河原合戦参加 4月、縣莊の半分職を獲得する 9月、甲斐氏に北方の土地を与える	
土持賴宣	豊前守 始孫太郎 又八郎		1351年	2月、柳山資久、足利尊氏より上総左馬助跡臼杵院の地頭職 を得る	
土持宣弘	遠江守 孫太郎				
土持秋綱	豊前守 法名桂山 (猿山)		1388年 1400年 1413年 1419年 1429年 1436年	後に城影寺と呼ばれる寺を建立 3月、柳山資久、島津元久より臼杵院の地頭職を得る 黒木對鳥守俊信、倉尾山宝藏寺(伊形)を建立 3月、「今山八幡宮旧記」写される 西階城築城 8月、柳山孝久、島津忠国より臼杵院の地頭職を得る	
土持全宣	次郎太郎 法名大林		1446年 1456~57年 1458年	松尾城築城 長福寺を古川に移す 毛作原・小浪川の合戦、財部土持氏滅亡 1月2日、土持宣綱没	
土持宣綱	衛門尉 始孫太郎 法名慶阿		1465年 1468年	8月21日、土持宣綱の妻没 10月14日、土持全繁没	
土持全繁	五郎太郎 法名加傳		1482年 1485年 1489年 1496年	7月12日、吉野の光福寺に土持卒塔婆を建立 2月、伊東祐國・祐昌の縣侵入を阻止 如意山吉祥寺(北川)を建立 8月29日、小雨湯の戦い	
土持常綱	衛門太夫 法名真田 (直田)		1535年 1551年	9月12日、夏田の戦い、門川城を取り戻す 12月15日、伊東祐吉が門川へ侵攻、 11月、親佐と親成、三輪大明神社殿を建立	
土持親榮	尾張守 法名能覚		1577年 1578年	2月9日、門川城の米良氏を攻めるも大敗 1月2日、土持英統、島津義久へ新年挨拶 1月22日、島津義久、土持氏に石塚・三ヶ名を宛行う 4月10日、松尾城落城 11月9日~12日、高城の戦い・耳川の戦い 14日、縣土持氏、島津氏へ被官	
土持親佐	日向守 法名壽翁		1579年 1584年 1585年 1587年 1588年 1599年	島津義久配下縣地頭として土持高信が在城 12月、縣地頭土持高信、土持久綱と号する 8月24日、土持久綱、縣で島津家久・上井覺菴を要応 4月、羽柴秀長軍により松尾城落城 11月、高橋元種、松尾城に入る 4月21日、京都伏見で病死(享年42歳)	
土持久綱	彈正忠				

# 県北部山間地の小規模中世城郭について

～ 塚原城跡（諸塙村）をもとに ～

福 田 泰 典

## 1はじめに

中近世城館跡の分布調査では、その所在を知る手掛かりとして、古文書や絵図などの他に字名やその土地・地域に語り継がれてきた伝承などを重視する。

しかし、それらに基づいて調査を進めるものの、城館跡らしき遺構の存在が確認できても、果たしてそれが調査の対象としている城館跡そのものであるのかという疑問が簡単に払拭できない場合もある。

本県の場合を例に考えても、佐土原城、都之城、鷲肥城、延岡城など中核的な役割を果たしたいくつかの中近世の城郭については、文書類や絵図などでその所在や構造が残存する遺構との比較検討を通して明らかにされつつある。また、歴史の中で戦乱の舞台となつた城郭や短期間とはいえる重要な拠点となった城館等も文書の中に見いだすことができる。けれどもその裏では、地域の人々に綿々と語り継がれて静かに時を経てきた多くの城館や、いつの時期にか人々の記憶の中から消え去りその存在さえも無にされた物も数多い。これらの城館跡については、今回の緊急分布調査を契機とする悉皆調査・現地踏査によりその実体が初めて明らかになったものがほとんどであると言って過言ではない。

今回取り上げた塚原城も、現在では遺構が残るのみで、歴史の中では高千穂48星に名を残す他は、城が機能していた当時の具体的な記録は皆無である。しかし、「塚原城」に関するては以下のような興味深い事実がある。

- (1) 元禄四年の『高千穂神社仏閣簿』の塚原村の項に「古城」の記載がある。
- (2) 明治初年とされる、この城跡を描写した絵図が存在しており、現状で把握できる縄張りとの比較検討ができる。
- (3) 遺構のある場所が昔から「城の首」と呼ばれている。

このように、本県北部山間地の小規模な中世城郭の中では、検討材料がこれだけ残っている城郭は希な例であるといえる。

本論はこの「塚原城」を例に、同城関連の記録、ならびに城にまつわるこの地域の字名について考えることを通して、本県北部山間地の急峻な地形に立地する比較的小規模な中世城郭の性格を明らかにしようとするものである。

## 2 塚原城関連の記録から

- (1) 高千穂神社仏閣簿の中に見える「古城」

諸塙村教育委員会では、昭和61年に諸塙村文化財保存調査委員会の編集による「文化財史第1集 諸塙の文化財」を刊行している。

この文化財史の史跡及び遺跡の欄に「塚原城趾」も取り上げられている。その中で、同城跡について『高千穂神社仏閣簿』(1691)から次の引用をしている。

「一、古城 壱ヶ所 塚原村

但是ハ先年庵摩殿御代之節かこいの城之由申伝候」

引用された神社仏閣簿は1691年（元禄4年）の成立とあるから、写本であるにせよそれ以前の状況を記したものである。この神社仏閣簿が成立した元禄4年当時、同村

は延岡藩（有馬氏時代）の領するところであった。

ここでは、このときすでに塚原城が、神社仏閣簿の中で「古城」と言う扱いになっていることに注目したい。この記述からして、それ以前の早い時期に城郭としての機能がすでに停止していたことが考えられる。したがって、神社仏閣簿の中に記された「かこいの城」として機能した以降は廃棄されたものと考えてよいであろう。

それでは、「かこいの城」として機能していた時期はいつごろであろうか。

神社仏閣簿の「古城」および「薩摩殿御代節」の記述を拵り所に考えれば、この地が薩摩殿（島津氏）の勢力が及んでいた時期をこの城が機能していた最終時期と捉えることができる。この地域が島津氏の勢力が及ぶ範囲であったということを裏付ける史料としては、同村に伝わる甲斐文書に佐土原城主の島津家久から甲斐左近将監に宛てられた「島津家久安堵状」がある。

〔堺目数ヶ度往辛労之至無其紛候、就夫松賀比良知行之事、於永々令  
安堵者也、仍状如件、（以下略）〕

（「甲斐文書」「宮崎県史史料編中世1」）

この文書の日付は「天正十一年卯月廿日」となっており、島津氏が伊東氏を抑えその勢力版図を県北にまで拡大させていく時期と合致する。しかし、島津氏の勢力が、現在の諸塚村にまで及ぶ時期は天正5年の「伊東崩れ」から豊臣秀吉の国割が行われた同15年までの限られた期間である。これらを考え合わせると、塚原城跡が高千穂神社仏閣簿の中にある「かこいの城」として機能していたのは、この11年間の時の流れの中であると考えることができるであろう。

なお、築城の時期については、文献等の史料が残っていない以上、断定的なことは何も言えない。そこで、時期を言及する代わりに、この城跡の立地と繩張りから塚原城が成立した背景について二つの推論を提示したい。

一つ目の推論は、同村に残る家代城跡の位置と塚原城跡の位置を関連付けて考えることをもって展開する。

家代城跡は、現在の諸塚村家代地区にある。諸家の系図等には、「家代」を「家城」と表記したものも多いことからして、当時は両方が一般的に通用していたと思われる。

この家代城跡は標高およそ500mに位置し、眼下に耳川支流の柳瀬川と塚原の集落を望むことができる。また、この城の城主であったとされる甲斐宗撰が創建したとされる金鶏寺もこの地にある。宗撰はその後、五ヶ瀬川流域の日之影町岩井川にある中崎城に移り、そこを本城とするので、この地はそれ以前の活動の拠点であった。

この家代城跡と柳瀬川を隔てて対峙するのが今回取り上げた塚原城跡である。立地について比較すると2つの城跡の比高差はおよそ100mあり、家代城跡から塚原城跡の様子は手に取るように分かる。また、地形的な面について比較すると、家代城跡付近は塚原城跡付近と比べて緩斜面も多く見受けられ、高地ながらも開けた感じを受ける。さらに、塚原城跡の立地は舌状丘陵の先端かつ断崖の上である。領地經營の城（本城）としての機能をもたらせるとすれば、明らかに家代の地を選択すると考えられる。

したがって、仮にこの2つの城が同時期に並行して存在したとすれば、高千穂へと続く街道をおさえるために、家代城跡の支城的な存在として配したのではないかと推察するのである。<sup>10)</sup> また、家代城跡がその機能を停止した後も、この塚原城跡は交通

の要衝をおさえる要として廢城まで存続したのではないかと考える。

二つ目の推論は、この城（塚原城跡）の繩張りをもとに展開する。

先述したとおり、この城は舌状に張り出した丘陵の先端部に位置し、丘陵縁辺部は本県北部山間地によく見られる阿蘇溶結凝灰岩の岩肌がむき出しになっている。城跡までは、この丘陵に向かって城下の塚原集落から続く、葛折りの坂道を登り詰めてようやく辿り着く。

顯著な繩張りとしては、この舌状に張り出した尾根を断ち切る2条の空堀の存在である。残存状況も良く、大きな改変も受けていない。しかしこの2条の空堀は、視点を変えて守勢の側から考えれば、完全な孤立した空間を生み出している。いわゆる「詰城」としての空間である。兵法で捉えるならば、典型的な「陰城」としての繩張りである。したがって、平時に活用するとすれば、立地場所から考えても見張り台的な用途を与えるのが妥当であろう。そして、仮に詰城と仮定すれば、これは城下にある塚原集落の支配層と密接な関係にあったと考えられる。

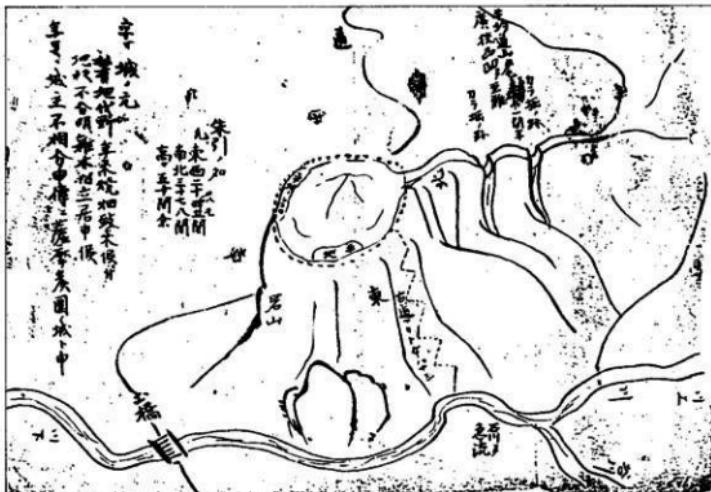
城主については、記録も伝承も残っていない。しかし、この城との関係を想像させる一人の人物が歴史に名を留めている。天正5年(1577)の伊東義祐一行の「豊後落ち」の際に、同年12月17日一行を迎えた「綾彈正」その人である。綾彈正は別に「塚原彈正」の名も有し、「日記」の中にこの名で登場する。「塚原」という土地の名を冠するところからして、当時この地にあってそれなりの力をもった武将であったことは疑いの余地がない。「高千穂48墨」にも数えられながら城主の記録等がないため定かではないが、諸塚村史でもふれているように塚原彈正が塚原城跡の城主であったとする説は一概に否定できない。なお、塚原彈正については塚原地区の「綾彈正屋敷跡」と伝承される場所に石碑が残されている。

## (2) 明治初年の塚原城跡絵図

同文化財史の「塚原城趾」の項でもう一つ興味深いのは、諸塚村教育委員会が所蔵する明治初年に描かれた絵図の存在である。絵図の中には「城ノ元」と字名が書かれているが、右上に「塚原城跡」の加筆がみられる。

絵図の中には、先の「高千穂神社仏閣簿」からの引用と思われる添書と遺構の概要が記されている。方位や朱書きによる注記などもあることから、単なる個人的な記録というよりは、何らかの意図をもって作成された絵図あると思われる。この絵図については、同村の堀氏の家に伝えられたものであるが、「堀某」という人物が明治初年に描いたこと以外、その経緯などは不明である。

次に、この絵図と現存する遺構について比較する。絵図の描写にはよくあることがあるが、この絵図も地形についてはデフォルメされている。主郭部の円形の地形は、丘陵の先端部であるため現状では舌状を呈する。また、2条の空堀が入るやせ尾根の両側がかなり急崖に描かれているが、ここも現状ではもう少し緩い傾斜をもっており、尾根の平坦部に沿って土壠状の遺構等も確認できる。しかし、絵図全体としてはこの遺構の特徴をよく捉えているとともに、川の流れや曲輪のおおよその広さや道幅なども書き込まれており、繩張り図と照合しながら現状との相違を確認することができる好史料である。



城之元（塚原城跡）[諸塚村文化財第1集から転載]

### 3 城地の字名について ~「首」と「元」が意味するもの~

同村内で確認あるいは伝承等が残されている城館跡は7つあるが、この中で「城の首」「城ノ元」という呼称をもつものは当初2つの城館跡のみと思われていた。しかし、調査を進めていくと、実際にはその他の城館跡の中にも「首」や「元」といった呼称を有するものがあることが分かった。そしてこれらの呼称を有する城館跡には、位置する場所が舌状丘陵の先端部であるという共通点がある。

九州山地を源とする河川による浸食谷が発達し、複雑な尾根筋を展開する本県の北部山間地にあっては城地の選定において独立丘陵を確保することは至難の業である。仮にそのような城地があったとしても、周りと比べて海拔が低い浸食による残丘であったり、極端に地味が悪かったりする場合が多い。平時には利用できるとしても、有事を想定すると城地としては不向きな土地である。それに比べ、無数に存在し多様なバリエーションを見せる舌状丘陵に城地を選定し、繩張りを凝らして城館機能をもたせようと考えるのは自然な所作であるといえる。

また、文字の語義的な側面という別の角度から考えると、「首」と「元」の呼称は地形的景観にのみ端を発するのではなく、これらが共有する「頭部」あるいは「要」という意味が城の性格とも深い関係をもつと思われる。

先の塚原城跡のところでも述べたように、本県北部山間地の舌状丘陵の先端に位置する城館には、単郭の小規模城館が数多く見受けられる。そして、それらの多くが有事の際に最終拠点として機能する繩張りをもつということは注目すべき事実である。

#### 4 おわりに

九州山地が作り出した急峻な地形は、人間が生活・生産の場をたやすく確保することを許さなかった。舌状に伸びる急崖上に築かれた県北部山間地の小規模な中世城郭は、そのような環境にあって自分の土地を守ろうとする姿勢の表れであるのかもしれない。また、河川筋の交通の要衝を抑える場合にも、その流れと人の動きが確認できる河川筋の舌状丘陵に城館を置くことの意味は大きい。

諸塙村をはじめとする耳川流域の入郷地区には、「急崖をなす舌状丘陵とその下を流れる河川」というセット関係をもつ城館の立地が多い。同様に、耳川と並ぶ県北の二大河川の一つである五ヶ瀬川流域にも同じような城館の立地を見ることができる。そして、このような城館の中には、急崖をなす舌状丘陵の鞍部を連続する複数の堀切により加工するとともに、自然の要害である河川を巧みに取り込んだものが多い。城地を選定する際に、河川の存在を強く意識していたものと思われる。また、複数の堀切を連続させる「鞍部連続堀切型」ともいえる繩張りは、県北部山間部の急峻かつ狭隘な地形を城郭として効果的に活用するための巧みな繩張りである。

県南の中世城館跡が、シラス台地を掘削した大規模な様相を呈するものが多いのに対し、県北の城館跡はどちらかといえば小規模なものが多い。

しかしながら、山地特有の地形を十分に活用し、防御性に重点を置いた繩張りをもつ県北の小規模な中世城館は、その分布や繩張りなどからの検討を積み重ねながら性格付けをしていくことにより、中世日向の動向を探る上で新たな視点を与えてくれるものとなるであろう。

#### 註

- (1) 県北地区で、このように河川を挟んで本城と支城が対峙する例としては、北川町の長坂城跡（本城）と竹瀬城跡（支城）がある。

## 「飫肥城改築願古図」について

岡本武憲

ここに掲げる「飫肥城改築願古図」は、飫肥城の現況図（改築前の図）に、工事部分の完成予定図（改修後の図）を張りつけたもので、飫肥城が現在の姿になる経過を詳細に伝える唯一の資料である。

日向灘沖は地震の多い所として知られる。今から300年以前の寛文2（1662）年、阪神淡路大震災の震源ともなった活断層の延長上にある琵琶湖西岸の活断層が大きく動いて近畿地方一円に大被害を与えた有名な「寛文大地震」が起きているが、同じ年に日向灘を震源とする大地震があった。

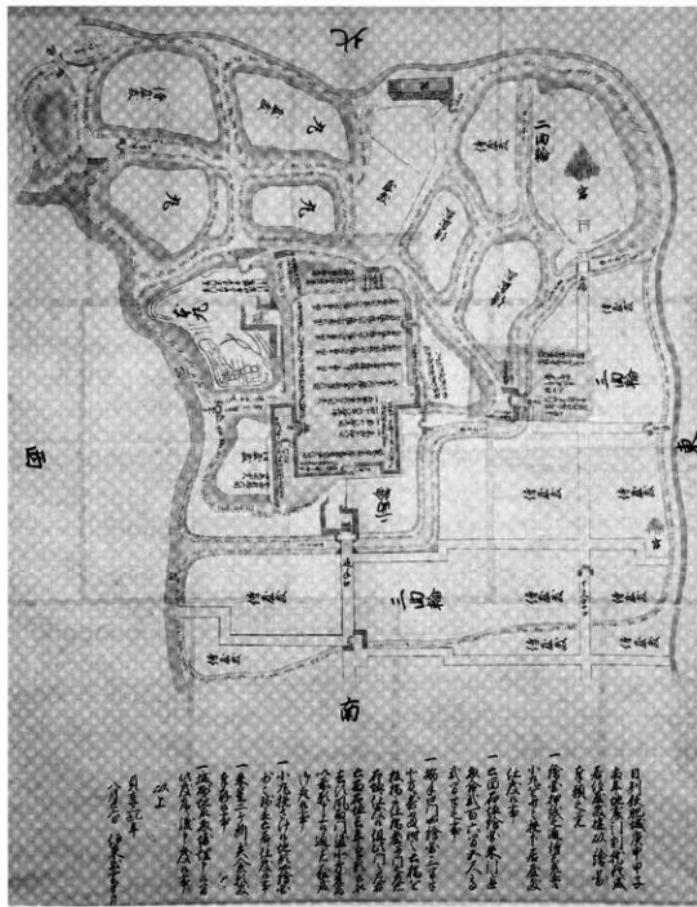
宮崎市南部にあった殿所村は海中に沈み、飫肥城でも石垣九ヶ所が計約350mにわたり被害を受けたことなどが報告されている。さらに、18年後の延宝8（1680）年にも地震があり、本丸にひび割れが多数生じた。その四年後の貞享元（1684）年、三度目の大地震で「本丸の地、公寝所の下破裂」によって被害はさらに拡大、飫肥城の大改修は避けられなくなつたようだ。

ここに及び、飫肥藩伊藤家は家臣平部小左衛門を幕府に派遣し、飫肥城の大改修を願いでたのであった。「飫肥城改築願古図」はその控え図と思われる。

改修前の飫肥城は、シラス台地を空堀で区切った13の曲輪からなり、それぞれの曲輪が独立した南九州特有の中世城郭の様相を良く残している。

改修工事では旧本丸を廃して、中の丸と今城、松尾の丸の一部を切り崩し、前面に石垣を積んで新本丸を移転している。

この図は、飫肥城研究のみならず、南九州の中世城郭から近世城郭への変遷を知る上で欠かせない資料と言えよう。



积水城改造图

## 都之城の城域について

桑畑光博

### 1. はじめに

都之城は宮崎県都城市都島町に所在する。地形的には都城盆地西側の起伏の少ないシラス台地の東端部に占地し、その東側眼下を大淀川が北流している。標高は、150~160m程度で周囲の低地面とは比高差約20mを測る。この城郭は北郷氏（都城島津氏）歴代の居城として知られ、北郷氏二代目の義久は永和元年（1375）に初代資忠の薩摩追の城館（宮崎県北諸県郡山田町）から当地に移り、城を築いたと伝えられている。豊臣秀吉の九州征伐後、文禄4年（1595）に北郷氏は祁答院（鹿児島県宮之城町）へ改易となり、当城は伊集院忠棟の居城となったが、島津氏と伊集院氏との対立に端を発した庄内の乱（1599~1600）の後は、再び北郷氏の居城となり、元和元年（1615）の一国一城令により廢城をむかえた。

さて、当城郭は南九州特有のシラス台地上に築かれた「南九州型」（村田 1987）ないし「群郭式」（八巻 1991）城郭の典型例とされ、城郭を構成する曲輪群は平坦な景観の中にあり、山地・丘陵上に占地するいわゆる山城とはずいぶんイメージが異なる。ここではその城域・城郭の範囲について、地形や考古学的な所見を中心検討したい。なお、地形の検討については、現状微地形の観察とともに第二次世界大戦直後（1947~1948年）に米軍によって撮影された航空写真の判読も行った。

### 2. 古文書・古絵図・地誌類にみる城域認識

都之城の範囲は過去においてどのように認識されていたのであろうか。当該城郭が機能していた中世段階の直接的な史料は望むべくもないが、ここではより近い年代である近世～近代の史料を見ていく。

江戸後期に成立したとされる都城島津家編纂の『御當家御舊例由緒書』や『庄内地理志』には、先述したような築城の由来やその後の増築のことなどが記されている。それによれば、この城が本丸・西城・中之城・外城・南之城・新城・池之上城・中尾城・小城・取添といったおよそ10の曲輪からなり、築城当初は本丸・西城・中之城・外城・南之城の5つの曲輪であったのが、都城島津家十代北郷忠相の頃（天文年間）に新城・池之上城・中尾城・小城が増築され、伊集院氏の在城時（文禄・慶長年間）に取添が追加されたという。ここに登場した曲輪名は、近世初頭に描かれたとされる都城島津家所蔵の『都城御城図』（図1）に書き込まれたものとほぼ一致しており、当時の城の部分呼称を示すものと思われる。そして、城の範囲はそこに描かれた五口と呼ばれる中尾口（大手）・鷺尾口・弓場田口・来住口・大岩田口の内側でとらえられているようだ。ちなみに、『都城御城図』については、佐々木綱洋氏が、描かれた年代と内容について検討を加えている（佐々木 1998）。それによると、都城島津家にはこの絵図のほかに「忠能時代都城居城」と書かれた全く同種の絵図がもう一通あり、両方に記載された人名が、慶長・元和・寛永年間の高帳や五口人数帳で、その名や石高などをほぼ確認できる実在の人物であることから、庄内の乱後の慶長5年（1600）、北郷忠能が祁答院から都城に復帰して、都之城を本城とした時の都之城内の状況や家臣の屋敷配置を描いているとしている。また、都城島津家所蔵の絵図のほかに、天和2年（1682）に絵図師の加塩半右衛門尉為清が書写し、その子孫にあたる加塩家が所蔵するものもあり、若干の記載事項を除くと（都城島津家の絵図には犬之馬

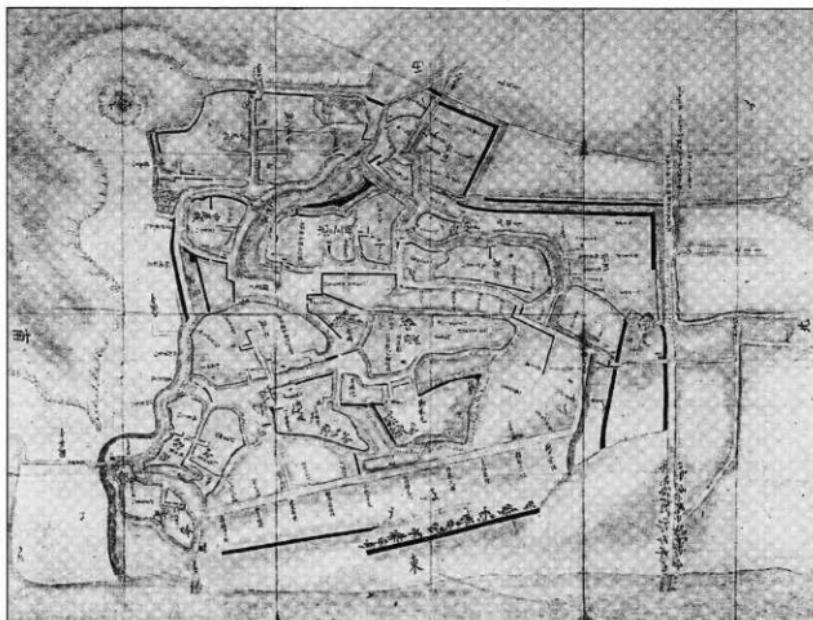


図1 都城御城図（都城島津家藏）

場の記載がないが、加塙家のものにはあるなど）、前二者と酷似しているので、原図、あるいは、この城絵図が島津本家に提出されたのであれば、控図である都城島津家所蔵の絵図を模写したのであろうと推察している。以下本稿では、上記の三通の絵図を総称して、「都之城古絵図」とする。

下って明治時代に平部山喬南によって著された『日向地誌』には、広さはおよそ八町で、いくつかに区画され、「本丸・西丸・八幡城・取添等」という名称があると記載されている。この中の本丸・八幡城・取添という名称は現在の字名にも共通しており、その示す範囲は近世段階のそれとほぼ一致しているものと思われる。

### 3. 城域（防衛線）の再確認

#### （1）縄張り研究の現状

検討にはいる前に、最近のいわゆる城郭の縄張り調査を中心とした研究成果を見てみる。1991年の現地踏査とともに縄張り図を作成した八巻孝夫氏は、現存する遺構と先述した都之城古絵図の描写が極めてよく一致することから、その中で示された範囲が最大城郭範囲を表すものであるとらえている（八巻 1991）。

一方、1992年に、重永卓爾氏は都之城本丸から南方約500メートルに所在する瀬戸ノ上遺跡の発掘調査等にもとづいて、やや抽象的な表現ながら、「最大外郭（総構）は本城よ

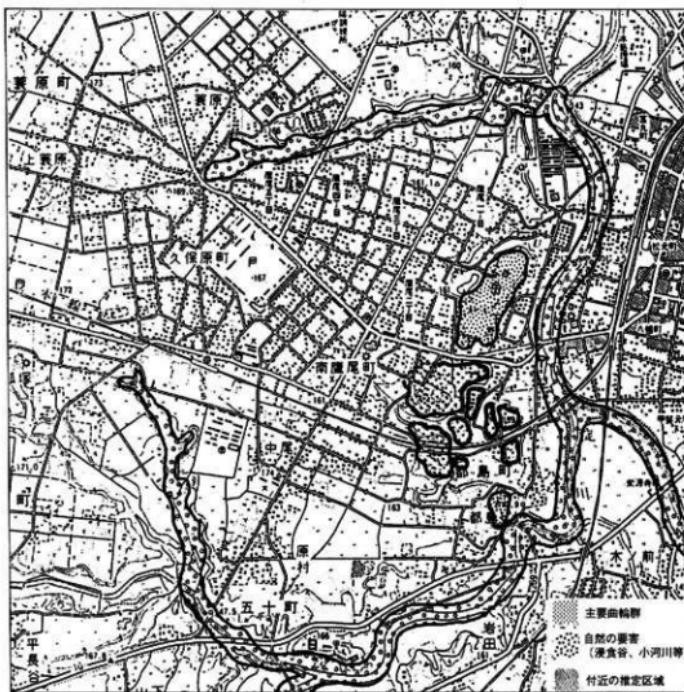


図2 横山哲英氏による都之城城域図（横山 1992）

り2km(約1／2里)]」の範囲内としている(重永 1992)。また、同年、横山哲英氏は主要曲輪群や付城も含めて、具体的に地形図上に都之城の全体範囲を示し(図2)、自然の谷・河川に囲まれた半径約1kmというかなり広大な城域を想定した(横山 1992)。

城域の認定に際しては、「要害性に富んだ自然地形を含めて城郭と評価する仕方は一理あるが、城域は何らかの防御施設が計画的に配置された範囲内で評価すべき」という村田修三氏の基本的な指摘(村田 1981)もあるように、具体的な遺構の配置や考古学的な資料によって考察すべきであり、慎重に判断する必要があろう。

#### (2) 主要曲輪群の展開

ここでは都之城古絵図に示された主要曲輪群について、試掘調査などの発掘調査成果をもとに、どの部分がどの時期に城郭として機能していたのかを推定してみよう。とりあえず、地形区分によって、曲輪群の区域分けをしてみると、自然の谷によって独立したシラス台地上にのる本丸・西城・中之城・外城・南之城・新城・池之上城などの中央曲輪群、西側のシラス台地から連続している中尾城・中尾之城の西側曲輪群、北側のシラス台地縁にある取添などの北側曲輪群、そして、それらシラス台地面と比べると一段低い段丘上に

ある小城などの南・東側曲輪群というように、4つのグループ分けが可能である。

中央曲輪群の中で発掘調査が行われたのは、本丸(桑畑 1991)・中之城(有田・岩永・谷口 1983)・池之上城の3か所であるが、出土遺物の年代と遺構群の年代は、おおむね、14世紀から17世紀初頭にかけての幅が認められる。これに対し、西側曲輪群については、現在のJ R 日豊線の北側にある中尾之城に13か所のトレンチを設けて試掘調査を行っているだけであるが、曲輪平坦面においては16世紀代の陶磁器を中心とした遺物が出土しており、部分的に検出されたピットなどの遺構群もその幅でとらえられるようである。また、西側曲輪群とさらにその西側に連続するシラス台地とを画している大規模な空堀に沿って築かれた土壘に試掘トレンチを設けているが、その土層断面によると、空堀は桜島から文明年間に噴出した降下軽石層(1470年代に噴出か?)を切って掘られており、土壘もその上に盛土して造られており、中尾之城・中尾城曲輪と空堀の構築は少なくとも文明年間・15世紀後半よりも後ということが判明している。

一方、北側曲輪群の取添については、試掘調査および病院建設に伴った発掘調査が実施されているが、後者では13世紀から16世紀にかけての溝状造構・道路状造構・ピット・土坑・豎穴造構・畠状造構などが検出されている(重永 1991)。その中で第Ⅱ期(14世紀後半)とされた段階には、台地端を「L」字状に囲いこむ館跡が営まれていたと推定されており、第Ⅳ期(15世紀代)と第Ⅷ期(16世紀代)の遺構群とは性格が異なるようである。すなわち、第Ⅱ期の遺構は独立性が強く、本丸を中心とした求心的な曲輪構成の中ではとらえられないものと考える。

ちなみに、先にあげた近世成立の古文書によれば、天文年間と文禄・慶長年間に、都之城が増築されたというが、上記の発掘成果からも14世紀代から機能していた中央曲輪群と15世紀後半以降に手の加えられた西側曲輪群と北側曲輪群といったように、近世古文書に示された年代と全面的に符合するわけではないが、時代が下がるにつれ、城域の拡大が認められるようである。

### (3) 主要曲輪群の周辺

次に、主要曲輪群の外の部分について検討してみよう。

まず、中尾城・中之城といった西側曲輪群のさらに西側であるが、いわゆる養原台地に連続する台地続き部分には小字「本原」という地名が残っている(図3)。「島津国史」によれば、永和2年(1376)の南九州国人一揆の際には、今川軍が「本原」に陣をしいたとされているし、先に述べたように西側曲輪群の本格的な構築年代が15世紀後半以降ということから、少なくとも15世紀後半以前の段階では当該地は都之城の城域の外であることはまちがいないであろう。時代が下がって、『上井覚兼日記』によれば、天正11年(1583)4月5日の条に、都城の北郷時久を訪れた際、「本之原本別當古郷隆昌」の屋敷に宿をとったという記述があり、当該地に家臣団屋敷群が形成されていた可能性は高い。また、『庄内地理志』巻六十八によれば、都之城廃城以前に当該地には本町・三重町・後町などの町屋が形成されていたとされ、いわゆる城下町の存在も考えられるが、その範囲については、中尾口の西南方約350mの三角遺跡および、西方約750mの現五十市小学校の2地点における試掘調査の結果、中世の遺構・遺物が検出されていないため、その内側にあたるほど現在の小字「本原」がカバーする範囲であるものと推察される。ただし、当該地は西側に広大に展開する養原台地に連続しており、家臣団屋敷群ないし、「城下町」的な機能は与えられるが、戦時における防御といった観点からは弱いといわざるを得ず、城域の外と位



図3 都之城一帯の字図

置付けておく。

北側曲輪群（取添）のさらに北については、台地の縁辺に、龍泉寺・兼喜大明神などの寺社が所在し、その北の小字「野首」といわれる舌状台地も地形的に重要なポイントを占めていたものと思われる。実際、現在の陸軍墓地（龍泉寺跡）と「野首」の間には空堀状遺構も認められており、発掘調査が行われておらず、具体的な資料の証左を欠くが、都之城の防衛戦においては欠かすことのできない部分と推察される。

同じように南側曲輪（小城）の西南部には、北郷氏の菩提寺である龍峯寺が所在する。この背後の台地斜面には空堀状遺構や土壘が表面観察されており、台地縁の瀬戸ノ上遺跡の発掘調査では16世紀以降の「V」字溝も検出されており（横山・重水 1992）、寺院の結界と防御の性格が想定されている。

ところで、都之城古絵図には、本丸・中之城の東側に位置し、小城の北側に連なる低地面に犬之馬場を挟んで家臣団の屋敷があったように描かれている。しかもそれの中には、佐々木綱洋氏が指摘するように、小杉宗文・北郷藏人など都城島津家の中の家老格の家臣名がみられる。本丸東側の低位段丘面については、試掘調査の結果、南北方向の道路面（犬之馬場か？）と思われる幅約1mの硬化面を確認しているものの、水田層と思われる水分を多く含む土層と洪水によるものと思われる水成砂層の堆積が著しく、安定した地形面とはいがたかった。また、江戸時代後期の絵図では水田が描かれている。このような場所になぜ家臣団屋敷が設けられたのであろうか。先に述べたように試掘調査によると、犬之馬場に相当する道路状遺構の存在は確かであり、そのラインも現在の地割りに遺存している。そして、現在は確認できないが、古絵図には、犬之馬場と大淀川の間に、南北方向の食い違いの土壘が描かれており、防御面での工夫とともに河川堤防としての役割も推察できる。一方で、本丸と中之城の間の堀（通路）の入り口に設けられた「かざし」状の土壘は、その機能が失われ、家臣の屋敷に転用されている。これらを考慮すると、少なくとも都之城古絵図成立期である慶長～元和段階には、本丸・中之城東側の低位段丘部分までとりこんで、総構とされていたと考えられないだろうか。佐々木氏は、この古絵図の記載について、確証はないしながら、北郷忠能の都城復帰時に、「強固とはいえない本丸東方の来住口（五口の中で一番重要とされていた）の防御の補強のために、そしてまだ經營は進んでいないが、当時重要性が高まりつつあったと考えられる宮丸村・上長飯・下長飯の両村地域、つまりのちの新地に対する支配力の強化を意図して」特記されたのではないかと当時の政治的背景によるものであると推察している（佐々木 1998）。

#### （4）城域の設定

これまでの検討をもとに、都之城の最終段階（16世紀～17世紀初頭）の最大防衛線を想定してみた（図4）。先にあげた都城島津家蔵の『御當家御舊例由緒書』には、北郷忠相の代に城戸である中尾口・弓場田口・鷹尾口・来住口・大岩田口が設けられたと記され、おおむねその五口の内側、すなわち都之城古絵図にしめされた範囲が城域と考えられがちであるが、図4には、重永氏が指摘しているように、氏寺・氏神堂が有事の際の付城・陣城という性格を合わせもつ（重永 1992）という観点から、寺社の所在地点も含めている。すなわち、北は龍泉寺・「野首」や仁巌寺といった台地縁部までを取り込み、南は瀬戸ノ上遺跡や龍峯寺といった台地端まで、東は大淀川を要害とした中央曲輪群つまり、本丸・中之城および犬之馬場周辺を限りとし、西は中尾城・中尾之城といった西側曲輪群の西端の空堀までというおおむね「三日月形」の範囲を想定した。

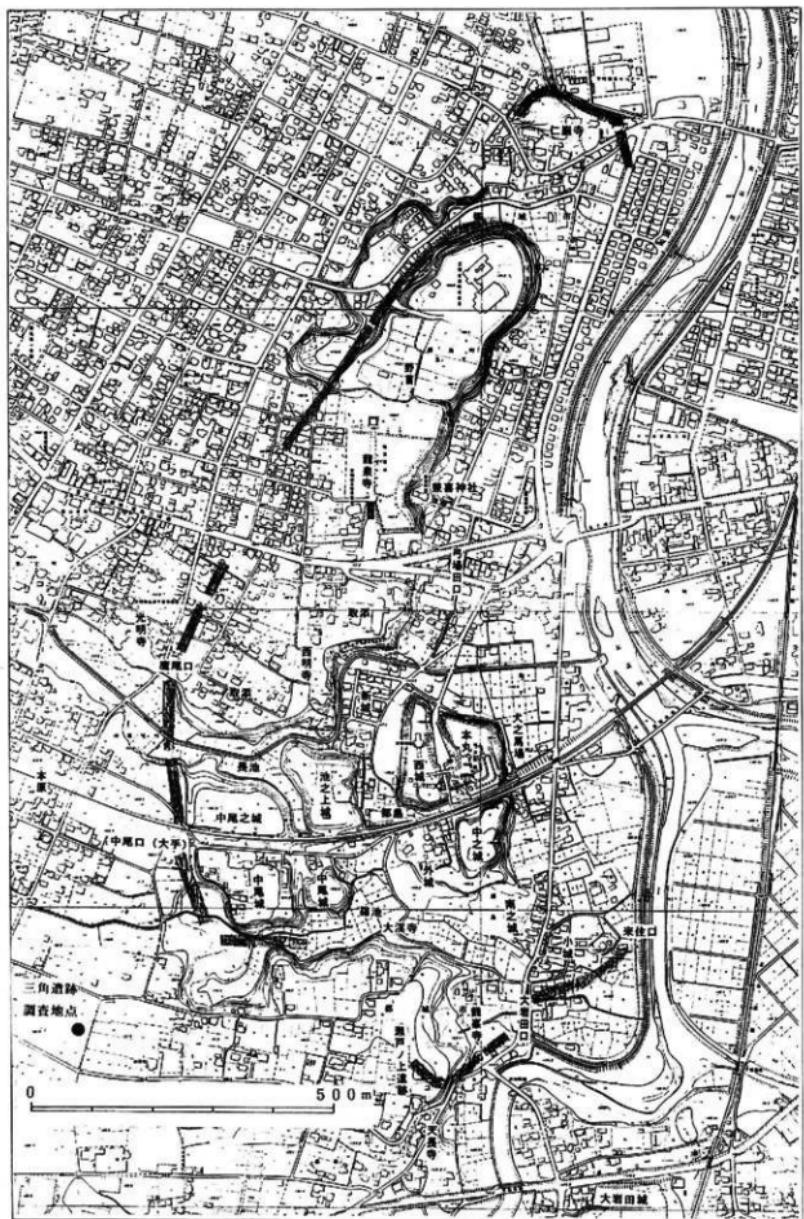


図3 都之城一帯の字図

<付記>本稿は大河第6号誌上において発表した（1996年8月刊行）内容に、その後、再検討を加え、加筆・訂正したものである。執筆に際しては、重永卓爾先生・佐々木綱洋先生はじめ都城市文化課諸氏から貴重なご教示をいただきましたことを深く感謝申し上げる。

引用・参考文献

有田辰美・岩永哲夫・谷口武範 1983 「都城・中之城跡発掘調査」『都城市文化財調査報告書』

第3集都城市教育委員会

衆畠 光博 1991 「都之城跡（主郭部）－第1～4次調査概報」『平成2年度遺跡発掘調査概報』

都城市文化財調査報告書第13集 都城市教育委員会

佐々木綱洋 1998 「都之城古絵図（都城御城図）」「歴史資料館蔵品選集」都城歴史資料館

重永 卓爾 1991 「都之城取添遺跡発掘調査概報」都城市文化財調査報告書第15集

都城市教育委員会

重永 卓爾 1992 「IV 小結」「瀬戸ノ上遺跡」都城市文化財調査報告書第18集 都城市教育委員会

村田 修三 1981 「中世城郭の繩張り」「日本城郭大系」別巻1 新人物往来社

村田 修三 1987 「城の分布」「図説中世城郭事典」第3巻 新人物往来社

八巻 孝夫 1991 「都之城について 繩張検討による現状把握」『平成2年度遺跡発掘調査概報』

都城市文化財調査報告書第13集 都城市教育委員会

横山 哲英 1992 「IV 小結」「金石城跡」都城市文化財調査報告書第19集 都城市教育委員会

横山 哲英・重永卓爾 1992 「瀬戸ノ上遺跡」都城市文化財調査報告書第18集 都城市教育委員会

## 中近世城郭関係史料目録(2)

若山 浩章

### 1. はじめに

本目録は宮崎県関係の城郭の記載のある中近世史料を抽出した目録である。筆者は先に『宮崎考古』14(1996)において『宮崎県史』史料編中世1・中世2をもとにこの作業を行い「中近世城郭関係史料目録(1)」として公にしたが、今回は新たに『旧記録』『日向記』の抽出作業を行ない目録の追加を図った。但し前者は時間の関係から天正15年(1587)までしか作業ができず不充分なものとなった。これ以後の史料は今後作業を継続し、まだ手つかずの『上井覚兼日記』や『大友家文書録』など多くの関係史・資料とあわせて公表したいと考える。表題に(2)としたのはそれを配慮したことである。

旧稿(1)にも記したが利用にあたっては次の点について留意されることを希望する。作業の中で困難を感じたのは、地名として使われているのか、城名として使われているのか判別しがたいもののが多かったことである。「高城」はその最たる例である。また「○○城」と表記されていれば抽出できるが「柴波洲崎」とあると立派してよいかどうか迷うケースも多かった。原則として「○○城」と表記しているものは抽出したが、そうでないものも城と判断できるものはできるだけ掲げることにした。その意味でも本目録は万全とはいえない、できればその周辺の史料の記載も参考にしていただきたいと思う。本作業においては、宮崎県総務部県史編さん室の池田さとえ氏と荒木慶子氏の御協力をいただいた。記して謝意を申し上げる次第である。

### 2. 中世城郭関係史料目録(2)

#### 凡例

- ① 本目録は城郭名ごとに関係史料を収録した。城郭名は50音順、配列は「中近世城郭関係史料目録」(1)に『旧記録』『日向記』の順で追加した。『旧記録』『日向記』の関係史料はおおむね収録されている順番に掲載した。
- ② 目録は、「史料年月日」「史料名」「文書名」「史料番号」「刊本」「頁」「備考」に分けた。備考に表記されている年月日は、系図や編纂物など後代に作成された史料の記事に表記された年月日もしくは筆者が内容から推定した年月日である。
- ③ 「刊本」の欄に略称された刊行物は以下の通りである。

「中1」=『宮崎県史 史料編中世1』	「中2」=『宮崎県史 史料編中世1』
「前1」=『鹿児島県史料 旧記録前編1』	「前2」=『鹿児島県史料 旧記録前編2』
「後1」=『鹿児島県史料 旧記録後編1』	「後2」=『鹿児島県史料 旧記録後編2』
「郷土1」=『日向郷土史料集1』	「郷土2」=『日向郷土史料集2』
- ④ 『旧記録』に収録されている史料のうち分割掲載されている『日向記』『上井覚兼日記』については省略した。

## 縣城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	西藩野史	旧記録	992	前 2	316	応永31年(1424)
○	長谷場越前宗純自記	旧記録	1058	後 1	609	天正 6 年(1578)霜月 13 日
○	北郷忠虎譜	旧記録	239	後 2	278	天正 15 年(1587)3 月 18 日
○	島津義弘譜	旧記録	248	後 2	287	天正 15 年(1587)3 月 18 日
○	島津義久譜	旧記録	252	後 2	290	天正 15 年(1587)3 月 18 日
○	島津家久譜	旧記録	254	後 2	291	天正 15 年(1587)3 月 18 日
○	長谷場越前自記	旧記録	262	後 2	293	天正 15 年(1587)3 月 18 日頃
縣古里						
○	島津義久譜	旧記録	1034	後 1	560	天正 6 年(1578)秋
跡江城						
○	肝付兼重譜	旧記録	1767	前 1	647	建武 3 年(1336)正月 10 日頃
○	『日向記』3 ○祐安祐立御陣之事			郷土 1	65	応永 22 年(1415)
天ヶ城						
○(年未詳)實 3 月 11 日	入田家家筋之覚	入出	18	中 1	135	慶長 5 年(1600)頃カ
尼ヶ辻城						
○	『日向記』12 ○島津家与數度合戦ノ事			郷土 2	259	慶長 5 年(1600)10 月 3 日
綾 城						
○文明 6 年(1474)8 月頃カ	文明六年三州廻々領主記	都城島津家 予章館	3	中 2	807	
○(年月未詳)	垂水新兵衛系図写〇垂木祐元の項・同祐豪の項		7	中 1	502	永正 7 年(1510)10 月 7 日
○天正 6 年(1578)カ	川上久辰耳川日記〇天正 6 年 10 月 25 日条	都城島津家	12	中 2	862	天正 6 年(1578)10 月 23 日
○天正 8 年(1580)正月 10 日	伊藤義賢坪付	山田	5	中 1	339	
○	老岐賀州年代記	旧記録	762	後 1	346	天文元年(1532)12 月 15 日
○	上野隼人覺書	旧記録	886	後 1	503	天文 4 年(1536)12 月
○	島津義弘譜	旧記録	935	後 1	523	天正 5 年(1577)12 月 6 日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後 1	664	天正 8 年(1580)
○	『日向記』3 ○長倉若州垂木但州切腹事			郷土 1	91	(永正 7 年(1510)カ)9 月 1 日
○	『日向記』4 ○依駿動三伏城被捨事			郷土 1	119	(天文 2 年(1533))12 月 16 日
○	『日向記』5 ○十輪院聖鑑法院事			郷土 1	151	永正 7 年頃
○	『日向記』5 ○十輪院聖鑑法院事			郷土 1	151	永正 7 年(1510)10 月 7 日
○	『日向記』7 ○分国中城主攝事			郷土 1	196	永禄 11 年(1568)頃カ
○	『日向記』12 ○島津家与數度合戦ノ事			郷土 2	259	(慶長 5 年(1600))10 月 3 日
飯田城						
○	『日向記』7 ○分国中城主攝事			郷土 1	196	永禄 11 年(1568)頃カ

## 飯野城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(文明6年(1474)8月頃カ)	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	806	
○(年月未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	大永元年(1521)3月9日頃カ
○弘治3年(1557)霜月22日	飯野大明神本仏銘文写○真幸院記	木盛	1-3	中2	75	
○(年月未詳)	真幸院記○一宮香取四社大明神の項	木盛	1	中2	73	永祿7年(1564)11月18日
○(年月未詳)	真幸院記○一宮本丸遷宮の項	木盛	1	中2	73	永祿9年(1566)
○(天正15年(1587)5月26日)	豊臣秀吉朱印状 【参照】「豊臣秀吉朱印状○御文書令臨乾」(都城島津家1-28号、中2、764頁は同文。)	島津家	46	中2	434	
○(年月未詳)	真幸院記○一宮神社本丸本宮遷御の項	木盛	1	中2	74	天正18年(1590)6月26日
○(年月未詳)	真幸院記○本番所片部塚	木盛	1	中2	83	
○	島津国史	旧記録	1502	前2	483	(年月未詳)
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4・5年(1524・25)頃
○弘治3年(1557)霜月22日	飯野大明神本仏裏書	旧記録	95	後1	54	
○	島津国史	旧記録	193	後1	102	永祿5年(1562)5月10日
○	島津国史	旧記録	242	後1	120	永祿6年(1563)11月16日
○	島津国史	旧記録	266	後1	127	永祿7年(1564)7月18日~
○	島津義弘伝	旧記録	267	後1	128	永祿7年(1564)
○	島津貴久譜	旧記録	344	後1	151	永祿9年(1566)
○	島津義弘譜	旧記録	345	後1	151	永祿9年(1566)頃
○	島津義久譜	旧記録	348	後1	153	永祿9年(1566)カ
○	島津国史	旧記録	404	後1	180	永祿11年(1568)8月
○	雑抄	旧記録	449	後1	199	永祿11年(1568)8月9日
○	島津貴久譜	旧記録	450	後1	200	永祿11年(1568)8月9日
○	島津義弘譜	旧記録	451	後1	200	永祿11年(1568)8月9日
○	島津国史	旧記録	607	後1	260	元龜3年(1572)5月
○	島津義弘譜	旧記録	620	後1	265	元龜3年(1572)5月4日
○	新納忠元勳功記	旧記録	621	後1	266	元龜3年(1572)5月
○	笑輪伊賀覺書	旧記録	624	後1	268	元龜2年(1571)冬~3年5月4日
○					-269	
○(元禄10年(1697)4月晦日)	加久藤曇述署差出	旧記録	625	後1	273	元龜3年(1572)5月4日
○文化2年(1805)正月2日	木崎原合戦記	旧記録	632	後1	281	元龜3年(1572)11月17日~
○					-289	
○	長谷場越前自記	旧記録	676	後1	308	天正元年(1573)頃カ
○	高源城攻之記	旧記録	874	後1	493	天正4年(1576)9月4日
○	庄内平治記	旧記録	877	後1	497	天正4年(1576)8月18日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○(天正15年(1587))5月26日	豊臣秀吉朱印状○巻本	旧記録	334	後2	338	
○	新納忠元勳功記	旧記録	413	後2	372	天正15年(1587)5月18日
○	『日向記』8〇覺頭合戦敗北事	郷土1	216			元龜3年(1572)5月4日

## 池内城

○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状写○新編伴姓肝属氏系譜	予章館	3	中1	476	
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状写○新編伴姓肝属氏系譜	予章館	4	中1	476	
○	肝付兼重譜	旧記録	1767	前1	647	建武3年(1336)正月10日頃
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状○大田原村新助	旧記録	1776	前1	649	建武3年(1336)正月14日
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状○大田原村新助 『日向記』2〇依西國方峰起祐持日向下向事	旧記録	1777	前1	650	建武3年(1336)正月12日 建武3年(1336)正月12・14日
○		郷土1	39			

## 池尻城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○文明6年(1474)8月頃力	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○	島津国史	旧記録	792	前2	235	応永3年(1396)以後
○	島津忠義譜	旧記録	704	前2	209	応永10年(1403)
○	『日向國』3 ○祐重改氏祐付都於郡遷居事	都土1		50		貞和4年(1348)頃力

## 石城(新納院)

○建武5年(1336)2月2日	日下部盛連軍忠状	郡司	16	中1	48	
○(天正6年(1578))7月17日	大友義統状	山田	1	中1	338	
○(天正6年(1578))8月1日	木上宗南書状	相良家	37	中2	406	
○天正6年(1578)力	川上久辰耳川日記○天正6年9月晦日条	都城島津家	12	中2	860	天正6年(1578)9月29日
○天正6年(1578)力	川上久辰耳川日記○天正6年10月朔日条	都城島津家	12	中2	860	
○天正6年(1578)力	川上久辰耳川日記○天正6年10月2日条	都城島津家	12	中2	861	
○天正6年(1578)力	川上久辰耳川日記○天正6年10月27日条	都城島津家	12	中2	862	
○天正17年(1589)頃9月15日	伊集院元景書状	山田	15	中1	343	
○	肝付兼重伝	旧記録	1845	前1	664	建武3年(1336)5月12~15日
○建武3年(1336)5月15日	島山直顕軍勢催促状○大田原村新助	旧記録	1849	前1	665	
○	島津国史	旧記録	952	後1	532	天正6年(1578)3月3日~
○	殉國名義	旧記録	954	後1	535	天正6年(1578)11月12日
○	島津義久譜	旧記録	973	後1	542	天正6年(1578)春
○	島津義久譜	旧記録	974	後1	542	天正6年(1578)秋
○	島津征久譜	旧記録	975	後1	542	天正6年(1578)秋
○	島津忠長譜	旧記録	976	後1	542	天正6年(1578)
○	川上久国覺書	旧記録	979	後1	543	天正6年(1578)
○	新納忠元勳功記	旧記録	1015	後1	554	天正6年(1578)11月12日
○	庄内平治記	旧記録	1040	後1	576	天正6年(1578)春~
○	勝部兵右衛門聞書	旧記録	1061	後1	623	天正6年(1578)11月3日
○	『日向記』7 ○分国中城主摘要	郷土1	197			永祿11年(1568)頃力
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	264			(天正6年(1578))7月16日
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	265			(天正6年(1578))7月10日
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	267			(天正6年(1578))7月22日
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	268			(天正6年(1578))7月頃
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	268			(天正6年(1578))8月3日
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	270			(天正6年(1578))9月15日
○	『日向記』9 ○新納石城合戦事	郷土1	270			(天正6年(1578))9月29日

## 石崎城(駿肥北郷)

○康安2年(1362)9月2日	一色範親状	土持	18	中1	35
-----------------	-------	----	----	----	----

## 石堀城

○	『日向記』3 ○祐安祐立御陣之事	郷土1	65	応永6年(1399)12月18日
○	『日向記』3 ○祐庵所々御退治之事	郷土1	71	文安4年(1447)11月16日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』7〇分国中城主攝事		郷土1	196		永禄11年(1568)頃力
石那田ノ小城	『日向記』2〇祐重日州下向之事		郷土1	47		貞和4年(1348)極月頃
石檣城	島津家久譜	旧記録	64	後2	74	天正13年(1585)秋
石山城						
○建武4年(1337)3月15日	土持重綱見知状	池端	5	中2	64	
○建武4年(1337)4月23日	建部清種軍忠状	池端	5	中2	65	
○暦応3年(1340)8月30日	建部清種軍忠状	池端	8	中2	65	
○暦応4年(1341)7月23日	島山直顯注進状写	林慶	6	中2	545	
○暦応4年(1341)12月22日	島山直顯軍忠注進状	池端	10	中2	66	
○	島津国史	旧記録	1893	前1	676	建武4年(1337)正月10日～
○	肝付兼重伝	旧記録	1895	前1	680	延元2年(1337)正月10日～
○建武4年(1337)正月10日	建部清種軍忠状○池端	旧記録	1897	前1	681	建武3年(1336)12月18日～
○建武4年(1337)3月15日	土持重綱書下○池端	旧記録	1909	前1	684	建武4年(1337)正月10日
○建武4年(1337)4月23日	林慶清種軍忠状○池端	旧記録	1921	前1	688	建武4年(1337)正月10日
○建武4年(1337)4月23日	林慶清種軍忠状○肝属	旧記録	1922	前1	688	建武4年(1337)正月10日
○暦応2年(1339)8月30日	建部清種軍忠状○池端	旧記録	2061	前1	724	建武4年(1337)正月10日
○暦応4年(1341)12月20日	島山直顯状○池端	旧記録	2140	前1	746	建武4年(1337)正月10日
市来城						
○	殉国名義	旧記録	662	前2	196	応永8年(1401)9月
○	庄内平治記	旧記録	418	後1	187	永禄11年(1568)正月上旬
井出尾陣						
○	『日向記』5〇井手尾合戦付相撲事		郷土1	146		天文18年(1549)3月3日
○	『日向記』5〇井手尾合戦付相撲事		郷土1	147		天文18年(1549)3月3日頃
○	『日向記』5〇中尾陣敗北山東引事		郷土1	147		天文18年(1549)頃
井出の平陣						
○	庄内平治記	旧記録	2585	前2	862	天文17年(1548)8月8日
○	庄内平治記	旧記録	2598	前2	868	天文17年(1548)12月7日
○	島津国史	旧記録	2605	前2	874	天文18年(1549)4月3日
○	庄内平治記	旧記録	2621	前2	878	天文18年(1549)2月20日
○	庄内平治記	旧記録	2622	前2	878	天文18年(1549)4月3日
○	瀬戸口伊豆入道覺書	旧記録	2624	前2	880	天文18年(1549)4月2日
稻荷城						
○康永4年(1345)11月22日	開田遠長領吉田村年貢灘妨事書	相良家	5	中2	380	
○(年未詳)6月9日	島津道盛(貞久)書状	相良家	19	中2	390	

## 猪野見城

史料年月日	史 料 名	文書名	史料	刊本	頁	備 考
○建武 3 年(1336) 2 月 7 日	土持宜宗忠状等〇新編伴姓肝 属氏系譜	予章館	3	中 1	476	
○建武 3 年(1336) 2 月 10 日	土持宜宗忠状等〇新編伴姓肝 属氏系譜	予章館	5	中 1	477	
○	肝付兼重譜	旧記録	1770	前 1	647	建武 3 年(1336) 正月 23 日
○	肝付兼重譜	旧記録	1774	前 1	648	建武 3 年(1336) 正月 29 日
○建武 3 年(1336) 2 月 7 日	土持宜宗忠状〇大田原村新助	旧記録	1776	前 1	649	建武 3 年(1336) 正月 23 日
○建武 3 年(1336) 2 月 10 日	土持宜宗忠状〇大田原村新助 「日向記」2〇依西園官方蜂起 祐持日向下向事	旧記録	1778	前 1 郷上 1	650 40	建武 3 年(1336) 正月 29 日 建武 3 年(1336) 正月 23・29 日
<b>今城</b>						
○(年月日未詳)	三侯院記〇(木浦木) 山之神項	木脇	2	中 2	112 -113	
○(年月日未詳)	大河平家系図〇大河平隆利の項・ 同隆次の項・同女子の項・同隆 汎の項・同光の項・同隆重の項	大河平家	1	中 2	360 -362	永禄 5 年(1562) 5 月朔日～
○	島津国史	旧記録	193	後 1	102	永禄 5 年(1562) 9 月頃
○	島津義弘譜	旧記録	215	後 1	111	永禄 5 年(1562) 頃
○	島津国史	旧記録	266	後 1	127	永禄 7 年(1564) 3 月 14 日～5 月
○	島津義弘譜	旧記録	288	後 1	131	永禄 7 年(1564)
○	島津義弘譜	旧記録	295	後 1	133	永禄 7 年(1564) 5 月朔日
○	「日向記」6〇在此入道道記事			郷土 1	170	永禄 4 年(1561) 頃カ
○	「日向記」6〇在此入道道記事			郷土 1	175	永禄 4 年(1561) 頃カ
○	「日向記」7〇臼肥本城安堵事			郷土 1	194	永禄 11 年(1568) 6 月 8 日頃
<b>岩崎城(都於郡)</b>						
○建武 4 年(1337) 6 月 19 日	入田某状	郡司	12	中 1	46	
○建武 4 年(1337) 6 月 19 日	日下部盛連軍忠状	郡司	13	中 1	47	
○建武 4 年(1337) 7 月 18 日	畠山直顯軍勢催促状	郡司	14	中 1	47	
<b>内山城</b>						
○(年月日未詳)	河上氏系図〇河上忠宅の項	河上	33	中 1	312	慶長年中(1596～1615)
○(年月日未詳)	川上東馬殿方ヨリ被差遣候一冊 ノ写(河上氏系図)〇川上忠宅 の項	河上	37	中 1	318	
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後 1	664	天正 8 年(1580)
○	「日向記」4〇左兵衛没落付荒 武三省討死井和歌事			郷土 1	120	天文 3 年(1534) 正月頃
○	「日向記」7〇分国中城主撫事			郷土 1	196	永禄 11 年(1568) 頃カ
<b>鶴戸城</b>						
○	寛正六年記事	旧記録	1425	前 2	451	寛正 6 年(1465) 2 月 29 日
○寛正 6 年(1465) 2 月 29 日	新納家覺書〇新納十郎家 庄内平治記	旧記録	1426	前 2	451	
○		旧記録	2622	前 2	879	天文 18 年(1549) 4 月 3 日

## 福戸山城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	島津国史	旧記録	2446	前2	808 ~809	天文12年(1543)正月24日
○	庄内平治記	旧記録	2450	前2	810	天文12年(1542)~天文12年(1543)3月18日
○	殉国名鑑	旧記録	2452	前2	811	天文12年(1543)3月晦日
<b>梅北城</b>						
○建武3年(1336)5月16日	日下部盛連軍忠状	郡司	8	中1	45	
○(年月日未詳)	北郷家家譜○北郷忠相の項	北郷	1	中1	178	享禄元年(1528)5月朔日
○	島津国史	旧記録	1371	前2	433	享禄3年(1454)7月3日
○	殉国名鑑	旧記録	1375	前2	434	長禄3年(1459)7月3日
○	伊地知季安考	旧記録	1549	前2	500	文明頃(1469~1487) -2
○	知覺氏系図	旧記録	1663	前2	541	文明18年(1486)冬
○明応4年(1495)林達日	闇暎吟	旧記録	1730	前2	565 ~566	明応3年(1494)頃
○	軍記	旧記録	1731	前2	567	明応3年(1494)上陽~4年
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	島津国史	旧記録	2113	前2	688	享禄元年(1528)5月朔日
○	北郷忠相譜	旧記録	2120	前2	692	享禄元年(1528)5月朔日
○	庄内平治記	旧記録	2121	前2	692	享禄元年(1528)5月頃 -693
○	島津国史	旧記録	2317	前2	759	天文7年(1538)2月2日
○	庄内平治記	旧記録	2331	前2	765	天文7年(1538)2月2日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
<b>梅任城(都於郡)</b>						
○(年月日未詳)	日下部姓岩切系譜	岩切	1	中1	455	寛正4年(1463)
<b>烏帽子形陣(城)</b>						
○	『日向記』5〇義祐飫肥陣思食立事	郷土1	134			天文10年(1541)10月18日
○	『日向記』5〇福戸烏帽子形陣事	郷土1	134			天文12年(1543)3月28日
○	『日向記』5〇忠広豊後使僧事	郷土1	136			天文12年(1543)3月28日頃
<b>王子城</b>						
○建武3年(1336)5月16日	日下部盛連軍忠状	郡司	8	中1	45	
○	重久篤重譜	旧記録	1853	前1	666	建武3年(1336)5月5日
○建武3年(1336)6月 日	重久篤兼軍忠状○重久	旧記録	1854	前1	666	
<b>大岩田城(大和田城参照)</b>						
○暦応2年(1339)4月20日	畠山直顯感状	池端	7	中2	65	
○暦応2年(1339)4月20日	畠山直顯感状○池端	旧記録	2040	前1	719	
○暦応2年(1339)8月27日	建部清道軍忠状	旧記録	2060	前1	724	建武3年(1336)12月18日
<b>太田城</b>						
○建武3年(1336)11月21日	建部重種着到状写	柿庭	31	中2	578	
○建武3年(1336)11月21日	建部清武着到状写	柿庭	40	中2	581	

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○建武 3 年(1336)11月21日	建部清種着到狀	池端	2	中 2	63	
○建武 4 年(1337) 4 月 23 日	建部清種草忠狀	池端	6	中 2	64	
○建武 4 年(1337) 4 月 23 日	建部清造草忠狀写	林褒	34	中 2	579	
○曆応 2 年(1339) 8 月 30 日	建部清種草忠狀	池端	8	中 2	65	
○	肝付兼重伝	旧記録	1881	前 1	673	建武 3 年(1336)11月
○建武 3 年(1336)11月21日	建部重種着到狀○肝付兼重伝	旧記録	1882	前 1	673	
○	重久寫兼譜	旧記録	1884	前 1	674	建武 3 年(1336)11月
○建武 3 年(1336)11月21日	建部清種着到狀○池端	旧記録	1886	前 1	674	
○建武 4 年(1337) 4 月 23 日	竹後清種草忠狀○池端	旧記録	1921	前 1	688	建武 3 年(1336)11月21日
○建武 4 年(1337) 4 月 23 日	林褒清造草忠狀○肝属	旧記録	1922	前 1	688	建武 3 年(1336)11月 1 日
○曆応 2 年(1339) 8 月 30 日	建部清種草忠狀○池端	旧記録	2061	前 1	724	建武 3 年(1336)11月20日
○	『日向記』2〇依西宮方峰起 祐持日向下向事	郷土 1	39			建武 3 年(1336)正月 9 日
<b>大和田城</b>						
○曆応 2 年(1339) 8 月 28 日	建部清成草忠狀写	林褒	5	中 2	545	
○曆応 2 年(1339) 8 月 30 日	建部清種草忠狀	池端	8	中 2	65	
○曆応 2 年(1339) 8 月 27 日	建部清造草忠狀写	林褒	35	中 2	579	
○曆応 4 年(1341) 7 月 23 日	島山直顯注進狀写	林褒	6	中 2	546	
○曆応 4 年(1341)12月20日	島山直顯草忠狀写	池端	10	中 2	67	
○	鳥津国史	旧記録	1994	前 1	706	曆応元年(1338) 7 月 11 日
○	肝付兼重伝	旧記録	2008	前 1	710	建武 5 年(1338) 3 月 20 日頃
○	肝付兼重伝	旧記録	2038	前 1	718	興國元年(1340) 4 月
○曆応 2 年(1339) 8 月 30 日	建部清種草忠狀○池端	旧記録	2061	前 1	724	曆応元年(1338) 7 月 1 日
○曆応 4 年(1341)12月20日	島山直顯草狀○池端	旧記録	2140	前 1	746	
<b>岡倉城</b>						
○文明 6 年(1474) 8 月頃力	文明六年三州廻々領主記	都城島津家	3	中 2	807	
<b>大川平城</b>						
○	鳥津国史	旧記録	193	後 1	102	永禄 5 年(1562) 9 月 17 日
○	鳥津義弘譜	旧記録	215	後 1	111	永禄 5 年(1562) 嘉
○	鳥津国史	旧記録	266	後 1	127	永禄 7 年(1564) 5 月朔日
○	殉國名藪	旧記録	289	後 1	131	永禄 7 年(1564) 5 月朔日
<b>鬼ヶ城</b>						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文14年(1545) 2月16日条	都城島津家	7	中 2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文15年(1546) 3月 9 日条	都城島津家	7	中 2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠義・北郷時久 三代日帳写○天文22年(1553) 条	都城島津家	7	中 2	818	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○永禄 7 年(1564) 正月20日条	都城島津家	7	中 2	819	
○	瀬戸口伊豆入道覺書	旧記録	2466	前 2	815 ~816	天文13年(1544) 2 月 12 日 ~

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	庄内平治記	旧記録	2468	前2 -817	816 821	天文14年(1545)2月12日
○	島津国史	旧記録	2484	前2	821	天文14年(1545)正月26日～
○	年代記	旧記録	2492	前2	824	天文14年(1545)2月14日
○	壱岐賀州年代記	旧記録	117	後1	64	永禄元年(1558)12月23日頃
○	庄内平治記	旧記録	268	後1	128	永禄7年(1564)正月20日
○	庄内平治記	旧記録	418	後1	187	永禄11年(1568)正月11日
○	『日向記』5〇水尾陣取本城囲破事	郷土1		138		天文14年(1545)2月14日
○	『日向記』5〇水尾陣取本城囲破事	郷土1		139		天文14年(1545)2月25日
○	『日向記』5〇義祐卿再貳肥入事	郷土1		150		天文20年(1551)7月頃～9月5日
○	『日向記』5〇東三百町御知行事	郷土1		153		天文22年(1553)頃
○	『日向記』5〇鬼ヶ城焼失中尾合戦事	郷土1		155		天文23年(1554)12月26日
○	『日向記』6〇在此入道記事	郷土1		173		永禄4年(1561)頃
○	『日向記』6〇前山陣并鬼ヶ城陣事	郷土1		182		永禄8年(1565)
○	『日向記』6〇野伏井美々田合戦事	郷土1		183		永禄9年(1566)
○	『日向記』7〇貳肥入評儀并様ヶ陣事	郷土1		190		永禄11年(1568)正月11日

貳肥城						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷敏久の項	北郷	1	中1	175	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永禄5年(1562) 9月17日条	都城島津家	7	中2	819	
○(年月日未詳)	谷口宮内左衛門軍忠状(断簡)	都城島津家	183	中2	751	
○(年月日未詳)	○三國兼苑					
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文17年(1548) 霜月5日条	都城島津家	7	中2	829	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永禄5年(1548) 2月10日条	都城島津家	7	中2	819	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永禄5年(1548) 2月20日条	都城島津家	7	中2	819	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永禄11年(1554) 2月21日条	都城島津家	7	中2	820	
○	西藩野史	旧記録	1558	前2	504	文明16年(1484)
○	島津忠昌譜	旧記録	1573	前2	511	文明16年(1484)11月28日
○	文明記	旧記録	1579	前2	513	文明16年(1484)師走3日
○	義同巣久譜	旧記録	1580	前2	514	文明16年(1484)師走3日頃
○	島津忠昌譜〇文明記	旧記録	1615	前2	526	文明17年(1485)6月頃
○	北郷敏久譜	旧記録	1617	前2	528	文明16年(1484)11月
○	文明記	旧記録	1621	前2	533	文明17年(1485)6月20日頃
○	島津久逸譜	旧記録	1626	前2	534	文明17年(1485)頃
○	瀬戸口伊豆入道覚書	旧記録	2466	前2	816	天文13年(1544)2月29日
○	庄内平治記	旧記録	2468	前2	817	天文14年(1545)正月24日～29日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考	
○	庄内平治記	旧記雜錄	2540	前2	839	天文16年(1547)9月13日	
○	島津国史	旧記雜錄	2564	前2	847	天文17年(1548)7月7日	
○	北都時久譜	旧記雜錄	2583	前2	861	天文17年(1548)7月7日	
○	北都時久譜	旧記雜錄	2584	前2	862	天文17年(1548)7月7日	
○	北都時久譜	旧記雜錄	2597	前2	867	天文17年(1548)11月5日※本城	
○	庄内平治記	旧記雜錄	2598	前2	867	天文17年(1548)11月5日※本城	
○	島津貴久譜	旧記雜錄	2613	前2	877	天文18年(1549)頃	
○	庄内平治記	旧記雜錄	2622	前2	878	天文18年(1549)3月11日	
○	壱岐賀州年代記	旧記雜錄	117	後1	64	永祿元年(1568)12月23日※本城	
○	壱岐賀州年代記	旧記雜錄	174	後1	90	永祿4年(1561)3月~6月※本城	
○	島津国史	旧記雜錄	193	後1	102	永祿5年(1562)9月17日	
○	庄内平治記	旧記雜錄	198	後1	103	永祿5年(1562)2月10日※本城	
○	庄内平治記	旧記雜錄	198	後1	103	永祿5年(1562)2月10日	
					-104		
○	瀬戸口伊豆入道覺書	旧記雜錄	200	後1	104	永祿5年(1562)9月17日	
○	庄内平治記	旧記雜錄	316	後1	140	永祿8年(1565)2月7日※本城	
○	島津国史	旧記雜錄	404	後1	178	永祿11年(1568)正月12日	
					-179		
○	北都時久譜	旧記雜錄	411	後1	183	永祿11年(1568)正月12日※本城	
					-184		
○	庄内平治記	旧記雜錄	418	後1	187	永祿11年(1568)正月上旬~	
					-188		
○文化2年(1805)正月2日	木崎原合戦記	旧記雜錄	632	後1	281	元亀3年(1572)11月17日頃	
○	谷口宮内左衛門覺書	旧記雜錄	880	後1	500	天正16年(1587)頃	
○	肥後合戦陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	664	天正8年(1580)	
○	北都一雲譜	旧記雜錄	394	後2	361	天文15年(1587)※本城	
○	庄内平治記	旧記雜錄	418	後1	188	永祿11年(1568)6月8日※松尾城	
○	島津国史	旧記雜錄	1559	前2	506	文明16年(1484)12月	
○	文明記	旧記雜錄	1574	前2	511	文明16年(1484)霜月28日	
○	北都忠義譜	旧記雜錄	2506	前2	828	天文14年(1465)12月18日	
○	島津国史	旧記雜錄	2539	前2	839	天文16年(1547)2月23日	
○	北都時久譜	旧記雜錄	2541	前2	840	天文16年(1547)9月※本城	
					郷土1	254	
					郷土2	168	
○	『日向記』9〇日州佛國評儀事					天正7年(1579)12月頃	
○	『日向記』10〇祐兵主御入国御供ノ面々					天正15年(1587)	
○	『日向記』10〇流之坊宗盛殺害事					郷土2	172
○	『日向記』6〇豊州衆依手替山東引事					郷土1	176
○	『日向記』3〇於紙肥祐國御戰死事					郷土1	82
○	『日向記』5〇水尾陣取本城開破事					郷土1	138
○	『日向記』5〇中尾陣敗北山東引事					郷土1	147
○	『日向記』5〇鬼ヶ城焼失中尾合戦事					郷土1	155
○	『日向記』6〇古市時任作雍井合戦事					郷土1	158
○	『日向記』6〇古市時任作雍井合戦事					郷土1	160
○	『日向記』6〇鎌ヶ倉の御陣事					郷土1	168
○	『日向記』6〇祇肥本城御知行事					郷土1	170
○	『日向記』6〇豊州衆依手替山東引事					郷土1	175
						(年月日未詳)※本城	

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』6〇豊州衆依手替山東引事		郷土1	176	(年未詳)9月17日	
○	『日向記』6〇豊州衆依手替山東引事		郷土1	176	(年未詳)9月18日	
○	『日向記』6〇三度日飫肥入并合戦事		郷土1	180	永禄6年(1563)8月20日※本城	
○	『日向記』7〇飫肥入評儀并築ヶ陣事		郷土1	190	永禄10年(1567)12月下旬~11年正月13日※本城	
○	『日向記』7〇飫肥入評儀并築ヶ陣事		郷土1	191	永禄11年(1568)正月21日	
○	『日向記』7〇小越合戦并勝利事		郷土1	192	永禄11年(1568)2月21日	
○	『日向記』7〇飫肥本城安堵事		郷土1	194	永禄11年(1568)6月8日※本城	
○	『日向記』7〇分国中城主指事		郷土1	198	永禄11年(1568)頃力	
○	『日向記』10〇祐兵主御入国御供ノ面々		郷土2	169	天正15年(1587)12月13日※本城	
○	『日向記』10〇祐兵主御入国御供ノ面々		郷土2	170	天正16年(1588)閏5月3日	
○	『日向記』6〇伊東相州營無比類事		郷土1	162	天文24年(1555)11月頃※本城	
○	『日向記』6〇伊東相州營無比類事		郷土1	163	(天文24年(1555)カ)12月23日※本城	
○	『日向記』7〇飫肥本城安堵事		郷土1	194	永禄11年(1568)6月8日頃東松尾城	
<b>小山城</b>						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	天文元年(1532)11月27日
○(年月日未詳)	三侯院記〇小山城の項	木輪	2	中2	97	
○	島津国史	旧記雜錄	1371	前2	433	享應3年(1454)頃
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2185	前2	713	天文元年(1532)頃
<b>海江田城</b>						
○(年未詳)7月11日	宗武書状〇小山田家系図	小山田	2-12	中1	465	
○	西藩野史	旧記雜錄	640	前2	188	応永10年(1403)
○	島津恕翁譜	旧記雜錄	703	前2	208	応永10年(1403)
○	島津国史	旧記雜錄	792	前2	235	応永17年(1410)3月21日
○	島津義天久豊譜	旧記雜錄	981	前2	310	応永26年(1419)頃
○	西藩野史	旧記雜錄	992	前2	316	応永31年(1424)
					-317	
○	島津国史	旧記雜錄	1017	前2	324	応永30年(1423)2月頃~
○	島津義天久豊譜	旧記雜錄	1024	前2	327	応永31年(1424)頃
○	島津義天久豊譜	旧記雜錄	1032	前2	330	応永31年(1424)頃
○	応永記	旧記雜錄	1038	前2	332	応永31年(1424)
○天正8年(1580)8月11日	島津義久宛行状〇源助氏	旧記雜錄	1155	後1	660	
○天正8年(1580)11月11日	島津義久宛行状〇源助氏	旧記雜錄	1184	後1	680	
○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事		郷土1	65	応永25年(1418)	
<b>桔木古屋</b>						
○	島津義弘譜	旧記雜錄	451	後1	200	永禄11年(1568)8月9日

## 加久藤城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○元亀3年(1572)3月5日	妙見大菩薩勸請文写	木脇	1-6	中2	80	
○元亀3年(1572)3月5日	妙見大菩薩勸請文写	木脇	1-7	中2	81	
○元亀3年(1572)3月5日	妙見大菩薩勸請文写	木脇	1-8	中2	81	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○元亀3年(1572) 5月4日条	都城島津家	7	中2	822	
○(年月日未詳)	真幸院記○諫訪大明神の項	木脇	1	中2	74	
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	島津国史	旧記録	266	後1	127	永禄7年(1564)11月17日頃
○	島津義弘譜	旧記録	451	後1	200	永禄11年(1568)8月9日
○	島津国史	旧記録	607	後1	260	元亀3年(1572)5月3日~ ~261
○	島津義弘譜	旧記録	620	後1	265	元亀3年(1572)5月4日
○	殉國名載	旧記録	622	後1	266	元亀3年(1572)5月4日
○	笑輪伊賀見書	旧記録	624	後1	268	元亀2年(1571)冬~3年5月4日 ~269
○(元禄10年(1697))4月晦日	加久藤暖達差出	旧記録	625	後1	273	元亀3年(1572)5月4日
○	老岐賀州年代記	旧記録	626	後1	274	元亀3年(1572)5月4日
○	長谷場越前日記	旧記録	676	後1	308	天正元年(1573)頃
○	庄内平治記	旧記録	877	後1	497	元亀3年(1572)5月4日
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○文化2年(1805)正月2日	木崎原合戦記	旧記録	632	後1	281	元亀3年(1572)11月17日頃~ ~287
						※加久藤新城

## 梶山城

○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷久秀の項	北郷	1	中1	172	応永元年(1394)
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	天文元年(1532)11月27日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文2年(1533) 11月条	都城島津家	7	中2	816	天文3年(1534)正月6日
○	西藩野史	旧記録	461	前2	136	応永元年(1394)7月
○	島津国史	旧記録	496	前2	146	明徳4年(1393)11月
○	島津国史	旧記録	509	前2	149	応永元年(1394)2月
○	島津元久譜	旧記録	512	前2	151	明徳5年(1394)3月7日
○	応永記	旧記録	516	前2	152	応永元年(1394)閏4月下旬
○(年月日未詳)	北郷久秀譜	旧記録	518	前2	153	応永元年(1394)春
○	殉國名載	旧記録	521	前2	153	明徳5年(1394)2月17日~
○	島津国史	旧記録	535	前2	156	応永2年(1395)2月27日
○	西藩野史	旧記録	810	前2	246	応永19年(1412)
○	北郷忠相譜	旧記録	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記録	2185	前2	713	天文元年(1532)頃
○	島津国史	旧記録	2187	前2	714	天文3年(1534)閏正月6日
○	庄内平治記	旧記録	2201	前2	720	天文3年(1534)2月16日
○	北郷忠相譜	旧記録	2212	前2	723	天文3年(1534)閏正月7日
○	庄内平治記	旧記録	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』3〇御船炎上鳴山知 行事			郷土1	89	永正元年(1504)
○	『日向記』5〇中尾陣隈谷城兼 捕事			郷土1	142	天文16年(1547)12月13日

## 勝岡城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中 1	179	天文元年(1532)11月27日
○	北郷忠相譜	旧記録	2184	前 2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記録	2185	前 2	713	天文元年(1532)頃
○	島津国史	旧記録	2187	前 2	714	天文3年(1534)閏正月6日
○	庄内平治記	旧記録	2201	前 2	720	天文3年(1534)2月16日
○	北郷忠相譜	旧記録	2212	前 2	723	天文3年(1534)閏正月7日
○	庄内平治記	旧記録	2458	前 2	812	天文12年(1543)頃
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後 1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』4〇三侯御陣并合戦記			郷土1	102	永正17年(1520)7月朔日
○	『日向記』7〇小越合戦并勝利事			郷土1	193	永禄11年(1568)2月21日頃

## 門川城＊「三城」の項参照

○文明6年(1474)8月頃	文明六年三州丸々領主記	都城鳥津家	3	中 2	807	
○建武4年(1337)4月23日	建部清種草軍忠状	池端	6	中 2	65	
○	長谷場越前宗純自記	旧記録	1058	後 1	609	天正6年(1578)霜月13日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後 1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主権事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃
○	『日向記』8〇土持勢門河発向事			郷土1	234	天正5年(1577)正月~2月22日
○	『日向記』8〇土持勢門河発向事			郷土1	235	天正5年(1577)2月22日
○	『日向記』9〇日州帰国評儀事			郷土1	257	天正6年(1578)頃
○	『日向記』9〇豊後勢進發事			郷土1	258	天正6年(1578)2月頃
○	『日向記』9〇於高城大友勢敗北事			郷土1	274	(天正6年(1578))11月12日頃
○	『日向記』3〇三ヶ国家人ノ御教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
○	『日向記』4〇門河対治井祐吉早世事			郷土1	122	(天文4年(1535))12月

## 兼重城

○建武4年(1337)正月10日	建部清種草軍忠状	池端	4	中 2	64	
○建武4年(1337)3月15日	土持重綱見知状	池端	5	中 2	64	
○建武4年(1337)4月23日	建部清道草軍忠状写	林庵	34	中 2	579	
○建武4年(1337)4月29日	長谷場久純草軍忠状	長谷場	3	中 2	591	
○曇応2年(1339)8月27日	建部清道草軍忠状写	林庵	35	中 2	579	
○曇応2年(1339)8月28日	建部清成草軍忠状写	林庵	5	中 2	545	
○曇応2年(1339)8月30日	建部清種草軍忠状	池端	8	中 2	65	
○曇応2年(1339)9月2日	日下部虚連草軍忠状	郡司	20	中 1	49	
○曇応4年(1341)7月23日	畠山直顕注連忠写	林庵	6	中 2	545	
					~546	
○建武4年(1337)正月10日	建部清種草軍忠状○池端	旧記録	1897	前 1	681	建武3年(1336)12月18日
○建武4年(1337)2月22日	藤原兼政軍忠状○柿木平右衛門	旧記録	1902	前 1	682	建武4年(1337)2月21日
○建武4年(1337)3月15日	土持重綱書下○池端	旧記録	1909	前 1	684	建武3年(1336)12月18日
○建武4年(1337)4月23日	林庵清種草軍忠状○池端	旧記録	1921	前 1	687	建武3年(1336)12月18日
○建武4年(1337)4月23日	林庵清道草軍忠状○肝属	旧記録	1922	前 1	688	建武3年(1336)12月18日
○建武4年(1337)4月29日	長谷場久純草軍忠状○長谷場	旧記録	1927	前 1	689	建武3年(1336)12月10日
○	重久篤記	旧記録	2009	前 1	711	延元3年(1338)12月
○曇応2年(1339)8月27日	建部清道草軍忠状	旧記録	2060	前 1	724	曇応元年(1338)7月11日
○曇応2年(1339)8月30日	建部清種草軍忠状○池端	旧記録	2061	前 1	724	建武3年(1336)12月9日~

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○暦応2年(1339)9月5日	重久篤兼草忠状○重久文書雑稿家	旧記録	2063	前1	725	建武3年(1336)12月
○暦応4年(1341)12月20日	島山直顕挙状○池端	旧記録	2140	前1	746	暦応2年(1339)8月
○暦応4年(1341)12月20日	島山直顕挙状○池端	旧記録	2140	前1	746	
○	『日向記』8〇当家与肝付義祀事			郷土1	231	建武(1334~1338)の末
桙山城						
○	鳥津元久譜	旧記録	512	前2	151	明徳5年(1394)頃
○明応4年(1495)林鍾日	閑暇吟	旧記録	1730	前2	566	明応3年(1494)頃
○	軍記	旧記録	1731	前2	567	明応3年(1494)
鎌ヶ倉陣						
○	西蕃野史	旧記録	1558	前2	504	文明16年(1484)
○	鳥津忠昌譜	旧記録	1575	前2	513	文明16年(1484)12月3日
○	鳥津忠昌譜	旧記録	1578	前2	513	文明16年(1484)12月22日
○	文明記	旧記録	1579	前2	513	文明16年(1484)師走3日
○	宅岐賀州年代記	旧記録	174	後1	90	永禄4年(1561)6月
○	『日向記』6〇鎌ヶ倉之御陣事			郷土1	168	永禄4年(1561)5月14日頃
○	『日向記』6〇祇肥本城御知行事			郷土1	170	永禄4年(1561)頃
紙屋城						
○	長谷場越前自記	旧記録	1048	後1	596	天正6年(1578)10月19日頃
○	盛香集	旧記録	1051	後1	598	天正6年(1578)
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主撫事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃
信屋原城						
○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事			後1	61	(年月日未詳)
河南城(山東)						
○天文5年(1536)11月2日	相良潤然(長國)長状写	相良家	27	中2	402	
	【参照】「群書類徧」には「河南城々」とある。					
肝付城						
○「永和2年カ」(1576)11月19日	今川了後書状○種子島	旧記録	360	前2	101	
清武城						
○延文6年(1361)6月29日	一色範親状	土持	15	中1	35	
○貞治3年(1364)10月8日	一色範親状写○源氏大脇系圖寫	大脇	1-5	中1	511	
○貞治4年(1365)8月13日	足利義詮状写○源氏大脇系圖寫	大脇	1-6	中1	512	
○文明6年(1474)8月頃	文明六年三州处々領主記	都城鳥津家	3	中2	807	
○延文6年(1361)6月29日	一色範親状○大田原村新助	旧記録	82	前2	20	
○	鳥津義天久疊譜	旧記録	1032	前2	331	応永31年(1424)頃

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	庄内平治記	旧記録	2390	前2	787	天文9年(1540)
○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事			郷土1	64	応永4年(1397)
○	『日向記』4〇門河対治并祐吉早世事			郷土1	122	(天文4年(1535))正月15日
○	『日向記』4〇能登乱峰起對治事			郷土1	129	天文9年(1540)9月3日頃
○	『日向記』7〇分国中城主據事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』10〇瀧之坊宗盛殺害事			郷土2	172	天正16年(1588)閏5月3日
○	『日向記』12〇糸津提部出頭事			郷土2	233	(年月未詳)
○	『日向記』12〇島津家与數度合戦ノ事			郷土2	269	(慶長5年(1600))10月30日
○	『日向記』13〇大坂冬御陣祐慶主供奉ノ事			郷土2	304	元和元年(1615)8月
<b>木脇城</b>						
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城鳥津家	3	中2	807	
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主據事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
<b>柳間城(南郷)</b>						
○應永2年(1399)8月30日	建部清種軍忠状	池端	8	中2	65	
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城鳥津家	3	中2	806	
○(年月未詳)	北郷家譜等○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月未詳)	野辺氏系図○野辺久盛の項	野辺	31	中2	156	建武(1334~1338)頃
○	鳥津国史	旧記録	1762	前1	645	建武2年(1335)11月26日
○	肝付兼重伝	旧記録	1881	前1	673	建武3年(1336)11月21日~22日
○	建部清種軍忠状○池端	旧記録	2061	前1	724	建武3年(1336)11月20日
○	鳥津国史	旧記録	1559	前2	506	文明16年(1484)11月4日
○	鳥津久逸譜	旧記録	1627	前2	534	文明17年(1485)6月21日
○	鳥津久逸譜	旧記録	1629	前2	534	文明17年(1485)7月2日
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	筑輪伊賀覺書	旧記録	907	後1	511	天正5年(1577)春
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
<b>熊屋(谷)城</b>						
○	鳥津国史	旧記録	2539	前2	839	天文16年(1547)12月13日
○	『日向記』5〇中尾隊隈谷城乗捕事			郷土1	142	天文16年(1547)12月13日
<b>倉岡城</b>						
○	肝付兼氏譜	旧記録	336	前2	95	永和2年(1376)10月
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主據事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』12〇鳥津家与數度合戦ノ事			郷土2	259	(慶長5年(1600))10月3日
○	『日向記』12〇鳥津家与數度合戦ノ事			郷土2	261	(慶長5年(1600))10月5日

## 藏同城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	阿蘇玄与入道墨斎書出	旧記雜錄	281	後2	312	天正15年(1587)
倉底城						
○	殉國名藪	旧記雜錄	699	前2	207	応永10年(1403)
○	島津忠高譜	旧記雜錄	702	前2	208	応永10年(1403)
○	島津国史	旧記雜錄	792	前2	235	応永17年(1410)3月21日
車坂城						
○	殉國名藪	旧記雜錄	979	前2	309	応永26年(1419)3月
○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事			郷土1	65	応永26年(1419)3月
現王城						
○歴応2年(1339)7月8日	大友宗雄軍忠状	志賀	4	中2	253	
○歴応2年(1339)7月11日	島山重顯忠状	森本	2	中2	257	
郷原城						
○	『日向記』5〇郷原日井両城第參事			郷土1	139	天文14年(1545)頃
謹摘舞か辻陣						
○	北郷忠相日記	旧記雜錄	2604	前2	872	天文18年(1549)2月20日~
○	島津国史	旧記雜錄	2605	前2	874	天文18年(1549)4月3日
○	島津忠広譜	旧記雜錄	2618	前2	878	天文18年(1549)4月5日
○	殉國名藪	旧記雜錄	2608	前2	875	天文18年(1549)2月20日~
○	年代記	旧記雜錄	2612	前2	876	天文18年(1549)3月11日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2617	前2	877	天文18年(1549)4月2日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2621	前2	878	天文18年(1549)2月20日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2622	前2	878	天文18年(1549)4月2日
○	瀬戸口伊豆入道覚書	旧記雜錄	2624	前2	880	天文18年(1549)4月頃
○	殉國名藪	旧記雜錄	332	後1	146	永禄9年(1566)8月16日
小林城						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳寧〇天正4年(1576) 8月17日条	都城島津家	7	中2	824	天正4年(1576)8月28日
○(年月日未詳)	三侯院記〇水天の頃	木脇	2	中2	111	
○	島津家久譜	旧記雜錄	64	後2	74	天正13年(1585)秋
○永禄6年(1563)2月23日	島津資久立願条々	旧記雜錄	248	後1	122	
○	箕輪伊賀自記	旧記雜錄	355	後1	155	永禄9年(1566)頃
○	大村重頼古戰書付	旧記雜錄	356	後1	156	永禄9年(1566)10月15日
○	箕輪伊賀自記	旧記雜錄	393	後1	174	永禄9年(1566)
○	箕輪伊賀覚書	旧記雜錄	624	後1	268	元亀2年(1571)以後
○	年代記	旧記雜錄	830	後1	472	天正4年(1576)8月22日
○	肥後合戰陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	666	天正8年(1580)

## 小林西城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	三侯院記〇養島山の項	木篇	2	中2	113	永徳12年(1392)文月11日
酒谷城						
○(年月日未詳)	野辺盛仁所領目録	野辺 都城島津家	20 7	中1 中2	430 819	(長禄頃力)
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永祿5年(1562) 9月17日条	都城島津家	7	中2	821	永祿5年(1562)9月18日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇永祿11年(1562) 6月10日条	都城島津家	7	中2	821	
○(年未詳)正月	北郷家聞書写〇北郷家譜文書写	都城島津家	8-8	中2	836	
○	野辺盛仁所領目録〇野辺	旧記録	710	前1	266	(年月日未詳)
○	島津国史	旧記録	1559	前2	506	文明16年(1484)12月
○	島津忠昌譜	旧記録	1575	前2	512	文明16年(1484)12月3日
○	文明記	旧記録	1579	前2	513	文明16年(1484)師走3日
○	庄内平治記	旧記録	198	後1	103	永祿5年(1562)2月10日
○	島津国史	旧記録	404	後1	179	永祿11年(1568)2月21日
○	北郷忠相譜	旧記録	411	後1	184	永祿11年(1568)2月21日
○	殉國名義	旧記録	416	後1	185	永祿11年(1568)2月21日
○	庄内平治記	旧記録	418	後1	187	永祿11年(1568)正月上旬
○					-104	
○	庄内平治記	旧記録	418	後1	188	永祿11年(1568)6月8日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』6〇鎌ヶ倉之御隊事			郷土1	168	永祿4年(1561)5月14日頃
○	『日向記』6〇豊州衆依手替山			郷土1	176	(年未詳)9月18日
○	東引事			郷土1	193	永祿11年(1568)2月21日頃
○	『日向記』7〇小継合戦並勝利事			郷土1	198	永祿11年(1568)頃
○	『日向記』7〇分国中城主挙事			郷土1	304	元和元年(1615)8月
○	『日向記』13〇大坂冬御陣祐慶主供奉ノ事					
篠ヶ城						
○	北郷時久譜	旧記録	411	後1	183	永祿11年(1568)正月12日
○	庄内平治記	旧記録	418	後1	187	永祿11年(1568)正月12日~
○	『日向記』7〇紙肥入評儀并篠ヶ陣事			郷土1	191	永祿11年(1568)正月21日
○	『日向記』7〇紙肥入評儀并篠ヶ陣事			郷土1	190	永祿10年(1567)12月下旬
佐土原城						
○天正6年(1578)才	川上久辰耳川日記〇天正6年11月11日条	都城島津家	12	中2	865	
○(天正15年(1587))5月26日 【参照】豊臣秀吉朱印状写〇御文書臨乾(都城島津家文書1-28号、中2、764頁)は同文	豊臣秀吉朱印状	島津家	46	中2	435	
○天正15年(1587)5月27日	豊臣秀長書状	水吉島津家	4	中2	657	
○	新納忠元勲功記	旧記録	906	後1	510	天正5年(1577)12月11日
○	島津義久譜	旧記録	1017	後1	554	天正6年(1578)11月
○	島津征久譜	旧記録	1021	後1	557	天正6年(1578)10月20日
○	長谷場越前自記	旧記録	1048	後1	597	天正6年(1578)10月19日頃

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(天正15年(1587)) 5月26日	豊臣秀吉朱印状〇巻本	旧記録	334	後2	338	
○天正15年(1587)5月27日	豊臣秀長書状	旧記録	340	後2	340	
○	島津豈久譜	旧記録	448	後2	387	天正16年(1588)孟夏
○	『日向記』4〇門河対治井祐吉 早世事			郷土1	122	(天文4年(1535))正月6日
○	『日向記』4〇祐清佐土原御入 城事			郷土1	123	(天文5年(1536))7月10日
○	『日向記』4〇祐清侍官途事			郷土1	125	天文6年(1537)12月22日
○	『日向記』7〇分国中城主摘要			郷土1	195	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事			郷土2	259	(慶長5年(1600))10月3日
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事			郷土2	267	(慶長5年(1600))10月頃

### 三 城(塙見・日知屋・門川)

○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月12日条	都城島津家	12	中2	867	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月13日条	都城島津家	12	中2	867	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月14日条	都城島津家	12	中2	868	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月17日条	都城島津家	12	中2	868	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月21日条	都城島津家	12	中2	868	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月23日条	都城島津家	12	中2	868	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11 月24日条	都城島津家	12	中2	868	
○(天正14年(1586)カ)6月16日	島津家久書状	入田	3	中1	126	
○(年月未詳)	入田氏系図〇入田義実の項	入田	20	中1	155	天正14年(1586)カ
○	島津国史	旧記録	905	後1	509	天正5年(1577)12月24日
○	島津国史	旧記録	952	後1	532	天正6年(1578)3月18日
○	島津義久譜	旧記録	1020	後1	556	天正6年(1578)11月3日
○	湯田氏藏旧記〇湯田氏旧記	旧記録	1165	後1	671	天正8年(1580)
○	島津義久譜	旧記録	59	後2	71	天正13年(1585)12月13日
○	島津義久譜	旧記録	106	後2	123	天正13年(1585)11月20日
○(天正14年(1586))6月16日	島津中蕃大輔家久書状	旧記録	146	後2	184	
○	島津義久譜	旧記録	192	後2	237	天正14年(1586)10月18日
○	島津世紀記	旧記録	204	後2	250	天正14年(1586)10月24日頃
○	柳山紹鋸自記	旧記録	227	後2	272	天正15年(1587)
○	柳山忠助譜	旧記録	240	後2	280	天正15年(1587)3月17日頃
○	島津家久譜	旧記録	254	後2	291	天正15年(1587)2月18日~
○	柳山紹鋸自記	旧記録	278	後2	308	天正15年(1587)4月6日
○	島津義久譜	旧記録	318	後2	332	(天正15年(1587))
○	『日向記』4〇武藏守祐武殺害 事	郷土1	118			天文2年(1533)11月22日頃
○	『日向記』8〇土持勢門河發向 事	郷土1	235			天正5年(1577)2月22日
○	『日向記』9〇日州帰國評儀事	郷土1	257			天正6年(1578)頃
○	『日向記』9〇豊後勢進免事	郷土1	259			天正6年(1578)2月
○	『日向記』9〇県土持家退治事	郷土1	259			天正6年(1578)頃

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』9〇県土持家退治事			郷土1	260	(天正6年(1578))3月26日
○	『日向記』9〇新納石城合戦事			郷土1	268	(天正6年(1578))7月頃
○	『日向記』10〇祐兵主本領御安堵事			郷土2	164	天正15年(1587)3月
○	『日向記』10〇祐兵主本領御安堵事			郷土2	165	天正15年(1587)6月11日
しほいり城						
○	壱岐賀州年代記	旧記雜錄	725	後1	330	(年月日未詳)
塙見城 *「三城」の項参照						
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年11月13日条	都城島津家	12	中2	867	
○	長谷場越前宗純自記	旧記雜錄	1058	後1	609	天正6年(1578)霜月13日
○	肥後合戦陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	新納忠元歎功記	旧記雜錄	116	後2	138	天正14年(1586)12月21日
○	島津歳久譜	旧記雜錄	159	後2	194	天正14年(1586)7月2日頃
○	長谷場越前自記	旧記雜錄	245	後2	282	(天正15年(1587))
○	『日向記』3〇三ヶ國家人ノ御教書ヲ屬ル事			郷土1	79	長祿元年(1457)7月19日頃
○	『日向記』7〇分国中城主攝事			郷土1	197	永祿11年(1568)頃カ
○	『日向記』8〇土持勢門河發向事			郷土1	235	天正5年(1577)2月22日
○	『日向記』9〇豊後勢進發事			郷土1	258	天正6年(1578)2月21日
○	『日向記』9〇於高城大友勢敗北事			郷土1	273	(天正6年(1578))11月12日
島津近江守時久城(日向国新納院)						
○文和2年(1353)正月29日	大友氏時代官請文〇道鑑公譯中	旧記雜錄	2464	前1	835	觀応元年(1350)
下城						
○文明6年(1474)頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	805	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	天文元年(1532)11月27日
○	池田氏代年記	旧記雜錄	1504	前2	485	文明7年(1475)3月5日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2185	前2	713	天文元年(1532)頃
○	壱岐賀州年代記	旧記雜錄	762	後1	346	天文元年(1532)11月27日
城ヶ尾(陣力)						
○	『日向記』4〇三侯御陣井合戦事			郷土1	102	永正17年(1520)7月6日頃
白糸城						
○	島津忠翁譜	旧記雜錄	704	前2	209	応永10年(1403)
紫波洲崎城						
○	肥後合戦陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	664	天正8年(1580)

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』3〇妖肥御発向事		郷土1	81	文明12年(1480)	
○	『日向記』4〇能登乱峰起対治事		郷土1	129	天文9年(1540)9月3日頃	
○	『日向記』7〇分国中城主操事		郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ	
○	『日向記』13〇大坂冬御陣祐慶主供奉ノ事		郷土2	304	元和元年(1615)8月	
<b>志和池城</b>						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年未詳)3月16日	伊東尹祐感状	荒武	31	中1	200	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	181	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	181	天文11年(1542)閏3月3日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	182	天文11年(1542)8月20日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	183	天文12年(1543)5月9日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠義・北郷時久三代日帳写〇天文12年(1562)5月9日条	都城島津家	7	中2	817	
○(年月日未詳)	永井家北郷家幕下成功之一巻奥書写	都城島津家	50	中1	408	
○明応4年(1495)林鐘日	闇暎吟	旧記雜錄	1730	前2	565 ~566	明応3年(1494)頃
○	軍記	旧記雜錄	1731	前2	567	明応3年(1494)
○(大水4~5年(1524~25))2月7日	北原久兼書状	旧記雜錄	1998	前2	649	
○	庄内平治記	旧記雜錄	1999	前2	650	大水4~5年(1524~25)頃
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2259	前2	738	天文4年(1535)11月29日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2409	前2	794	天文9年(1540)頃
○	庄内平治記	旧記雜錄	2418	前2	797	天文11年(1542)閏3月3日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2431	前2	803	天文11年(1542)閏3月3日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2433	前2	803	天文11年(1542)6月18日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2435	前2	804	天文11年(1542)8月20日
○	庄内平治記	旧記雜錄	2438	前2	805	天文11年(1542)頃
○	鳥津國史	旧記雜錄	2446	前2	809	天文12年(1543)5月9日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2453	前2	811	天文12年(1543)5月9日
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2454	前2	811	天文12年(1543)5月
○	北郷久慶譜	旧記雜錄	2455	前2	812	天文11年(1542)8月20日
○	北郷久文譜	旧記雜錄	2457	前2	812	天文12年(1543)5月
○	庄内平治記	旧記雜錄	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
					~813	
○	肥後合戦陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇小越合戦并勝利事	郷土1	193			永禄11年(1568)2月21日頃
○	『日向記』12〇庄内逆乱加勢事	郷土2	234			慶長4年(1599)頃
○	『日向記』12〇庄内逆乱加勢事	郷土2	235			慶長4年(1599)7月13日
<b>新宮城(下財部院)</b>						
○建武4年(1337)4月23日	建部清種草忠状	池端	6	中2	65	
○建武4年(1337)4月23日	建部清道草忠状写	林褒	34	中2	579	
○應永2年(1339)8月30日	建部清種草忠状	池端	8	中2	65	
○應永4年(1341)12月20日	島山直顯草忠注進状	池端	10	中2	67	
○	鳥津国史	旧記雜錄	1762	前1	645	建武2年(1335)12月6日
○	肝付兼重伝	旧記雜錄	1881	前1	673	建武3年(1336)12月
○建武4年(1337)4月23日	林褒清種草忠状〇池端	旧記雜錄	1921	前1	687	建武3年(1336)12月6日
○建武4年(1337)4月23日	林褒清道草忠状〇肝付	旧記雜錄	1922	前1	688	建武3年(1336)12月6日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○晋応2年(1339)8月30日 ○晋応4年(1341)12月20日	建部清種軍忠状○池端 畠山直顕舉状○池端	旧記録 旧記録	2061 2140	前1 前1	724 746	建武3年(1336)12月6日
新 城(南郷)						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文16年(1547) 4月15日条	都城島津家	7	中2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文16年(1547) 4月15日条	都城島津家	7	中2	828	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文16年(1547) 9月9日条	都城島津家	7	中2	829	天文16(1547)年霜月18日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文16年(1547) 12月13日条	都城島津家	7	中2	817	
○	庄内平治記	旧記録	2540	前2	839	天文16年(1547)7日晦日
○	北郷時久譜	旧記録	2541	前2	840	天文16年(1547)11月18日
○	庄内平治記	旧記録	2598	前2	867	天文17年(1548)11月5日頃
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	870	天文12年(1543)正月22日
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	871	天文16年(1547)4月15日
○	島津国史	旧記録	2539	前2	839	天文16年(1547)11月22日
○	『日向記』3〇沃肥御発向事			郷土1	79	文明12年(1480)頃
○	庄内平治記	旧記録	2540	前2	839	天文16年(1547)11月18日
○	北郷時久譜	旧記録	2541	前2	840	天文16年(1547)4月15日
新 城(大明寺村)						
○(年月日未詳)	真幸院記○諏訪大明神の項	木牘	1	中2	74	
新 城(川北村)						
○(年月日未詳)	真幸院記○(川北村)新城の項	木牘	1	中2	83	
須木城						
○	新納忠元歎功記	旧記録	850	後1	478	天正4年(1576)8月23日以後
○	島津義弘譜	旧記録	862	後1	487	天正4年(1576)8月23日
○	長谷場宗純自記	旧記録	879	後1	500	天正4年(1576)8月
○	肥後合陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主指事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
瀬平城(陣)						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文11年(1542) 条	都城島津家	7	中2	817	
○	『日向記』5〇義祐沃肥陣思食 立事			郷土1	134	天文10年(1541)10月18日
○	『日向記』7〇分国中城主指事			郷土1	199	永禄11年(1568)頃カ
曾井城						
○延文6年(1361)6月29日	一色範綱感状	土持	15	中1	35	

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○文明6年(1474)8月頃カ ○延文6年(1361)6月29日	文明六年三州処々領主記 一色範成感状〇大田原村新助	都城鳥津家 旧記雜錄	3 82	中2 前2	807 20	
○	西藩野史	旧記雜錄	810	前2	244	応永19年(1412)
○	殉國名義	旧記雜錄	885	前2	267	応永19年(1412)
○	肥後合戰陣立日記	旧記雜錄	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事			郷土1	65	応永19年(1412)9月25日
○	『日向記』3〇祐安所々御退件事			郷土1	70	文安元年(1444)11月25日・12月3日
○	『日向記』4〇門河対治并祐吉早世事			郷土1	122	(天文4年(1535))正月12日
○	『日向記』4〇能登乱蜂起對治事			郷土1	129	天文9年(1540)9月3日頃
○	『日向記』7〇分国中城主據事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』10〇祐兵主本領御安堵事			郷土2	165	天正15年(1587)3月
○	『日向記』10〇祐兵主本領御安堵事			郷土2	165	天正15年(1587)6月11日
○	『日向記』10〇滝之坊宗盛殺害事			郷土2	171	天正16年(1588)3月頃
○	『日向記』10〇三十六人逆徒追伐事			郷土2	181	天正16(1588)~18年頃
○	『日向記』13〇大坂冬御陣祐慶主供奉ノ事			郷土2	304	元和元年(1615)8月
曾根山墨						
○	鳥津国史	旧記雜錄	1017	前2	324	応永30年(1423)2月頃
大明司古墨						
○	鳥津義弘譜	旧記雜錄	451	後1	200	永禄11年(1568)8月9日
高浮田城						
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状写〇新編作姓肝属氏系譜	予章館	3	中1	476	
○	肝付兼重譜	旧記雜錄	1767	前1	647	建武3年(1336)正月10日頃
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄軍忠状〇大田原村新助	旧記雜錄	1776	前1	649	建武3年(1336)正月14日
○	『日向記』2〇依西宮方蜂起祐持日向下向事			郷土1	39	建武3年(1336)正月14日
高岡城						
○(年月日未詳)	入田氏系図〇入田氏輝の項	入田	20	中1	149	慶長5年(1600)
○(年月日未詳)	入田氏系図〇入田義元の項	入田	20	中1	152	
○(年月日未詳)	入田氏系図〇入田鎮氏の項	入田	20	中1	157	
○(年月日未詳)	入田氏系図〇入田氏隆の項	入田	20	中1	159	
高佐城						
○	庄内平治記	旧記雜錄	2622	前2	879	天文18年(1549)4月3日

## 高障子の跡

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	872	天文18年(1549)4月2日~
高城(新納院)						
○(年月未詳)	伊東氏系図添状	定善寺	89	中1	625	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記○天正6年11月4日条	都城島津家	12	中2	863	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記○天正6年11月5日条	都城島津家	12	中2	863	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記○天正6年11月6日条	都城島津家	12	中2	863	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記○天正6年11月10日条	都城島津家	12	中2	864	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記○天正6年11月11日条	都城島津家	12	中2	865	
○	島津国史	旧記録	2209	前1	766	觀応元年(1350)8月18日
○	上野隼人党書	旧記録	886	後1	503	天正4年(1576)12月
○	島津国史	旧記録	952	後1	533	天正6年(1578)10月5日~
○	殉國名義	旧記録	954	後1	535	天正6年(1578)10月11日~
○	島津義久譜	旧記録	1010	後1	551	天正6年(1578)10月20日~
○	島津義弘譜	旧記録	1011	後1	552	天正6年(1578)10月20日~
○	島津家久譜	旧記録	1012	後1	553	天正6年(1578)10月20日~
○	北郷時久譜	旧記録	1013	後1	553	天正6年(1578)10月中旬
○	新納忠元歎功記	旧記録	1015	後1	553	天正6年(1578)10月
○	島津義久譜	旧記録	1020	後1	555	天正6年(1578)11月10日~
○	島津征久譜	旧記録	1021	後1	556	天正6年(1578)10月20日
					-557	
○	島津以久譜	旧記録	1022	後1	557	天正6年(1578)10月22日
○	島津忠長譜	旧記録	1023	後1	557	天正6年(1578)冬
○	柳山規久譜	旧記録	1026	後1	558	天正6年(1578)10月20日
○	島津義久譜	旧記録	1034	後1	560	天正6年(1578)10月20日
○天正6年(1578)11月	耳川合戦従軍者文名	旧記録	1038	後1	562	天正6年(1578)11月
					-563	
○	庄内平治記	旧記録	1046	後1	591	(天正6年(1578))10月19日~
					-592	
○	長谷場越前自記	旧記録	1048	後1	596	天正6年(1578)10月19日~
○	桜山経照自記	旧記録	1050	後1	597	天正6年(1578)10月~
					-598	
○	盛香集	旧記録	1051	後1	598	天正6年(1578)
○	盛香集	旧記録	1052	後1	598	(天正6年(1578))
○	庄内平治記	旧記録	1055	後1	600	天正6年(1578)11月10日頃~
					-602	
○	友野元真奉公覚書	旧記録	1057	後1	609	(天正6年(1578))
○	長谷場越前宗純自記	旧記録	1058	後1	609	天正6年(1578)霜月11日~
					-611	
○	勝部兵右衛門聞書	旧記録	1061	後1	614	天正6年(1578)11月3日~
					-623	
○	大村重頼古戰書付	旧記録	1063	後1	626	天正6年(1578)11月
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	年代記	旧記録	1082	後1	635	天正7年(1579)
○	新納忠元歎功記	旧記録	116	後2	138	天正14年(1586)10月~
○	島津家久譜	旧記録	254	後2	291	天正15年(1587)3月19日
○	長谷場越前自記	旧記録	265	後2	295	天正15年(1587)4月6日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	柳山紹剣自記	旧記録	278	後2	308	天正15年(1587)4月6日
○	新納忠元譜	旧記録	282	後2	314	天正15年(1587)4月21日
○	島津忠憲譜	旧記録	285	後2	315	天正15年(1587)4月6日
○	島津義久譜	旧記録	293	後2	321	天正15年(1587)4月6日
					-322	
○	島津義弘譜	旧記録	295	後2	324	天正15年(1587)4月6日
○	島津家久譜	旧記録	297	後2	325	天正15年(1587)4月6日
○	島津忠長譜	旧記録	298	後2	321	天正15年(1587)4月6日
○	北郷一雲譜	旧記録	315	後2	330	天正15年(1587)4月
○	新納忠元勲功記	旧記録	413	後2	371	天正15年(1587)4月21日
○	「日向記」3〇三ヶ国家人ノ御 教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
○	「日向記」7〇分国中主惣事			郷土1	195	永禄11年(1568)頃カ
○	「日向記」9〇高城陣井放火事			郷土1	271	(天文6年(1578))10月20日
○	「日向記」10〇祐兵主本領御安 堵事			郷土2	164	天正15年(1587)3月

### 高城(三侯院)

○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州廻々領主記	都城島津家	3	中2	805	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	178	享禄3年(1530)~
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	天文3年(1534)閏正月6日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	181	天文10年(1541)6月26日
○(年月日未詳)	三侯院記〇三侯ハツの外城の項	木脇	2	中2	106	
○	肝付兼重伝	旧記録	1895	前1	680	延元2年(1337)正月14日~
○	島津国史	旧記録	1994	前1	706	暦応元年(1338)8月13日
					-707	
○	肝付兼重伝	旧記録	1881	前1	673	建武3年(1336)12月9日
○	島津国史	旧記録	1893	前1	676	建武4年(1337)正月10日~
○	西瀬野史	旧記録	461	前2	135	応永元年(1394)
○	軍記	旧記録	1731	前2	567	明応3年(1494)
○	庄内平治記	旧記録	2410	前2	795	天文10年(1541)6月16日
○	北郷忠相譜	旧記録	2409	前2	794	天文9年(1540)頃
○	殉國名載	旧記録	2412	前2	795	天文10年(1541)6月16日
○	庄内平治記	旧記録	2438	前2	804	天文11年(1542)8月頃~
○	肝付兼重伝	旧記録	2055	前1	722	暦応2年(1339)8月13日~
					-723	
○	重久萬葉譜	旧記録	2062	前1	725	暦応2年(1339)8月13日
○	西瀬野史	旧記録	2114	前2	688	享禄2年(1529)3月
○	北郷忠相譜	旧記録	2212	前2	723	天文3年(1534)閏正月6日
○	北郷忠相日記	旧記録	2231	前2	729	天文3年(1534)閏正月6日
○	殉國名載	旧記録	2434	前2	803	天文11年(1542)8月19日
○	庄内平治記	旧記録	2448	前2	810	天文11年(1542)5月頃
○	北郷忠相譜	旧記録	2453	前2	811	天文12年(1543)5月9日
○	庄内平治記	旧記録	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	869	天文11年(1542)5月6日
○	北郷忠相譜	旧記録	104	後1	57	永禄2年(1559)11月16日
○	北郷氏庶流系図抄	旧記録	107	後1	59	永禄元年(1558)3月19日
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天文8年(1580)
○	島津氏久譜	旧記録	4	前2	2	延文2年(1357)頃
○	若狭賀州年代記	旧記録	762	後1	346	天文元年(1532)11月27日
○	島津国史	旧記録	1344	前2	424	建武4年(1337)1月6日
○	島津国史	旧記録	2584	前2	785	天文10年(1541)正月12日
○	島津国史	旧記録	2187	前2	714	天文3年(1534)閏正月6日
○	北郷持久譜	旧記録	1351	前2	429	享徳2年(1453)4月29日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	島津國史	旧記雜錄	2172	前2	710	天文元年(1532)7月頃
○	庄内平治記	旧記雜錄	2185	前2	713	天文元年(1532)頃
○	重久篤兼譜	旧記雜錄	1780	前1	650	建武3年(1336)
○	『日向記』7○小越合戦并勝利事			郷土1	193	永禄11年(1568)2月21日
○	『日向記』4○依藤動三侯城被捨事			郷土1	120	(天文2年(1533))12月15日頃
<b>高城(穆佐院)</b>						
○	西藩野史	旧記雜錄	810	前2	245	応永19年(1412)
○	島津忠翁譜	旧記雜錄	704	前2	209	応永10年(1403)
○	島津忠国系図	旧記雜錄	705	前2	209	応永10年(1403)5月2日
○	西藩野史	旧記雜錄	1089	前2	345	応永10年(1403)5月
○	島津國史	旧記雜錄	792	前2	235	応永17年(1410)3月21日
○	島津義天久豊譜	旧記雜錄	819	前2	247	応永18年(1411)頃
○	島津久豊譜	旧記雜錄	883	前2	266	応永19年(1412)9月25日
○	殉国名鑑	旧記雜錄	885	前2	267	応永19年(1412)9月25日
○	島津義天久豊譜	旧記雜錄	1032	前2	330	応永31年(1424)頃
○	西藩野史	旧記雜錄	810	前2	245	応永19年(1412)峯西城
○	島津國史	旧記雜錄	866	前2	262	応永19年(1412)9月25日峯西城
<b>高原城</b>						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月日未詳)	谷口宮内左衛門忠状(断簡)	都城島津家	183	中2	751	天正4年(1576)8月19日
○	○三国筆宛					
○	庄内平治記	旧記雜錄	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	島津國史	旧記雜錄	828	後1	470	天正4年(1576)8月~9月
○					~471	
○	新納忠元歎功記	旧記雜錄	850	後1	478	天正4年(1576)8月
○	島津義久譜	旧記雜錄	861	後1	483	天正4年(1576)8月~
○					~485	
○	島津義弘譜	旧記雜錄	862	後1	485	天正4年(1576)8月
○					~487	
○	島津家久譜	旧記雜錄	863	後1	487	天正4年(1576)8月19日
○	島津忠長譜	旧記雜錄	864	後1	487	天正4年(1576)8月
○	島津征久譜	旧記雜錄	865	後1	487	天正4年(1576)8月19日
○	北郷時久譜	旧記雜錄	866	後1	488	天正4年(1576)8月19日~
○(年月日未詳)	高原城攻出陣跡	旧記雜錄	870	後1	489	天正4年(1576)8月
○(年月日未詳)	高原城合戦從軍者交名	旧記雜錄	872	後1	489	天正4年(1576)8月19日
○	殉国名鑑	旧記雜錄	873	後1	490	天正4年(1576)8月19日
○	高原城攻之記	旧記雜錄	874	後1	491	天正4年(1576)8月19日~
○					~492	
○	肝付氏略伝	旧記雜錄	876	後1	496	天正4年(1576)8月19日
○	庄内平治記	旧記雜錄	877	後1	497	天正4年(1576)8月19日~
○					~498	
○	長谷場宗純自記	旧記雜錄	879	後1	499	天正4年(1576)8月19日
○					~500	
○	谷口宮内左衛門覚書	旧記雜錄	880	後1	500	天正4年(1576)8月19日
○	箕輪伊賀覺書	旧記雜錄	881	後1	501	天正4年(1576)8月頃~
○	友野甲斐入道奉公覚	旧記雜錄	882	後1	502	天正4年(1576)8月頃
○	島津義弘譜	旧記雜錄	935	後1	522	天正5年(1577)
○	庄内平治記	旧記雜錄	944	後1	526	天正5年(1577)
○	島津義久譜	旧記雜錄	947	後1	528	天正5年(1577)12月9日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○ ○ ○	某書状案 『日向記』7〇分国中城主摘要 『日向記』8〇真幸口四ヶ所摘要	旧記録	1126	後1 郷土1 郷土1	648 197 233	天正8年(1580) 永禄11年(1568)頃 天正4年(1576)8月
高原山ノ陣 ○	『日向記』6〇鎌ヶ倉之御陣事			郷土1	168	永禄4年(1561)5月14日頃
財部城						
○(年月日未詳) ○(年月日未詳) ○文明6年(1474)8月頃カ ○天正6年(1578)頃カ	財部大明神縁起〇土持直綱の項 財部大明神縁起〇土持直綱の項 文明六年三州処々領主記 川上久辰耳川日記〇天正6年11月11日条	高瀬町立図書館 高瀬町立図書館 都城島津家 都城島津家	1 1 3 12	中1 中1 中2 中2	778 779 807 864	応安5年(1372) 応安5年(1372) 長禄元年(1457)7月19日 天正6年(1578)霜月10日
○ ○ ○ ○ ○ ○	長谷場越前宗純自記 肥後合戦陣立日記 『日向記』3〇三ヶ国家人ノ御教書ヲ羅ル事 『日向記』4〇武藏守祐武教書事 『日向記』7〇分国中城主摘要 『日向記』8〇依福永進心没落事	旧記録 旧記録	1058 1163	後1 後1 郷土1 郷土1 郷土1 郷土1	609 665 79 117 195 238	天正8年(1580) 長禄元年(1457)7月19日 天文2年(1533)11月22日頃 永禄11年(1568)頃 天正5年(1577)12月頃
多古城 ○	島津国史	旧記録	2187	前2	714	(年月日未詳)
竹篠城 ○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
田島城 ○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
田代城 ○ ○	島津家久譜 『日向記』3〇三ヶ国家人ノ御教書ヲ羅ル事	旧記録	64	後2 郷土1	74 79	天正13年(1585)秋 長禄元年(1457)7月19日頃
田野城 ○晉応2年(1339)5月9日 ○文明6年(1474)8月頃カ ○ ○ ○ ○	足利直義感状 文明六年三州処々領主記 北郷時久譜 庄内平治記 肥後合戦陣立日記 『日向記』7〇分国中城主摘要	小串 都城島津家 旧記録 旧記録 旧記録	3 3 866 877 1163	中2 中2 後1 後1 後1 郷土1	260 807 488 498 664 196	天正4年(1576)9月8日 天正4年(1576)9月3日 天正8年(1580) 永禄11年(1568)頃

## 田上城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年未詳)6月9日	島津道羅(貞久)書状	相良家	19	中2	390	
土持三ヶ名之トリデ ○	『日向記』3〇祐安祐立御陣之事			郷土1	61	(年月日未詳)
坪屋城						
○	長谷場越前宗純自記	旧記録	1058	後1	611	天正6年(1578)霜月13日
○	勝部兵右衛門聞書	旧記録	1061	後1	622	天正6年(1578)11月13日頃
○	『日向記』7〇分国中城主権事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
鉢の城						
○	西蕃野史	旧記録	992	前2	316	応永31年(1424)
○	島津国史	旧記録	1017	前2	324	応永30年(1423)2月頃
○	島津義天久豊譜	旧記録	1024	前2	327	応永31年(1424)頃
東光寺城						
○	壱岐賀州年代記	旧記録	86	後1	48	弘治3年(1557)3月12日~9月20日
東長寺城						
○	『日向記』12〇島津家与數度合戦ノ事			郷土2	259	(慶長5年(1600))10月3日
○	『日向記』12〇島津家与數度合戦ノ事			郷土2	261	(慶長5年(1600))10月5日
渡河城						
○(年未詳)8月10日	伊東義賢書状	山田	3	中1	340	
徳満城						
○(年月日未詳)	真幸院記	木誌	1	中2	70	応永年間(1394~1428)
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	806	
○弘治3年(1557)霜月22日	坂野創大明神本仏銘文写〇真幸院記	木誌	1-3	中2	75	
○(年月日未詳)	真幸院記〇加久藤の項	木誌	1	中2	80	
○(年月日未詳)	真幸院記〇平野阿弥陀堂の項	木誌	1	中2	83	
○(年月日未詳)	真幸院記〇徳満城の項	木誌	1	中2	83	天正以後(1573~)
○	西蕃野史	旧記録	461	前2	135	応永2年(1395)
○	島津国史	旧記録	1088	前2	345	永享2年(1430)11月朔日
○	西蕃野史	旧記録	1089	前2	345	永享2年(1430)
○	殉国名義	旧記録	1100	前2	349	永享2年(1430)11月朔日
○	島津久林譜	旧記録	1101	前2	349	永享2年(1430)11月1日
○弘治3年(1557)霜月22日	坂野創大明神本仏裏書	旧記録	95	後1	54	
○	島津国史	旧記録	193	後1	101	永禄5年(1562)5月
○	島津義弘譜	旧記録	215	後1	111	永禄5年(1562)頃

## 戸崎城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	鳥津義久譜	旧記録	861	後1	484	天正4年(1576)8月23日
○	鳥津国史	旧記録	905	後1	509	天正5年(1577)12月8日
○	鳥津義弘譜	旧記録	935	後1	523	天正5年(1577)12月8日頃
○	庄内平治記	旧記録	944	後1	527	天正5年(1577)12月8日
○	鳥津義久譜	旧記録	947	後1	528	天正5年(1577)12月8日
					~529	
○	『日向記』7〇分国中城主摘要			郷土1	197	永禄11年(1568)頃力
○	『日向記』8〇真幸口四ヶ所摘要			郷土1	234	天正4年(1576)8月
○	『日向記』8〇依福永逆心没落事			郷土1	238	天正5年(1577)12月頃

## 都於郡城

○文明6年(1474)8月頃力	文明六年三州丸々領主記	都城鳥津家	3	中2	807	
○	新納忠勝閱書(天文4年)	旧記録	2261	前2	739	(年月日未詳)
○	鳥津国史	旧記録	952	後1	533	天正6年(1578)10月24日
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	『日向記』2〇依西國官方蜂起 祐持日向下向事			郷土1	38	建武2年(1335)頃
○	『日向記』3〇祐重南北御合戰 忠節并死去事			郷土1	56	永和2年(1376)3月15日頃
○	『日向記』3〇長倉若州垂水但 州切腹事			郷土1	91	永正7年(1510)頃
○	『日向記』4〇守護方若輩方争 論ノ事			郷土1	113	享禄4年(1531)6月下旬
○	『日向記』7〇分国中城主摘要			郷土1	195	永禄11年(1568)頃力
○	『日向記』7〇御代々覚書事			郷土1	212	(年月日未詳)

## 富ヶ峯

○	鳥津国史	旧記録	2539	前2	839	天文16年(1547)7月20日
---	------	-----	------	----	-----	------------------

## 鳥越城(陣)

○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文11年(1542) 8月20日条	都城鳥津家	7	中2	816	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天正4年(1576) ? 月4日条	都城鳥津家	7	中2	825	
○	北郷忠相日記	旧記録	2231	前2	729	天文2年(1533)
○	北郷忠相譜	旧記録	2447	前2	809	天文12年(1543)頃
○	庄内平治記	旧記録	2448	前2	810	天文11年(1542)頃
○	『日向記』4〇門河対治井祐吉 早世事			郷土1	122	(天文4年(1535))12月15日

## 富田城

○	鳥津国史	旧記録	905	後1	509	天正5年(1577)12月9日
○	鳥津義弘譜	旧記録	935	後1	523	天正5年(1577)12月9日頃
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	『日向記』4〇祐清佐土原御入 城事			郷土1	123	(天文5年(1536))7月10日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』7〇分国中城主攝事			郷土1	195	永禄11年(1568)頃カ
那賀城						
○	『日向記』7〇分国中城主攝事			郷土1	195	永禄11年(1568)頃カ
中ノ尾陣						
○	岩岐賀州年代記	旧記雜錄	117	後1	64	永禄元年(1558)12月23日頃
那佐木城						
○	『日向記』7〇分国中城主攝事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
南郷城						
○	島津国史	旧記雜錄	1559	前2	506	文明16年(1484)12月3日
○	殉國名義	旧記雜錄	1568	前2	510	文明16年(1484)12月3日
○	島津忠昌譜	旧記雜錄	1575	前2	512	文明16年(1484)12月3日
○	文明記	旧記雜錄	1579	前2	513	文明16年(1484)師走3日
○	佐多忠山譜	旧記雜錄	1582	前2	514	文明16年(1484)冬
○	庄内平治記	旧記雜錄	2540	前2	839	天文16年(1547)11月22日
○	殉國名義	旧記雜錄	2561	前2	846	天文16年(1547)11月22日
○	庄内平治記	旧記雜錄	418	後1	187	永禄11年(1568)正月上旬
○	『日向記』13〇大坂冬御陣花慶 主供奉ノ事			郷土2	304	元和元年(1615)8月
新名城						
○	『日向記』3〇三ヶ国家入ノ御 教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
新山城						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文16年(1547) 9月9日条	都城島津家	7	中2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文16年(1547) 9月9日条	都城島津家	7	中2	829	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文17年(1548) 7月7日条	都城島津家	7	中2	829	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文17年(1548) 12月4日条	都城島津家	7	中2	818	天文17年(1548)12月5日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文17年(1548) 12月7日条	都城島津家	7	中2	818	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇天文18年(1549) 霜月5日条	都城島津家	7	中2	829	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写〇弘治3年(1557) 6月16日条	都城島津家	7	中2	818	

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○永祿元年(1558) 11月5日条	都城鳥津家	7	中2	818	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○永祿7年(1564) 3月16日条	都城鳥津家	7	中2	819	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○永祿8年(1564) 2月19日条	都城鳥津家	77	中2	819	文明18年(1486)冬
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○永祿8年(1565) 5月朔日条	都城鳥津家	7	中2	820	
○	島津国史	旧記録	1559	前2	506	文明16年(1484)11月28日
○	島津忠昌譜	旧記録	1573	前2	511	文明16年(1484)11月28日
○	文明記	旧記録	1574	前2	511	文明16年(1484)霜月28日
○	知覧氏系図	旧記録	1663	前2	541	文明18年(1486)冬
○	庄内平治記	旧記録	2540	前2	839	天文16年(1547)9月
○	島津国史	旧記録	2564	前2	848	天文17年(1548)11月5日
○	殉国名義	旧記録	2575	前2	852	天文17年(1548)11月5日~12月4日
○	北郷時久譜	旧記録	2597	前2	867	天文17年(1548)11月5日~
○	庄内平治記	旧記録	2598	前2	867	天文17年(1548)11月5日
○	庄内平治記	旧記録	2598	前2	868	天文17年(1548)12月4日
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	871	天文16年(1547)9月9日~
○					-872	
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	872	天文16年(1547)霜月5日
○	殉国名義	旧記録	65	後1	37	弘治3年(1557)6月16日
○	庄内平治記	旧記録	85	後1	48	弘治3年(1557)6月16日
○	壱岐賀州年代記	旧記録	86	後1	48	弘治3年(1557)6月16日
○	島津国史	旧記録	97	後1	55	永祿元年(1558)11月4日
○	殉国名義	旧記録	105	後1	58	永祿元年(1558)11月4日~5日
○	北郷時久譜	旧記録	115	後1	64	永祿元年(1558)11月5日
○	庄内平治記	旧記録	116	後1	64	永祿元年(1558)11月5日
○	壱岐賀州年代記	旧記録	117	後1	64	永祿元年(1558)11月4日~
○	島津国史	旧記録	309	後1	138	永祿8年(1565)5月朔日
○	殉国名義	旧記録	313	後1	139	永祿8年(1565)5月朔日
○	『日向記』5〇井手尾合戦付相撲事			郷土1	146	天文18年(1549)3月3日
○	『日向記』5〇井手尾合戦付相撲事			郷土1	147	天文18年(1549)3月3日頃
○	『日向記』5〇中尾陣敗北山東引事			郷土1	147	天文18年(1549)頃
○	『日向記』6〇古市時任作雍井合戦事			郷土1	158	天文24年(1555)7月7日
○	『日向記』6〇古市時任作雍井合戦事			郷土1	160	天文24年(1555)11月
○	『日向記』6〇古市時任作雍井合戦事			郷土1	160	天文24年(1555)11月4日
○	『日向記』6〇伊東相州誓無比類事			郷土1	162	天文24年(1555)11月頃
○	『日向記』6〇肝付省道軍井放火事			郷土1	164	永祿元年(1558)頃
○	『日向記』6〇新肥木城御知行事			郷土1	170	永祿4年(1561)頃
○	『日向記』6〇野伏井美々田合戦事			郷土1	183	永祿10年(1567)正月下旬

新山外屋の尾崎

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	島津義久譜	旧記録	947	後1	528 ~529	天正5年(1577)12月9日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	新納忠元譜	旧記録	282	後2	314	天正15年(1587)5月19日
○	新納忠元勲功記	旧記録	413	後2	372	天正15年(1587)5月19日
<b>野々美谷城</b>						
○(年月未詳)	北郷家家譜写○北郷久秀の項	北郷	1	中1	172	応永元年(1394)3月7日
○応永元年(1394)7月8日カ	島津元久書状写	祐義	15	中2	552	
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	805	
○(年月未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	天文元年(1532)11月27日
○(年月未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	182	天文11年(1542)12月16日
○(年月未詳)	源氏大脇系図写○大脇利為の項	大脇	1	中1	518	慶長4年(1599)12月8日
○	山田聖榮自記	旧記録	362	前2	101	正安2年(1300)頃カ
○	西藩野史	旧記録	461	前2	136	応永元年(1394)7月
○(応永元年(1394))7月8日	島津元久書状	旧記録	504	前2	148	
○	島津国史	旧記録	509	前2	150	応永元年(1394)7月5日
○	島津元久譜	旧記録	512	前2	151	明徳5年(1394)7月下旬
○	応永記	旧記録	517	前2	152	応永元年(1394)閏4月下旬
○	北郷久秀譜	旧記録	518	前2	153	応永元年(1394)3月7日頃~
○明応4年(1495)林達日	南暎吟	旧記録	1730	前2	566	明応3年(1494)頃
○	島津国史	旧記録	1963	前2	639	大永3年(1523)4月9日~
○	北郷忠相譜	旧記録	1988	前2	646	大永3年(1523)11月頃
○	殉國名鑑	旧記録	1992	前2	647	大永3年(1523)11月8日
○	北郷忠相譜	旧記録	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記録	2185	前2	713	天文元年(1532)頃
○	北郷忠相譜	旧記録	2447	前2	809	大永3年(1523)~天文11年(1542)12月16日
○	庄内平治記	旧記録	2448	前2	810	大永3年(1523)~天文11年(1542)12月16日
○	庄内平治記	旧記録	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
○	庄内平治記	旧記録	116	後1	64	大永3年(1523)
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』4〇祐充公家督婚礼付大追物事			郷土1	106	大永4年(1524)5月5日
<b>野辺ヶ城</b>						
○(年月未詳)	野辺氏系図○野辺久盛の項	野辺	31	中2	156	
○永和2年(1376)8月19日	今川了後書状○藤野	旧記録	353	前2	99	
<b>野別府城</b>						
○	『日向記』3〇三ヶ国家人ノ御教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
<b>野別府カミ城</b>						
○	『日向記』3〇於紙肥祐国御戦死事			郷土1	82	文明17年(1485)2月
<b>浜城(田野別府)</b>						
○	日下部盛連单忠状	郡司	20	中1	49	

## 播磨城

史料年月日	史 料 名	文書名	史料	刊本	頁	備 考
○(年月日未詳)	真幸院記○播磨ヶ城の項	木脇	1	中2	80	天正18年(1590)
日知屋城(三城の項参照)						
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○(天正6年(1578)カ)5月3日	大友義統感状	薬師寺	1	中2	227	
○(天正6年(1578)頃)5月4日	大友義統感状	志手	1	中2	218	
○天正6年(1578)8月1日	木上宗閑書状	相良家	37	中2	406	
○慶長8年(1603)7月4日	日満書写由緒書	定善寺	47	中2	596	
○	長谷場越前宗絶自記	旧記録	1058	後1	609	天正6年(1578)霜月13日
○	肥後合戰陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』3〇三ヶ家人ノ御 教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
○	『日向記』7〇分国中城主撰事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』8〇土持勢門河發向 事			郷土1	235	天正5年(1577)2月22日
姫木城						
○	島津国史	旧記録	1762	前1	644	建武2年(1335)5月5日
○	肝付兼重伝	旧記録	1845	前1	663	建武3年(1336)5月5日
○建武3年(1336)6月 日	柿木原政家軍忠状〇柿木原平右 衛門	旧記録	1855	前1	667	
平賀城						
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○	『日向記』3〇大造物并祐安逝 去事			郷土1	68	永享4年(1432)7月14日頃
平野城						
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年10 月25日条	都城島津家	12	中2	862	天正6年(1578)10月23日
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年10 月26日条	都城島津家	12	中2	862	
○	島津国史	旧記録	952	後1	533	天正6年(1578)10月23日
福島城						
○	島津氏譜	旧記録	1562	前2	508	文明16年(1484)10月頃
○	庄内平治記	旧記録	198	後1	104	永禄5年(1562)9月17日
○	庄内平治記	旧記録	329	後1	146	永禄9年(1566)7月17日
○	肝付兼伝	旧記録	876	後1	497	天正4年(1576)10月
○	箕輪伊賀覚書	旧記録	907	後1	511	天正5年(1577)春
穗北城						
○弘治2年(1556)6月吉日	土田帳写	予章館	6	中1	496	
○	長谷場越前自記	旧記録	940	後1	524	天正5年(1577)
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	665	天正8年(1580)
○	『日向記』7〇分国中城主撰事			郷土1	195	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』8〇依福永逆心没落 事			郷土1	239	天正5年(1577)12月頃

## 細江城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	西藩野史	旧記録	640	前2	189	応永10年(1403)
○	殉國名歎	旧記録	699	前2	207	応永10年(1403)
○	島津忠義譜	旧記録	704	前2	209	応永10年(1403)
○	島津国史	旧記録	792	前2	235	応永17年(1410)3月21日頃
○	『日向記』3〇祐典所々御退治事	郷土1		71		文安3年(1446)6月22日

## 北郷城

○	山田聖栄自記	旧記録	362	前2	101	正安2年(1300)頃カ
---	--------	-----	-----	----	-----	--------------

## 本城(本庄)

○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○天正6年(1578)頃カ	川上久辰耳川日記〇天正6年10月25日条	都城島津家	12	中2	862	天正6年(1578)10月23日
○	老岐賀州年代記	旧記録	762	後1	346	天文元年(1532)12月15日
○	長谷川越前自記	旧記録	940	後1	525	天文5年(1536)12月10日
○	島津義久譜	旧記録	947	後1	529	天文5年(1536)12月9日
○	『日向記』7〇分国中城主攝事	郷土1	196			永禄11年(1568)頃カ

## 真幸城

○	山田聖栄自記	旧記録	362	前2	101	正安2年(1300)頃カ
---	--------	-----	-----	----	-----	--------------

## 真幸大明神の城

○(年月未詳)	真幸院記〇大明神ノ城の項	木篇	1	中2	80	永禄5年(1562)5月
---------	--------------	----	---	----	----	--------------

## 松尾城

○(天正6年(1578)カ)卯月15日	某感状写(後次)	清田	1	中2	214	
---------------------	----------	----	---	----	-----	--

## 松尾城(三俣城)

○(年月未詳)	三俣院記〇三俣ハツの外城	木篇	2	中2	105	
○(年月未詳)	北郷家家譜〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	
○	北郷忠相譜	旧記録	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記録	2185	前2	713	天文元年(1532)頃

## 松原城

○	庄内平治記	旧記録	1055	後1	600	天正6年(1578)11月10日頃
---	-------	-----	------	----	-----	-------------------

## 馬関田城

○(年未詳)8月21日	加賀守房成書状写	袴渡	16	中2	552	
○(年未詳)8月22日	多良木頼仲書状写	袴渡	17	中2	553	
○(年未詳)8月22日	相良前頼書状写	袴渡	18	中2	553	
○(年未詳)8月22日	多良木頼重書状写	袴渡	19	中2	554	
○(年未詳)8月22日	尾張義武書状写	袴渡	41	中2	582	
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	806	
○(年月未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4～5年(1524～25)頃

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	島津國史	旧記録	193	後1	101	永禄5年(1562)5月
○	島津義弘譜	旧記録	215	後1	111	永禄5年(1562)頃
○	柳山善久譜	旧記録	217	後1	112	永禄元年(1558)頃
○	肥後合戦跡立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
神門城						
○	『日向記』3〇三ヶ家人ノ御教書ヲ羅ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
三山城						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写〇北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代下帳写〇(永禄9年(1562)) 10月20日条	都城島津家	7	中2	820	
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	島津義弘譜	旧記録	215	後1	111	永禄5年(1562)頃
○	島津貴久譜	旧記録	245	後1	121	永禄6年(1563)2月10日
○	島津国史	旧記録	323	後1	142	永禄9年(1566)10月26日
○	島津日新譜	旧記録	343	後1	150	永禄9年(1566)
○	島津貴久譜	旧記録	344	後1	151	永禄9年(1566)
○	島津義弘譜	旧記録	345	後1	151	永禄9年(1566)10月26日前後
○	殉國名鑑	旧記録	347	後1	151	永禄9年(1566)10月26日
					-152	
○	島津義久譜	旧記録	348	後1	153	永禄9年(1566)カ
○	永禄9年(1566)カ 小林三の山合戦従事者交名	旧記録	350	後1	153	
○	新納忠元歎功記	旧記録	388	後1	171	永禄10年(1567)年
○	島津義弘譜	旧記録	620	後1	265	元亀3年(1572)5月4日頃
○	島津義久譜	旧記録	761	後1	346	天正2年(1574)10月5日
○	新納忠元歎功記	旧記録	850	後1	478	天正4年(1576)8月23日
○	島津義弘譜	旧記録	862	後1	485	天正4年(1576)8月~
					-487	
○	島津家久譜	旧記録	863	後1	487	天正4年(1576)8月24日
○	『日向記』7〇妻内使付三山合戦事			郷土1	188	永禄10年(1567)10月25日
○	『日向記』7〇分国中城主指事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
水谷陣						
○	潮戸口伊豆入道覚書	旧記録	2466	前2	815	天文12年(1543)の末
○	庄内平治記	旧記録	2468	前2	816	天文14年(1546)正月24日
○	島津国史	旧記録	2484	前2	821	天文14年(1545)正月26日
○	島津貴久譜	旧記録	2485	前2	821	天文14年(1545)正月26日
○	年代記	旧記録	2492	前2	824	天文14年(1545)正月26日
水ヶ城(郷ノ原)						
○(年月日未詳)	日下部姓岩切系譜〇岩切友行の項	岩切	1	中1	455	天文14年(1545)
○	『日向記』10〇祐兵主御入国御供ノ面々			郷土2	169	天正15年(1587)8月初

## 水尾陣

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』5 ○水尾陣取本城因 破事			郷土 1	138	天文14年(1545)正月26日
○	『日向記』5 ○東三百町御知行 事			郷土 1	153	天文22年(1553)
三納城						
○貞治3年(1364)卯月2日	一色範親軍勢催促状	土持	19	中 1	36	
○天正6年(1578)頃	川上久辰耳川日記○天正6年10 月25日条	都城島津家	12	中 2	862	天正6年(1578)10月23日
○天正6年(1578)頃	川上久辰耳川日記○天正6年10 月26日条	都城島津家	12	中 2	862	
○天正6年(1578)頃	川上久辰耳川日記○天正6年11 月18日条	都城島津家	12	中 2	868	
○	勝部兵右衛門聞書	旧記録	1061	後 1	623 -624	天正6年(1578)11月3日
○	『日向記』7 ○分國中城主惣事			郷土 1	195	永禄11年(1568)頃
○	『日向記』9 ○於高城大友勢敗 北事			郷土 1	274	(天正6年(1578))11月18日頃
三俣城						
○慶応2年(1339)8月28日	大友宗雄軍忠狀	志賀	6	中 2	253	
○(年月日未詳)	三俣院記○三俣八ツの外城	木脇	2	中 2	105	
○	肝付兼氏伝	旧記録	27	前 2	8	正平13年(1358)11月頃
○	太平記33	旧記録	56	前 2	14	延文4年(1359)11月
○	島津造園譜	旧記録	61	前 2	14	延文4年(1359)11月
○	『日向記』4 ○依駐勤三俣城被 掠事			郷土 1	120	(天文3年(1534))正月頃
都城						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷義久の項	北郷	1	中 1	170	永和元年(1375)
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷義久の項	北郷	1	中 1	170	永和2年(1376)
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷基忠の項	北郷	1	中 1	171	永和3年(1377)3月1日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷義久の項	北郷	1	中 1	171	応永17年(1410)6月2日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷知久の項	北郷	1	中 1	174	(年未詳)7月1日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中 1	177	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中 1	183	天文12年(1543)5月9日
○	本田重親譜	旧記録	241	前 2	65	応安6年(1373)2月中旬
○	伊集院氏久譜	旧記録	248	前 2	66	応安6年(1373)正月
○	新納実久譜	旧記録	249	前 2	67	応安6年(1373)正月頃
○	永和元年記事	旧記録	279	前 2	73	永和元年(1375)
○	島津国史	旧記録	280	前 2	74	永和元年(1375)
○	島津氏久譜	旧記録	282	前 2	75	文和4年(1355)12月12日～
○	北郷義久譜	旧記録	283	前 2	77	永和元年(1375)
○	島津国史	旧記録	335	前 2	96	永和2年(1376)12月29日
○	肝付兼氏譜	旧記録	336	前 2	96	永和2年(1376)12月
○	北郷義久譜	旧記録	361	前 2	101	永和2年(1376)冬
○	山田聖栄自記	旧記録	362	前 2	101	正安2年(1300)頃
○	北郷義久譜	旧記録	366	前 2	104	永和2年(1376)
○	島津国史	旧記録	365	前 2	104	永和3年(1377)3月3日
○(年月日未詳)	土持栄勝掌忠狀○大田原村新助	旧記録	376	前 2	108	永和2年(1376)

史料年月日	史 料 名	文書名	史料	刊 刊	頁	備 考
○	島津国史	旧記録	408	前 2	120	康暦 2 年(1380)10 月 2 日～
○	島津国史	旧記録	413	前 2	121	永徳元年(1381)6 月 27 日
○	西藩野史	旧記録	461	前 2	136	応永元年(1394)7 月
○	島津元久譜	旧記録	512	前 2	151	明徳 5 年(1394)7 月下旬
○	志水記	旧記録	516	前 2	152	応永元年(1394)閏 4 月下旬
○	北郷久秀譜	旧記録	518	前 2	153	応永元年(1394)3 月 7 日～
○	軍記	旧記録	1731	前 2	567	明徳 4 年(1495)
○	庄内平治記	旧記録	1999	前 2	650	大永 4 ～ 5 年(1524～25)頃
○「大永 6 年(1526)」5 月 26 日	隈江區久書状	旧記録	2032	前 2	660	
○	佛山玄佐自記	旧記録	2319	前 2	760	天文 7 年(1558)正月
○天文 8 年(1539)9 月 26 日	島津勝久書下○小倉知重	旧記録	2380	前 2	784	
○	北郷忠相譜	旧記録	2435	前 2	804	天文 11 年(1542)8 月 20 日
○	庄内平治記	旧記録	2438	前 2	805	天文 11 年(1542)
○	北郷忠相譜	旧記録	2453	前 2	811	天文 12 年(1543)5 月 9 日
○	北郷忠相譜	旧記録	2454	前 2	811	天文 12 年(1543)5 月
○	島津国史	旧記録	266	後 1	127	永禄 7 年(1564)11 月 19 日
○	庄内平治記	旧記録	418	後 1	187	永禄 11 年(1568)正月
					-188	
○	庄内平治記	旧記録	448	後 1	199	永禄 11 年(1568)8 月 20 日
○	豊州島津忠親譜	旧記録	585	後 1	246	元亀 2 年(1571)6 月 12 日
○	越前島津流知覽氏系図	旧記録	652	後 1	296	天正元年(1573)正月 6 日
○	北郷時久譜	旧記録	866	後 1	488	天正 4 年(1576)9 月 4 日
○	庄内平治記	旧記録	877	後 1	498	天正 4 年(1576)9 月 3 日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後 1	666	天正 8 年(1580)
○	北郷一雲譜	旧記録	335	後 2	339	天正 15 年(1587)5 月 15 日
○	『日向記』4 ○三俣御陣合戦事			郷土 1	102	永正 17 年(1520)7 月 6 日
○	『日向記』12 ○庄内逆乱加勢事			郷土 2	234	慶長 4 年(1599)3 月

### 宮崎城

○文明 6 年(1474)8 月頃方 ○(年月日未詳)	文明六年三州処々領主記 入田氏系団○入田氏隆の項	都城島津家	3 中 2	807		
○	北郷一雲譜	旧記録	20	中 1	159	慶長 5 年(1600)頃
○	北郷時久譜	旧記録	339	後 2	339	天正 15 年(1587)5 月 15 日
○	庄内平治記	旧記録	1013	後 1	553	天正 6 年(1578)10 月中旬
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1053	後 1	599	(天正 6 年(1578)～)
○	島津義久譜	旧記録	1163	後 1	665	天正 8 年(1580)
○	『日向記』3 ○祐庵所々御退治事	旧記録	1380	後 1	842	天正 12 年(1584)2 月 14 日頃
○	『日向記』4 ○門河対井祐吉早世事			郷土 1	71	文安 3 年(1446)6 月 20 日
○	『日向記』4 ○能登乱蜂起対治事			郷土 1	122	(天文 4 年(1535))2 月 19 日
○	『日向記』7 ○分國中城主據事			郷土 1	129	天文 9 年(1540)9 月 3 日頃
○	『日向記』10 ○祐兵主本領御安堵事			郷土 1	196	永禄 11 年(1568)頃カ
○	『日向記』12 ○左京亮祐慶日州へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事			郷土 2	165	天正 15 年(1587)6 月 8 日
○	『日向記』12 ○左京亮祐慶日州へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事			郷土 2	242	慶長 5 年(1600)9 月 24 日頃
○	『日向記』12 ○左京亮祐慶日州へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事			郷土 2	243	慶長 5 年(1600)9 月 28 日
○	『日向記』12 ○左京亮祐慶日州へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事			郷土 2	244	慶長 5 年(1600)10 朔日
○	『日向記』12 ○左京亮祐慶日州へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事			郷土 2	255	慶長 5 年(1600)10 朔日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	『日向記』12〇左京亮祐慶日州 へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事		郷土 2	256	慶長 5 年(1600)10月19日	
○	『日向記』12〇左京亮祐慶日州 へ下着宮崎ノ城ヲ攻取事		郷土 2	257	(慶長 5 年(1600))9月28日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	259	(慶長 5 年(1600))10月頃	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	261	(慶長 5 年(1600))10月 5 日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	262	(慶長 5 年(1600))10月 5 日頃	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	262	(慶長 5 年(1600))10月12日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	263	(慶長 5 年(1600))10月16日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	263	(慶長 5 年(1600))10月18日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	264	(慶長 5 年(1600))10月18日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	268	(慶長 5 年(1600))10月20日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	270	(慶長 5 年(1600))10月30日	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	278	(慶長 5 年(1600))9月28日頃	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	281	(慶長 5 年(1600))4月10日頃	
○	『日向記』12〇島津家与數度合 戦ノ事		郷土 2	282	(慶長 5 年(1600))4月10日頃	
○	『日向記』13〇関東下知ニ依テ 宮崎城ヲ高橋ニ返事		郷土 2	287	(慶長 5 年(1600))10月朔日	
○	『日向記』13〇稻津掃部助切腹 ノ事		郷土 2	288	(慶長 5 年(1600))頃	
○	『日向記』13〇稻津掃部助切腹 ノ事		郷土 2	291	(慶長10年(1605))12月頃	
○	『日向記』13〇稻津掃部助切腹 ノ事		郷土 2	293	慶長 7 年(1602)10月 4 日	

宮の浦城	庄内平治記	旧記録	2622	前 2	879	天文18年(1549)4月3日
------	-------	-----	------	-----	-----	-----------------

向城(都於郡)						
○建武4年(1337)5月4日	島山直顯軍勢催促状	郡司	11	中 1	46	
○香忠2年(1339)9月2日	日下部盛連軍忠状	郡司	20	中 1	49	

稚佐城						
○建武3年(1336)2月7日	土持宜栄軍忠状〇新編伴姓肝 裏氏系譜	予章館	3	中 1	476	
○文明6年(1474)8月頃	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中 2	807	
○(年月日未詳)	北都家譜写〇北都忠相の項	北都	1	中 1	179	天文9年(1540)
○(年月日未詳)	土持氏所持文書上	土持	29	中 1	40	
○	肝付兼重譜	旧記録	1767	前 1	647	建武3年(1336)正月10日
○建武3年(1336)2月7日	土持宜栄軍忠状〇大田原村新助	旧記録	1776	前 1	649	建武3年(1336)正月11日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	肝付兼重伝	旧記雜錄	1895	前 1	680	延元 2 年(1337) 4 月 14 日～
○	島津国史	旧記雜錄	2572	前 1	865	延文 3 年(1358)～
○ 延文 2 年(1357) 9 月	牛屎氏某覚書 ○ 牛屎文書	旧記雜錄	25-1	前 2	8	延文 2 年(1357) 9 月
○	肝付兼氏伝	旧記雜錄	27	前 2	8	正平 13 年(1358)
○	島津道臣譜	旧記雜錄	61	前 2	14	延文 4 年(1359) 6 月 2 曆
○	島津久豊譜	旧記雜錄	883	前 2	266	応永 19 年(1412) 9 月 25 日
○	新納忠勝聞書(天文 4 年)	旧記雜錄	2261	前 2	739	(年月日未詳)
					-740	
○	島津国史	旧記雜錄	2384	前 2	786	天文 9 年(1540)
○	庄内平治記	旧記雜錄	2389	前 2	786	天文 9 年(1540)
○	北郷忠相譜	旧記雜錄	2396	前 2	790	天文 9 年(1540)
○	島津義久譜	旧記雜錄	836	後 1	473	(年月日未詳)
○	肥後合戰陣立日記	旧記雜錄	1163	後 1	665	天正 8 年(1580)
○	『日向記』2 ○ 依西國官方蜂起 祐持日向下向事			郷土 1	39	建武 3 年(1336) 正月 10 日
○	『日向記』2 ○ 依西國官方蜂起 祐持日向下向事			郷土 1	41	建武 4 年(1337) 4 月 14 日
○	『日向記』3 ○ 祇燒所々御退治 事			郷土 1	70	文安 2 年(1445) 9 月 8 日
○	『日向記』7 ○ 分國中城主惣事			郷土 1	196	永禄 11 年(1568) 頃
○	『日向記』12 ○ 島津家与數度合 戦ノ事			郷土 2	259	(慶長 5 年(1600)) 10 月 3 日
○	『日向記』12 ○ 島津家与數度合 戦ノ事			郷土 2	271	(慶長 5 年(1600)) 11 月 20 日

ムシカ城						
○	勝部兵右衛門聞書	旧記雜錄	1061	後 1	614	天正 6 年(1578) 11 月 3 日
目井城						
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 天文 16 年(1547) 9 月 9 日条	都城島津家	7	中 2	829	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 天文 16 年(1547) 9 月 9 日条	都城島津家	7	中 2	829	天文 16 年(1547) 霽月 18 日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 天文 16 年(1547) 11 月 13 日条	都城島津家	7	中 2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 天文 16 年(1547) 11 月 22 日条	都城島津家	7	中 2	817	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 天文 18 年(1549) 4 月 3 日条	都城島津家	7	中 2	830	天文 18 年(1549) 4 月 5 日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 永禄 9 年(1566) 3 月 22 日条	都城島津家	7	中 2	818	弘治 2 年(1556) 頃
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写 ○ 永禄 9 年(1566) 7 月 7 日条	都城島津家	7	中 2	820	
○	島津国史	旧記雜錄	2539	前 2	839	天文 16 年(1547) 11 月 18 日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○	庄内平治記	旧記録	2540	前2	839	天文16年(1547)9月頃
○	北郷時久譜	旧記録	2541	前2	840	天文16年(1547)9月頃
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	871	天文16年(1547)9月9日
○	北郷忠相日記	旧記録	2604	前2	871	天文16年(1547)9月9日~
○	庄内平治記	旧記録	2622	前2	879	天文18年(1549)4月3日
○	殉國名義	旧記録	2653	前2	889	天文20年(1561)9月5日
○	鳥津国史	旧記録	1	後1	1	弘治元年(1555)9月
○	殉國名義	旧記録	32	後1	18	天文24年(1555)9月5日
○	『日向記』5 ○郷原目井両城掉參事			郷土1	139	天文14年(1545)12月28日
○	『日向記』5 ○義祐御再飫肥入事			郷土1	150	天文20年(1551)7月頃~9月5日
○	『日向記』6 ○肝付省約軍并放火事			郷土1	164	永禄元年(1558)頃
○	『日向記』6 ○三度目飫肥入并合戦事			郷土1	181	永禄6年(1563)8月20日頃
○	『日向記』7 ○飫肥本城安堵事			郷土1	194	永禄11年(1568)6月8日頃
○	『日向記』7 ○分国中城主攝事			郷土1	199	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』8 ○同時御供人数事			郷土1	247	天正5年(1577)12月頃
<b>守永城</b>						
○	壱岐賀州年代記	旧記録	762	後1	346	天文元年(1532)12月15日
○	『日向記』7 ○分国中城主攝事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
<b>安永城</b>						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷敏久の項	北郷	1	中1	175	応仁2年(1468)
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	805	
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷敏久の項	北郷	1	中1	176	大永元年(1521)3月9日
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月日未詳)	島津家由緒覺書○北郷家家譜文書写	都城島津家	8-9	中2	837	
○(年月日未詳)	北郷家聞書写○北郷家諸文書写	都城島津家	8-8	中2	834	
○	北郷敏久譜	旧記録	1443	前2	462	応仁2年(1468)
○	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	殉國名義	旧記録	2264	前2	744	天文5年(1536)2月25日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	北郷一雲譜	旧記録	335	後2	339	天正15年(1587)5月15日※安永城
<b>安永新城</b>						
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	178	大永6年(1526)5月20日
○(年月日未詳)	北郷家聞書写○北郷家諸文書写	都城島津家	8-8	中2	835	
○	北郷忠相譜	旧記録	2029	前2	659	大永4~5年(1524~25)頃
<b>八代城</b>						
○建武3年(1336)2月7日	土持宣栄忠状写○新編伴姓肝属氏系譜	予章館	4	中1	476	
○建武5年(1338)5月15日	日下部盛連忠状	都司	18	中1	48	
○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州処々領主記	都城島津家	3	中2	807	
○(天正6年(1578)頃カ)	川上久屋耳川日記○天正6年10月25日条	都城島津家	12	中2	862	天正6年10月23日

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	土持氏所持文書上	土持	29	中1	40	
○	伴兼重伝	旧記録	1754	前1	639	建武2年(1335)12月
○	肝付兼重譜	旧記録	1770	前1	647	建武3年(1336)正月23日
○建武3年(1336)2月7日	土持宣宗忠状○大田原村新助	旧記録	1777	前1	650	建武3年(1336)正月12日
○	重久源兼譜	旧記録	1780	前1	650	建武3年(1336)
○	肝付兼重伝	旧記録	1881	前1	673	建武3年(1336)11月
○	島津国史	旧記録	2335	前1	803	建武3年(1336)8月6日
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	664	天正8年(1580)
○	『日向記』7○分国中城主攝事			郷土1	196	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』12○島津家与数度合戦ノ事			郷土2	259	(慶長5年(1600))10月3日
山陰城						
○	長谷湯越前宗純自記	旧記録	1058	後1	611	天正6年(1578)霜月13日
○	勝部兵右衛門聞書	旧記録	1061	後1	622	天正6年(1578)11月3日頃
○	『日向記』3○三ヶ国家人ノ御教書ヲ賜ル事			郷土1	79	長禄元年(1457)7月19日頃
○	『日向記』7○分国中城主攝事			郷土1	197	永禄11年(1568)頃カ
○	『日向記』8○土持勢門河發向事			郷土1	235	天正5年(1577)2月22日
○	『日向記』9○豈後勢進発事			郷土1	258	天正6年(1578)2月頃
○	『日向記』9○豈後勢進発事			郷土1	258	天正6年(1578)2月21日
山田城						
○(年月日未詳)	北郷家家譜等○北郷忠相の項	北郷	1	中1	177	
○(年月日未詳)	北郷家家譜等○北郷忠相の項	北郷	1	中1	182	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠義・北郷時久 三代日帳草○天文12年(1543) 正月21日条	北郷	7	中2	817	
○(年月日未詳)	大河平家系図○大河平隆商の項	大河平家	1	中2	364	慶長4年(1599)6月
○(年月日未詳)	入田氏系団○入田氏春の項	入田	20	中1	149	慶長4年(1599)6月23日
○(年月日未詳)	入田氏系団○入田氏康の項	入田	20	中1	150	慶長4年(1599)6月23日
○寛永16年(1639)12月8日	貞昌案文表御當家御厚恩記	伊勢	45	中1	273	慶長4年(1599)6月
○	池田氏年代記	旧記録	1504	前2	485	文明6年(1474)~
○(年月日未詳)	鳥津忠朝書状○野忍沼右衛門	旧記録	1980	前2	643	
○(大永3年(1523))6月20日	北原久兼書状	旧記録	1998	前2	649	
○(大永4~5年(1524~25))2月7日	庄内平治記	旧記録	1999	前2	650	大永4~5年(1524~25)頃
○	鳥津国史	旧記録	2420	前2	799	天文11年(1542)11月16日
○	殉國名義	旧記録	2434	前2	803	天文11年(1542)12月
○	鳥津国史	旧記録	2446	前2	808	天文12年(1543)正月24日
○	北郷忠相譜	旧記録	2447	前2	809	天文12年(1543)正月24日
○	庄内平治記	旧記録	2449	前2	810	天文11年(1542)頃
○	庄内平治記	旧記録	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
○	肥後合戦陣立日記	旧記録	1163	後1	666	天正8年(1580)
○	『日向記』4○三侯御陣并合戦事			郷土1	102	大永2年(1522)4月4日頃
○	『日向記』4○三侯御陣并合戦事			郷土1	103	大永2年(1522)4月26日頃
○	『日向記』7○小越合戦并勝利事			郷土1	193	永禄11年(1568)2月21日頃
○	『日向記』12○庄内逆乱加勢事			郷土2	235	慶長4年(1599)6月23日

## 山之口城

史料年月日	史料名	文書名	史料	刊本	頁	備考
○(年月日未詳)	北郷家家譜写○北郷忠相の項	北郷	1	中1	179	
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天文2年(1533) 11月条	都城島津家	7	中2	816	天文3年(1534)閏正月6日
○(年月日未詳)	北郷忠相・北郷忠親・北郷時久 三代日帳写○天正3年(1575) 閏正月7日条	都城島津家	7	中2	825	
○(年月日未詳)	三侯院記○三侯バツの外城の項	木脇	2	中2	105	
○(年月日未詳)	三侯院記○山之口城主の項	木脇	2	中2	106	慶長5年(1600)2月29日
○	北郷忠相譜	旧記録	2184	前2	713	天文元年(1532)11月27日
○	庄内平治記	旧記録	2185	前2	713	天文元年(1532)秋
○	島津国史	旧記録	2187	前2	714	天文3年(1534)閏正月6月
○	庄内平治記	旧記録	2201	前2	720	天文3年(1534)2月16日
○	北郷忠相譜	旧記録	2212	前2	723	天文3年(1534)閏正月7月
○	北郷忠相日記	旧記録	2231	前2	729	天文3年(1534)閏正月7月
○	庄内平治記	旧記録	2458	前2	812	天文12年(1543)頃
○	『日向記』7〇祇肥本城安堵事	郷土1			194	永禄11年(1568)5月頃

## 山之城

○文明6年(1474)8月頃カ	文明六年三州处々領主記	都城島津家	3	中2	807
-----------------	-------------	-------	---	----	-----

## 吉富城

○(年月日未詳)	三侯院記○霧島山の項	木脇	2	中2	113
----------	------------	----	---	----	-----

## 六ヶ村城

○	北郷忠相日記	旧記録	2231	前2	729	天文2年(1533)5月14日
---	--------	-----	------	----	-----	-----------------

## 和田城

○	肝付兼氏譜	旧記録	364	前2	103	天授3年(1377)3月3日
○	『日向記』3〇院御庄廿一ヶ所 祐重所領ト成事	郷土1			57	暦応元年(1338)3月3日

## 和田・高木の城

○明応4年(1495)林鐘日	閑暇吟	旧記録	1730	前2	566	明応3年(1494)上陽~
----------------	-----	-----	------	----	-----	---------------

## VII おわりに

ここで、今回の調査の方向性に関するいくつかの補足説明を行い、あわせて今後の課題を示しておきたい。

調査報告書の第1集（地名表・分布地図編）では、現在認識される、あるいは言い伝えのある城館跡すべてについて網羅的に取りあげることを意図した。いわば、現代における城館跡の空間的把握である。

第2集（詳説編）では、それらの城館跡について、構造や沿革等の説明を行い、完整性ではないが、必要と思われるものについては縦張り図を掲載した。城館跡を時間的・機能的に把握しようとする作業である。

とは言え、各城館跡の解説文について（構造に関しても、沿革に関しても）不十分さを指摘される向きもあるうかと思う。

構造に関しては、あくまでも、現状で把握可能なものでなければ認識できないという本質的な限界が存在すると考えており、特に重要と考えるものを除いて、細かな施設の説明は省き、巨視的な視点で捉えるという姿勢を貫いている。細かな構造についての記述は、将来発掘調査など、個々の城館跡に関する詳細な調査が行われるまで「凍結」することとしておきたい。

いわば本報告書はインデックス的役割を果たすものと位置づけられよう。無論、新たな知見が加わった場合は、今回作成した調査カードに追加していくことになる。

沿革については、城主名云々といった事よりも、勢力圏と各城館といった視点で見たつもりであるが、著者に一次史料にあるたる能力がなかったため、「日向地誌」等の地誌類に大幅に頼る結果となった。一次史料については第V章に、城館毎に整理された若山浩章氏の労作があり、それを基にしていただければと考える。

今回の調査報告書で盛り込むことができなかつたのは、城館跡を群として捉えたり、ある地域の中世景観の復元といった類の作業である。これも、本報告書の刊行を契機に、各地で活発化することを望みたい。

本調査を契機とする調査・研究の深化を先取りする形となつたものが、都城市教育委員会による調査・報告書作成であろう。都城市教育委員会では「自分の住む地域の城館跡」という意識を持って調査にあたられている。また延岡市、西臼杵郡、東臼杵郡などの県北地区やえびの市などでも複数の調査員が精力的に現地を歩いて資料を収集された。残念ながら県内にはそれが「当然」となっていない現実がある。本報告書の刊行が起爆剤となり、調査、研究が進展することを希望する。

## 索引

項目のうち、「番号」は城館跡の個別番号、「I集」は報告書第1集の地名表、「地図」は報告書第1集の分布地図、「II集」は報告書第2集のIV章の頁を示す。

城館名(別称)	番号	I集	地図	II集	城館名(別称)	番号	I集	地図	II集
ア 青谷城	4-(25)	10	75	35	ウ 上ノ原城	25-( 4)	17	174	110
縣城	35-(10)	23	202-205	155	上宮城【松田城】	16-(14)	14	130	73
赤花城	31-(42)	22	156	145	上円野城【今城】	9-( 5)	12	89	52
赤目城	16-(25)	14	—	—	宇賀城	30-( 6)	20	—	129
秋留	5-(14)	11	99	41	内海姉城	23-(26)	17	183	106
秋水屋敷	39-(21)	21	199	173	内木場城	30-( 2)	20	152	128
揚城	3-( 7)	9	56	21	内木場城	33-(10)	22	166	150
朝陣野	37-( 1)	24	184.185	163	内城	26-( 3)	18	146	115-116
森竹陣【大友義統陣】	5-(17)	11	109	42	内田城	26-( 4)	18	146	116
阿蘇殿星敷	3-(11)	9	68	22	内屋敷城	29-( 5)	20	162	127
諏訪城	23-( 9)	16	160	102	内山城	34-( 6)	23	167	153
天ヶ城【高岡城・篠城】	27-( 5)	18	162	121	梅谷城	25-( 1)	17	175	110
尼ヶ城	41-(10)	27	186	184	梅北城	39-(29)	26	198	178-179
天下城	4-(15)	10	72	31-32	浦尻城	4-( 3)	9	58	4-23-24
甘渕	21-( 5)	16	118	95	津野城	33-( 3)	22	164	149
綾城【龍尾城】	29-( 1)	20	148-151	126	上江城	31-(19)	21	157	137
			162-165		上城	35-(16)	23	205	157
荒谷城	3-(10)	9	68	22	上畠	11-( 2)	13	74	59
荒谷城【城の下】	14-( 4)	13	88	65	エ 江田城	6-( 3)	11	84	44
有革城【圓富城】	16-(12)	14	133	72-73	鳥居子櫓營	35-( 3)	23	203	154
イ 犬田城	27-( 4)	18	162	121	才 老撫板上第2遺跡	17-( 2)	15	131	81
豺野城	31-( 8)	21	157	133-134	王子城	41-( 5)	27	186	183
池ノ馬城	27-( 7)	18	162	122	大池	6-( 9)	11	87	46
池平城	39-(28)	26	199	178	大岩田城	39-(25)	26	198	177
池山城	31-(39)	22	156	145	大川内城	15-( 3)	13	104	66
伊佐生城	28-( 3)	19	149	123	大久保城	42-(14)	27	186	188
石城	20-( 1)	15	12	92	大友氏無廐軍營	4-( 8)	10	60	24
石塙城	23-(11)	16	160-163	102	大友氏社ヶ原軍營	4-( 7)	10	60	24
石野田城【小城・古城】	16-(20)	14	149	79	御飯屋	5-(16)	11	99-109	42
石山城	2-(10)	9	67	15	奥	32-( 1)	22	176	147
石山城	42-(10)	27	179	187	大河平館	31-( 2)	20	154	130-131
市之尾城	28-(25)	20	148	125	大河平城	31-( 1)	20	154	130
一の水城	2-( 7)	9	55	14-15	押方城	1-(21)	8	54	12
市尾内	13-( 1)	13	33	63	尾谷城	27-( 8)	18	162	122
市谷城	8-(10)	12	102	51	筋り場	14-( 3)	13	79	64-65
井手ヶ城	24-( 8)	17	172	109	鬼ヶ城	4-(22)	10	72	35
堀ノ馬城	35-( 8)	23	205	154	鬼ヶ城	35-( 5)	23	202	154
伊東氏小崎星敷	1-(15)	8	40	11	御堂の下	4-( 4)	9	60-61	24
福糸崎外城	4-( 6)	10	60	24	雄八重城	16-( 1)	14	112	68
福糸城	31-(32)	21	156	142	小山城	42-(15)	27	186-189	188
福荷城	36-( 6)	24	218	162	小原井	14-( 6)	13	78	65
大ヶ城	35-( 6)	23	202	154	萩肥城	35-(15)	23	205	4-155-
井上城	4-(20)	10	72	33-34	カ 貝殻城【水ノ尾城】	35-( 4)	23	202	154
井ノ城	42-( 2)	27	164	186	貝の畠城	4-(10)	10	75	24
猪野見城	28-( 6)	19	148	123	加江田城	23-(24)	17	—	—
今江城	23-(22)	17	152	104	柿追	23-( 8)	16	163	102
今城	23-( 5)	16	160	101	柿添	5-( 9)	11	87	39
今城	31-( 3)	20	154	131	カキノ城	31-(30)	21	—	—
今城	33-( 4)	22	164	149	柿木城	31-(31)	21	157	142
今城	36-( 1)	24	215	159	加久藤城	31-(23)	21	157	138-139
岩戸原城	20-( 5)	15	121	94	開	11-( 5)	13	65	60
岩戸出城	1-( 4)	8	55	8	開	16-(23)	14	148	80
岩奉札城	30-( 4)	20	166	128	關城	23-(19)	17	175	104
岩瀬星敷	39-(13)	25	179	171	格城【遷城】	27-( 6)	18	162	121-122
祝吉御所	39-(19)	26	199	173	閉城	28-( 4)	19	148	123
ウ 上野原城	9-( 8)	12	89	53-54	度越	4-(26)	10	76	—
上野城	9-( 6)	12	—	52	賀志原城	1-(25)	8	54	13
上ノ園第2遺跡	39-(20)	26	199	173					

城館名(別称)	番号	I集	地図	II集	城館名(別称)	番号	I集	地図	II集
力 織治屋敷	22-( 3 )	16	108	96	口 小崎城	15-( 4 )	13	95	66
梶山城	40-( 2 )	26	196	180-181	小崎屋敷	15-( 5 )	13	95	67
鹿小路西	4-( 5 )	9	61	24	古城	8-( 9 )	12	102	50
勝岡城	40-( 4 )	26	84	181	古城	24-( 6 )	17	172	109
門川城	6-( 6 )	11	199	45-46	古城	31-(40)	22	156	-
金谷城	36-(10)	24	220	162	小城	31-(16)	21	157	135-136
鐘突き殿	12-( 2 )	13	49	61	小城	31-(20)	21	157	137
金丸城	31-( 7 )	21	157	132-133	小城	33-( 5 )	22	164	149
樺木岳城	3-( 1 )	9	57	18	小城	34-( 2 )	23	152	152
樺山城	40-( 5 )	26	196	181	小春城	42-( 7 )	27	176	186
鎌ヶ倉倉	35-(18)	23	205	157	児玉屋敷	39-( 4 )	25	189	169
鎌田城	28-(18)	19	162	125	小坂城	32-( 3 )	22	181	148
上城	27-(10)	18	162	122	木場城	44-( 5 )	28	179	191-192
上伊形城	4-(23)	10	72	35	小原城	2-(13)	9	64	17
上大五郎遺跡	39-( 5 )	17	188	169	小原城(仮称)	5-(12)	11	87	41
上屋敷・下屋敷ほか	25-( 2 )	25	174	110	小原城	15-( 1 )	13	93	66
紙屋城	33-( 2 )	22	164-165	149	小林城【三ツ山城】	30-( 5 )	20	169	128-129
亀山城【大野原城】	1-(18)	8	55	11-12	胡麻ヶ野城	39-(15)	25	191	173
蒲生屋敷【大根田屋敷】	39-(10)	25	198	171	小屋敷城	31-(36)	21	156	143
鴎山	16-(18)	14	133	74	椎現城	5-( 7 )	10	87	39
撲部城	31-(15)	21	157	135	サ 酒谷城	35-(19)	24	204	157-158
河上城	27-(12)	18	162	122	坂本城	3-( 6 )	9	69	20-21
坂追城	9-( 9 )	12	89-100	54	佐々宇津城	6-( 4 )	11	84	44
坂屋城	8-( 7 )	12	103	50	種ヶ嶺	35-(17)	23	205	157
坂屋城	16-( 3 )	14	112	69	細砂堀城	35-(12)	23	205	155
坂屋原城	28-(16)	19	163	125	さじが城	28-(20)	19	162	125
川坂城	12-( 3 )	13	49	61	薩摩追籠	43-( 2 )	28	188	189
川原之陣	21-( 2 )	16	131	95	薩摩陣	31-( 5 )	20	141	131
川曲城	3-( 3 )	9	56	19	佐土原城	26-( 1 )	18	146	6-112
神奈城	2-( 1 )	9	38	14	【鶴松城・田島之城】				-115
キ 菊池主水跡	14-( 7 )	13	66	65	猿ヶ城	31-(42)	22	156	145
北殿城	40-( 3 )	26	196	181	澤津城	35-(23)	24	210	158
北の城	4-(14)	10	72	31	三ヶ瀬	6-( 8 )	11	86	46
北ヶ追	23-( 2 )	16	160	97	シ 埼尾谷城【極荷城】	1-(26)	8	54	13
北村・城ノ下	28-(15)	19	163	124	豈見城	5-(10)	11	99	39-40
北屋敷・内堀ほか	43-( 3 )	28	188	189	札ヶ城	28-( 7 )	19	148	123
鬼頭山城	1-(10)	8	40-43	10	下タノ屋敷	9-(11)	12	88	55
城戸元	35-(25)	24	210	158	芝原城	1-(23)	8	54	12
清武城	24-( 1 )	17	172	107-108	鷲尻城	9-( 2 )	12	89	52
ぎょにもん屋敷	24-( 4 )	17	172	109	鳥の御御坂屋	4-( 1 )	9	58	23
木籠城	28-(14)	19	163	124	下久保	39-(30)	26	198	179
ケ 崩野城	1-( 1 )	8	40	8	下ノ木場城	27-(11)	18	162	122
草場	5-( 6 )	10	87	38	下の城	1-(12)	8	40	10
櫛間城	36-( 4 )	24	221	4-6-160-	下ノ城	42-( 6 )	27	179	186
楠見城	27-( 3 )	18	162	121	下八岐城	9-( 1 )	12	89	52
楠見城	28-( 8 )	19	148	123	十郎入道	36-(12)	24	220	162
久玉遺跡	39-(18)	26	199	173	下城	2-(11)	9	55-57	16
俵ヶ城	41-( 7 )	27	186	183	城	11-( 3 )	13	65	59
球磨陣	31-( 6 )	20	157	131-132	城ヶ尾	34-( 1 )	23	136	152
玖磨陣	37-( 9 )	25	202	164	城ヶ崎	39-(22)	26	198	173
鞍岡所立城	3-( 8 )	9	68	22	城ヶ峰	1-(29)	8	67	13
黒木城	10-( 1 )	12	74	57	常喜寺堀・水戸堀	27-( 1 )	18	163	119
倉岡城	23-( 7 )	16	163	101-102	淨慶城	31-(22)	21	65	137-139
蘿田城(仮称)	11-( 4 )	13	74	60	庄手城(仮称)	5-( 3 )	10	84	37
卓坂城	23-(23)	17	182	104-105	上ノ切若扶脛敷	1-(30)	8	66	13
車追陣内	1-(19)	8	54	12	城の塚	14-( 5 )	13	78	65
黒仁田城	1-(27)	8	54-56	13	城の元	14-( 1 )	13	79	64
黒貫城	16-(22)	14	146	80	城烟	6-( 1 )	11	84	44
桑水流陣内	1-(20)	8	55	12	城之内	38-( 5 )	25	213	166
桑野内園	3-( 2 )	9	57	19	城平	16-( 9 )	14	130	71
ケ 玄武城	1-( 7 )	8	40	9	城ヶ平	22-( 2 )	16	108	96
コ 高水流	11-( 6 )	13	74	60	城山	24-( 7 )	17	172	109
郷ノ原城【石崎城】	37-( 3 )	24	192-196	163	城ノ岡	44-( 3 )	28	176	190-191
湖雲ヶ城【周之城】	38-( 6 )	25	213	166	城山	44-( 9 )	28	178	192
五ヶ村	1-( 2 )	8	55	8	白石城	23-(10)	16	148	102
古賀城	1-(17)	8	54	11	精米城	28-(19)	19	162	125

城館名(別称)	番号	I集	地図	II集	城館名(別称)	番号	I集	地図	II集
シ 白木保番所	35-(22)	24	210	158	タ 田間砦	35-(13)	23	205	155
銀鏡砦	16-( 4)	14	112	69	垂門城	10-( 3)	12	88	58
銀鏡城【古城】	16-( 2)	14	112	68	垂木城【古城】	29-( 3)	20	162	126-127
紫波州崎城	23-(25)	17	183	105-106	丹後城	23-( 1)	16	161	97
志和池城	39-( 1)	25	189	167-168	谷木城	30-( 3)	20	152	128
陣ヶ岡山	39-(16)	26	191	173	チ 千田城	16-( 8)	14	130	71
新宮城	39-( 9)	25	198	170-171	基白ヶ陣	39-( 7)	25	-	170
新城	5-( 5)	10	84	37-38	茶臼城	36-(11)	24	221	162
新城	26-( 8)	18	146	116	中山寺跡	24-( 2)	17	172	107
新城	31-(21)	21	157	137	長德砦	31-( 9)	21	157	134
新城	35-(24)	24	213	158	ツ 塚原城【城の首】	14-( 2)	13	79	64
新城【馬関城】	31-(27)	21	156	141	坪谷城	7-( 3)	11	101	48
陣ノ内	23-( 4)	16	160	101	坪谷城(仮称)	7-( 4)	11	101	48
陣之尾	29-( 6)	20	165	127	祐の尾羽根陣	1-( 6)	8	55	8
陣ノ尾	30-( 8)	20	155	129	鶴ヶ城	28-(11)	19	162	123
陣の尾	35-(21)	24	204	158	鶴野城	10-( 2)	12	76-88	57
陣之城	38-( 3)	25	213	166	テ 天守峰	39-(31)	26	208	179
陣原	33-( 9)	22	167	150	天正六年島津範陣	17-( 3)	15	131	81
陣原	34-( 7)	23	-	-	天神ノ尾脣	35-( 1)	23	193	154
陣ノ鼻砦	44-(10)	28	178	193	ト 東光寺砦	35-(11)	23	202	155
ス すかしの城	44-( 2)	28	176	190	東長寺城	28-(13)	19	148	124
杉尾城	31-(45)	22	156	146	東福城	31-(28)	21	156	141
須木城【鶴丸城】	34-( 3)	27	153	152-153	床糸城	36-( 5)	24	218	162
雀ヶ城【城ノ平】	41-( 6)	23	186	183	櫛ノ城	44-( 6)	28	176	192
雀ヶ城	42-(12)	27	186	187	飽溝城	31-(25)	21	156	140
須美江会所	4-( 2)	9	58	23	戸崎城	33-( 7)	22	167	149-150
源訪城	28-(10)	19	148	123	登能尾山	24-( 3)	17	172	107
源訪城【那珂城】	26-(11)	18	147-161	117	都郡城	16-(19)	14	146-149	4-74-79
源訪屋敷	32-( 4)	22	169	148	都郡城	4-(24)	10	72	35
セ 濑平ノ城	35-( 2)	23	193	154	土々呂松尾城	5-( 4)	23	153	35
ソ 曽井城	23-(21)	17	172	104	鳥の巣城	34-( 8)	11	-	39
左右殿城	1-( 5)	8	55	8	富高陣	5-( 8)	11	-	39
絆陣	28-(17)	19	163	125	宍形	4-(21)	10	72	35
曾木城(仮称)	11-( 1)	13	74	59	鳥越城	31-(29)	21	157	142
園田城(仮称)	31-(24)	21	156	140	鳥の巣城	9-(13)	12	91	55-56
タ 太鼓台	1-( 9)	8	40	10	ナ 中崎城	2-(12)	9	64	16-17
太鼓原	1-(22)	8	54	12	長崎城	27-(16)	19	162	122
大明神の城	31-(47)	22	-	136	中水流	13-( 2)	13	32	63
高木里敷	39-( 8)	25	189	170	水の内	1-( 3)	8	55	8
高佐砦	35-( 9)	23	202	155	中ノ尾砦	35-(14)	23	205	155
高城	1-(14)	8	40-54	11	中の城	4-(17)	10	72	33
高城	20-( 3)	15	131	92-93	中野城	4-(18)	10	72	33
高城	36-( 9)	24	218-221	162	水野城	31-( 4)	20	154	131
高城	42-(13)	27	186	187-188	中ノ城	26-(13)	18	-	117
高輝城	23-(12)	16	160	102	中原城【小野城】	16-(21)	14	149	80
高寺城	37-( 6)	24	202	163	中福良城(仮称)	36-( 2)	24	219	159
高鋼城【舞鶴城】	17-( 4)	15	128	4-82-84	中村城	2-( 5)	9	64	14
高原城【松ヶ城】	32-( 2)	22	166	147-148	仲山城【三田井氏宅跡】	1-(24)	8	54	12-13
高平城(仮称)	5-(11)	11	99	40-41	奈佐木城	34-( 5)	23	152	153
高松城	33-( 6)	22	164	149	名谷	36-( 3)	24	219	159
竹篠城	23-( 6)	16	160	101	七瀬城	41-( 9)	27	186	184
竹瀬城	12-( 4)	13	49	61-62	南郷城	38-( 1)	25	210-213	165
竹ノ上城(仮称)	5-( 2)	10	76	36	南岳安城	26-( 4)	18	146	116
高城	36-( 8)	24	218	162	二 新山城	35-( 7)	23	205	154
田尻城	28-(21)	19	162	125	西方城	36-( 7)	24	221	162
田爪城	8-( 6)	12	103	50	四浦城【宝坂城】	4-(16)	10	72	33
立石砦	9-(12)	12	88	55	西城	7-( 2)	11	98	47
田出原城	8-(12)	12	102	51	西堀	28-( 2)	19	149	123
谷川城【高崎城】	44-( 4)	28	178	191	西矢倉城	31-(34)	21	156	143
谷城	1-(28)	8	55	13	ニタ元遺跡	39-(11)	25	198	171
谷之城	37-( 5)	24	192	163	入下城	10-( 4)	12	89	58
谷之口城	38-( 4)	25	213	166	入田城	8-( 8)	12	102	50
谷口城【寺尾城】	28-(12)	19	148	124	ネ 日白坂城(仮称)	20-( 6)	15	131	94
田之上城	31-(17)	21	157	136	ノ 野瀬城	30-( 1)	20	152	128
田野城	25-( 3)	17	174	110	野尻城	33-( 8)	22	167	150-151
出原陣	31-(10)	27	65	134	野々谷美谷城	39-( 3)	25	189	168-169
田原陣	41-( 3)	21	186	182	ハ 延岡城【縣城・龟井城】	4-(13)	10	72	4-26-30
					八 端ノ城	26-(12)	18	-	117

城館名(別称)	番号	I集	地図	II集	城館名(別称)	番号	I集	地図	II集
八 苦尾城	31-(46)	22	—	—	マ 松尾城	31-(43)	22	156	146
烟田城	31-(37)	22	157	144	松山城	21-( 1)	16	131	95
花水流域敷	9-( 3)	12	89	52	松原地区第1遭跡	39-(17)	26	199	173
花見山浜路城	1-(16)	8	54	11	馬見原城	1-(13)	8	40	11
浜口	20-( 2)	15	120	92	丸之尾城	31-(44)	22	156	146
原城	3-( 5)	9	57	20	九谷某屋敷	39-( 6)	25	—	169
原目城	3-( 9)	9	68	22	ミ 三宅城	16-(13)	14	130	73
播磨ヶ城	31-(11)	21	—	—	神門原城	9-( 7)	12	89	53
ヒ 東ノ城	28-( 9)	19	149-163	123	水ヶ城	37-( 4)	24	195	163
東矢倉城	31-(35)	21	156	143	水清谷懇	8-( 3)	12	103	49
肥後屋敷	17-( 1)	14	128	81	水志谷城	8-( 1)	11	103	49
日志原城	5-(18)	11	109	43	溝園城	31-(33)	21	156	143
日高城	25-( 6)	17	174	111	道野々原城	9-(10)	12	88	55
肥田木城	29-( 4)	20	165	127	横ヶ城	26-(14)	18	147	118
肥田木城	42-(11)	27	186	187	三鶴城	16-(10)	14	133	72
日知屋城	5-( 1)	10	96	36	御舟城	2-( 9)	9	—	—
總木城	39-(33)	26	—	—	三俣城	42-( 9)	27	186	187
平賀城	27-(13)	18	162	122	三保城【松尾城】	41-( 8)	27	186	183-184
平城	6-( 7)	11	84	46	都之城	39-(23)	26	198	4-6-174
平城	8-(11)	12	102	51	宮崎城	23-( 3)	16	160	98~100
平城	16-( 7)	14	130	70	【池内城・龍峯城】				
平城	16-(11)	14	133	72	宮之城	31-(12)	21	157	135
平城	20-( 4)	15	131	94	宮水照城	2-( 2)	9	64	14
平城	26-( 6)	18	146	116	宮代官所	2-( 3)	9	64	14
平城	28-(24)	20	162	125	妙見遺跡	31-(26)	21	156	141
平城	31-(13)	21	157	135	見吉城	31-(38)	22	156	144
平野城	16-(16)	14	133	74	ム ゆかい城	31-(48)	22	—	—
平八重城	42-( 1)	27	164	186	向山城【彈正城】	15-( 2)	13	94	66
広瀬城	26-( 9)	18	147	117	移佐城	28-( 2)	18	163	4-119
フ 苗ヶ水域	44-( 1)	28	164	190	△ 深見城				-121
淡角松葉城	2-( 6)	9	55	14	行勝要客	4-( 9)	10	63	24
福ヶ城	27-( 9)	18	162	122	向屋敷	27-(14)	19	162	122
福寺城	26-( 2)	17	146	115	向高城	28-(22)	19	162	125
浮城岡	44-( 8)	28	178	192	目井城	38-( 2)	25	210	165-166
富士原屋敷(仮称)	37-( 7)	24	205	163	巡り尾城【隈陣】	35-(20)	24	205	158
富士原屋敷(仮称)	37-( 8)	24	205	164	モ 稲原ヶ城	40-( 1)	26	186	180
舟の尾代官所	2-( 8)	9	64	15	初木ノ城	5-(15)	11	99	41-42
古城	1-(11)	8	40	10	御山【山城】	21-( 3)	16	118	95
古城	26-( 7)	18	146	116	守永城	28-(23)	20	162	125
占城	28-(26)	20	—	—	森田城	39-( 2)	25	189	167-168
古城	31-(18)	21	157	137	ヤ 夕ヶ瀬城	3-( 4)	9	57	20
古城	39-(26)	26	199	177	猪ヶ野・佐渡屋敷	41-( 2)	27	186	182
古城【舞ヶ城】	41-(11)	27	186	185	安永城	39-(14)	25	188	171-172
古城【須田木城】	42-( 5)	27	179	186	柳ノ城	44-( 7)	28	176	192
古跡	24-( 5)	17	172	109	八代城	28-( 5)	19	149	123
古砦	37-(10)	25	202	164	八戸城	2-( 4)	9	64	14
古砦【牧ノ障】	37-(11)	25	—	—	山陰城	7-( 1)	11	98	47
古砦	40-( 6)	26	199	181	山城	33-( 1)	22	165	149
古塁	20-( 7)	15	131	94	山城【古城】	16-( 6)	14	130	70
農後陣【古砦】	41-( 4)	27	186	183	山路城	16-(15)	14	130	74
ヘ 平豊城	16-(17)	14	133	74	山田城	43-( 1)	28	188	189
ホ 稲北城	16-( 5)	14	130	69	山口城【蛤龜山石城】	41-( 1)	27	186	182
星崎	30-( 7)	20	—	—	山之城	39-(32)	26	—	179
堀内	22-( 1)	16	109	96	山之城	42-( 3)	27	176	186
本城	42-( 8)	27	176	187	ユ 柿木野城	1-( 8)	8	54	10
本村	13-( 3)	13	46	63	柿ノ木崎城	27-(17)	19	162	122
本村城	5-(13)	11	99	41	湯追宮	20-( 8)	15	—	—
マ 前畠第2遭跡	25-( 5)	17	174	111	ヨ 古富城【亀固城】	30-(10)	20	169	129
前原城	16-(24)	14	—	—	吉富陣	31-(14)	21	157	135
前山砦	37-( 2)	24	195	163	リ 竜ヶ峯	30-( 9)	20	155	129
牧之城	12-( 1)	13	49	61	龍峯寺城	39-(24)	26	198	177
馬籠庫	39-(12)	25	188	171	ロ 六ヶ城	39-(27)	26	199	177
侯江城	8-( 4)	12	90	49	ワ 和田城	38-( 7)	25	213	166
松尾城	4-(11)	10	72	24-25	藤野	9-( 4)	12	89	52
松尾城	6-( 2)	11	84	44					
松尾城	8-( 2)	11	103	49					

宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書II

発行日 1999(平成11年)3月

編集 宮崎県教育庁文化課

発行 宮崎県教育委員会

印刷 (南)印刷センタークロダ